

平成25年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

- ・ 諮問書 1
- ・ 平成25年度の献血の受入に関する計画（案） 3

【参考資料】

- ・ 平成24年度献血受入計画（平成24年度4～12月）における
取組み状況と平成25年度献血受入計画の策定について
. 13

厚生労働省発薬食0227第72号

平成25年2月27日

薬事・食品衛生審議会会長

西島正弘 殿

厚生労働大臣 田村 憲久

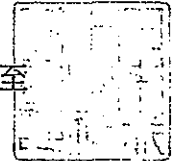
諮 問 書

平成25年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第11条第3項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

血 企 第 4 7 号
平成 25 年 2 月 19 日

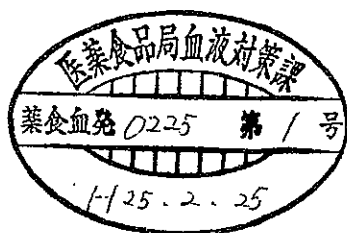
厚生労働大臣 田村 憲久 様

日本赤十字社
理 事 西 本 至



平成 2 5 年度献血受入計画について

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（昭和
3 1 年法律第 1 6 0 号）第 1 1 条第 1 項の規定に基づき提出いたします。



平成25年度献血受入計画について

平成25年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第11条及び同法律施行規則第4条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

1. 平成25年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成25年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去3年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で144万リットル、血漿成分献血で27万リットル、血小板成分献血で35万リットルの合計205万リットルを確保することとします。

なお、都道府県別目標量については、別紙1のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 献血受入の基本方針

① 目標量の確保

平成25年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼働数及び目標量については、別紙2のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL及び成分献血を積極的に受入れます。

② 献血受入体制の整備

献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血及び献血者に配慮した献血受入時間帯の設定等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施します。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り等の環境整備に努め、一層のイメージアップを図ります。

③ 献血者の処遇等の充実

献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては、献血者を丁

寧に処遇し、不快の念を与えることのないよう、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努めます。

また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努めます。

④初回献血者等への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭することはもとより、献血の度毎に献血の手順や献血後に十分な休息をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を充分に行い、献血者の安全確保に努めます。また、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者を配置し、採血副作用の防止に努めます。

⑤検査サービス等の実施

献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績、血球計数検査成績をお知らせします。

また、ヘモグロビン濃度の低値により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

(2) 献血者の確保対策

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者を普及啓発の対象として効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高年齢層の献血受入れについても積極的に推進します。

また、献血の意義等について、国民が広く理解できるように情報を提供することが、献血意識を高めることに繋がることから、血液事業をより理解していただくための各年齢層の広報を継続的に展開し、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤が患者さんへの医療に欠くことのできない善意による貴重なものであることを含めた献血思想の普及啓発を図ります。

特に少子高齢化による若年層献血者の減少を踏まえ、若年層を対象とした取組として体験学習の継続的な実施等、献血への動機付けとしての活動も積極的に推進します。

なお、各都道府県血液センターにおける主な取組は、別紙3のとおりです。

①若年層を対象とした対策

(ア) 若年層全体に対する対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報に努めます。

(イ) 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。

(ウ) 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたこと、文部科学省から各都道府県教育委員会あてに献血に触れ合う機会の受入れについての協力に関する通知が発出されたことから、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等を盛り込んだ統一資材等を用いて、学校へ出向いての献血セミナーを積極的に実施するよう努めます。

(エ) 大学生を対象とした対策

- ・ 献血推進活動を行っている学生献血推進ボランティア組織等と更なる連携を図り、大学生における献血や血液製剤に関する理解、献血体験の促進に努めます。
- ・ さらに、将来の医療の担い手となる医療系・薬学系の学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行ってまいります。

(オ) 10代への啓発として、採血基準の改正により、平成23年4月から男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

(ア) 20歳代後半～30歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血をする機会が減少しているものと考えられることから、その方々に安心して献血していただけるための取組として、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制を整え、親子が献血に触れ合う機会を設けるよう努めます。

(イ) 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」及び「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発

を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血の推進を図ります。

(ウ) 60 歳以上を対象とした対策

この年代は、60 歳を超えたところで献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減少することや健康上の問題等が 要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めます。

献血が出来なくなった 70 歳以上の方についても、個人ボランティアとして献血の推進に支援いただけるよう努めます。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、平成 23 年 4 月から男性に限り 69 歳まで可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

③企業等における献血の推進対策

献血に協賛する企業や団体を募り、社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促します。

④複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努めます。

また、複数回献血者に血液の需要に応じて協力していただくことは、今後の安定的・効率的な献血を実施していくうえで不可欠であり、複数回献血クラブへの加入促進、インセンティブとなる同クラブ会員を対象としたイベントの開催等を積極的に実施します。

併せて、複数回献血クラブ会員の献血履歴を的確に把握し、献血依頼ができるよう運用システムの強化に取り組みます。

⑤献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる 10 代・20 代の若年層献血の推進は、血液事業にとって喫緊の課題であり、広く国民への献血の普及啓発を図るため、通年で実施している LOVE in Action プロジェクトを基軸とし、複数回献血者確保キャンペーン（4～5 月）、愛の血液助け合い運動（7 月）、いのちと献血俳句コンテスト（7 月～12 月）、全国学生クリスマスキャンペーン（12 月）及びはたちの献血キャンペーン（1～2 月）等を連動させながら戦略的な広報を展開します。

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。

今後も献血者本人確認を徹底するとともに、検査目的献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血者には、医療機関からの突発的な要請に対応できるよう、本人の意向を踏まえて予め登録を依頼し、必要時に献血を依頼します。

(3) 200mL全血献血のあり方について

血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで400mL全血献血を基本とし、併せて、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、400mL献血ができない若年層に対して、国、都道府県、学校と連携し「献血セミナー」を実施する等、献血の知識について啓発する取組を積極的に行うとともに、特に高校生等の献血時には、400mL全血献血に不安がある場合は200mL全血献血を推進するなど、出来る限り献血を経験していただくよう努めます。

(4) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保対策を実施します。

(5) 災害時等における危機管理

① 平成23年3月の東日本大震災における全国からの血液製剤の支援実績や教訓を踏まえ、今後も災害時において、献血血液の確保に支障を来さないよう、広域的な需給管理体制のもと、国、都道府県及び市町村と協力して継続的に全国的な献血の推進を図り、円滑な血液供給に努めます。

② 東日本大震災の際には、停電や一般電話回線（携帯回線含む。）の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたため、移動採血車等の燃料の確保も困難となったことから、国、都道府県、市町村及び企業等と協力して、複数の通信手段の確保及び燃料の確保により、災害

時に備えます。

- ③ 広域的な大規模災害の発生に備え、災害時等における献血血液の製剤化に支障を来さないよう、国と協議して必要な設備等の整備を進めます。

(6) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

平成25年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

(単位:L)

No	都道府県名	全 血 献 血			成 分 献 血			合 計
		200mL	400mL	計	血 小 板	血 漿	計	
1	北海道	6,900	78,800	85,700	16,484	3,216	19,700	105,400
2	青森	1,170	14,400	15,570	3,720	1,677	5,397	20,967
3	岩手	1,800	12,160	13,960	3,800	1,756	5,556	19,516
4	宮城	1,851	20,636	22,487	7,087	5,822	12,909	35,396
5	秋田	1,180	12,000	13,180	4,120	1,103	5,223	18,403
6	山形	1,368	11,000	12,368	2,765	1,987	4,752	17,120
7	福島	2,700	21,972	24,672	4,620	2,054	6,674	31,346
8	茨城	3,188	25,432	28,620	6,105	6,999	13,104	41,724
9	栃木	2,827	18,296	21,123	4,820	5,371	10,191	31,314
10	群馬	2,364	21,678	24,042	6,723	2,482	9,205	33,247
11	埼玉	6,116	57,475	63,591	13,397	20,756	34,153	97,744
12	千葉	7,031	59,170	66,201	13,687	13,954	27,641	93,842
13	東京都	8,252	148,541	156,793	46,495	35,937	82,432	239,225
14	神奈川県	1,300	84,308	85,608	17,513	25,214	42,727	128,335
15	新潟	2,258	21,433	23,691	6,479	6,741	13,220	36,911
16	富山	660	10,080	10,740	3,400	1,513	4,913	15,653
17	石川	730	11,840	12,570	3,880	2,648	6,528	19,098
18	福井	562	9,948	10,510	2,368	969	3,337	13,847
19	山梨	770	8,148	8,918	0	4,541	4,541	13,459
20	長野	1,508	17,774	19,282	5,188	5,274	10,462	29,744
21	岐阜	1,280	18,800	20,080	3,872	5,060	8,932	29,012
22	静岡県	1,940	35,080	37,020	9,320	6,994	16,314	53,334
23	愛知	4,100	69,000	73,100	20,600	22,923	43,523	116,623
24	三重	22	14,540	14,562	4,040	5,916	9,956	24,518
25	滋賀	491	13,254	13,745	2,834	2,122	4,956	18,701
26	京都	198	32,890	33,088	7,501	4,990	12,491	45,579
27	大阪	2,796	113,811	116,607	27,050	17,475	44,525	161,132
28	兵庫県	1,640	57,268	58,908	14,470	8,882	23,352	82,260
29	奈良	619	14,727	15,346	4,194	2,300	6,494	21,840
30	和歌山	638	13,500	14,138	3,013	1,312	4,325	18,463
31	鳥取	104	7,032	7,136	2,014	447	2,461	9,597
32	島根	20	6,565	6,585	2,076	528	2,604	9,189
33	岡山	693	23,725	24,418	7,310	2,350	9,660	34,078
34	広島	686	32,124	32,810	13,520	3,376	16,896	49,706
35	山口	278	18,347	18,625	3,244	1,290	4,534	23,159
36	徳島	43	8,974	9,017	2,333	582	2,915	11,932
37	香川	90	11,444	11,534	2,291	1,772	4,063	15,597
38	愛媛	23	16,510	16,533	3,564	1,659	5,223	21,756
39	高知	418	9,554	9,972	2,333	1,031	3,364	13,336
40	福岡	294	64,437	64,731	14,751	8,540	23,291	88,022
41	佐賀	48	8,880	8,928	2,280	3,650	5,930	14,858
42	長崎	476	17,880	18,356	4,280	1,885	6,165	24,521
43	熊本	226	23,328	23,554	4,744	2,656	7,400	30,954
44	大分	332	15,008	15,340	3,404	1,747	5,151	20,491
45	宮崎	207	14,044	14,251	3,633	2,422	6,055	20,306
46	鹿児島	383	20,848	21,231	4,365	1,178	5,543	26,774
47	沖縄	189	17,973	18,162	3,404	4,585	7,989	26,151
合計		72,769	1,364,634	1,437,403	349,091	267,686	616,777	2,054,180

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板採血が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

	血液センター					献血ルーム(事業所・出張所)					移動採血車					オープン献血					目標量合計 (単位:L)	総稼働数
	全血献血	成分献血 血小板	血漿	小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血 血小板	血漿	小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血 血小板	血漿	小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血 血小板	血漿	小計 (単位:L)	稼働数		
北海道	400	4,980	1,210	6,590	312	26,884	11,504	2,006	40,394	2,667	58,416	0	0	58,416	2,930	0	0	0	0	0	105,400	5,909
青森	0	0	0	0	0	5,204	3,720	1,577	10,601	1,089	10,366	0	0	10,366	730	0	0	0	0	0	20,967	1,819
岩手	0	0	0	0	0	2,332	3,800	1,351	7,483	364	11,540	0	405	11,945	861	88	0	0	88	4	19,516	1,229
宮城	0	0	0	0	0	8,020	7,087	5,822	20,929	728	14,073	0	0	14,073	988	394	0	0	394	17	35,396	1,733
秋田	600	1,760	474	2,834	308	3,980	2,360	629	6,969	629	8,600	0	0	8,600	560	0	0	0	0	0	18,403	1,497
山形	0	0	0	0	0	2,216	2,765	1,987	6,968	594	10,152	0	0	10,152	430	0	0	0	0	0	17,120	1,024
福島	988	1,423	319	2,730	312	2,219	3,197	1,735	7,151	674	21,465	0	0	21,465	1,430	0	0	0	0	0	31,346	2,416
茨城	0	0	0	0	0	3,997	6,105	6,999	17,101	362	24,623	0	0	24,623	1,557	0	0	0	0	0	41,724	1,919
栃木	1,000	2,410	2,467	5,877	363	1,220	2,410	2,618	6,248	363	18,693	0	0	18,693	1,192	210	0	286	496	83	31,314	2,001
群馬	0	0	0	0	0	7,980	6,723	2,482	17,185	1,089	15,862	0	0	15,862	970	200	0	0	200	10	33,247	2,069
埼玉	0	0	0	0	0	33,591	13,397	20,756	67,744	2,825	30,000	0	0	30,000	1,813	0	0	0	0	0	97,744	4,438
千葉	0	0	0	0	0	31,301	13,687	13,954	58,942	2,109	29,896	0	0	29,896	1,942	5,004	0	0	5,004	180	93,842	4,231
東京	0	0	0	0	0	88,783	46,495	35,937	171,215	4,866	48,148	0	0	48,148	2,538	19,862	0	0	19,862	1,047	239,225	8,451
神奈川	0	0	0	0	0	43,431	17,513	25,214	86,158	2,818	42,177	0	0	42,177	2,212	0	0	0	0	0	128,335	5,030
新潟	0	0	0	0	0	11,695	6,479	6,741	24,915	1,090	11,996	0	0	11,996	703	0	0	0	0	0	36,911	1,793
富山	0	0	0	0	0	1,034	3,400	1,513	5,947	362	9,706	0	0	9,706	500	0	0	0	0	0	15,653	862
石川	1,760	2,040	1,281	5,081	297	1,570	1,840	1,367	4,777	301	9,240	0	0	9,240	389	0	0	0	0	0	19,098	987
福井	1,506	2,368	969	4,843	312	0	0	0	0	0	8,784	0	0	8,784	376	220	0	0	220	4	13,847	692
山梨	0	0	0	0	0	1,670	0	4,541	6,211	746	7,248	0	0	7,248	383	0	0	0	0	0	13,459	1,129
長野	0	0	0	0	0	3,742	5,188	5,274	14,204	881	15,453	0	0	15,453	832	87	0	0	87	3	29,744	1,716
岐阜	512	1,936	2,530	4,978	313	4,664	1,936	2,530	9,130	625	14,904	0	0	14,904	920	0	0	0	0	0	29,012	1,858
静岡	0	0	0	0	0	6,420	9,320	6,994	22,734	1,235	30,600	0	0	30,600	1,800	0	0	0	0	0	53,334	3,035
愛知	1,080	972	1,166	3,218	295	28,240	19,628	21,757	69,625	2,678	41,670	0	0	41,670	2,290	2,110	0	0	2,110	90	116,623	5,353
三重	520	1,080	1,426	3,026	307	1,422	2,960	4,490	8,872	611	12,620	0	0	12,620	720	0	0	0	0	0	24,518	1,638
滋賀	0	0	0	0	0	2,808	2,834	2,122	7,764	520	10,937	0	0	10,937	622	0	0	0	0	0	18,701	1,142
京都	0	0	0	0	0	10,612	7,501	4,990	23,103	1,073	22,435	0	0	22,435	1,073	42	0	0	42	4	45,579	2,150
大阪	2,763	2,533	1,521	6,817	294	47,195	24,517	15,954	87,666	3,264	62,479	0	0	62,479	3,611	4,170	0	0	4,170	241	161,132	7,410
兵庫	0	0	0	0	0	27,084	14,470	8,882	50,436	2,397	31,376	0	0	31,376	1,668	448	0	0	448	24	82,260	4,089
奈良	1,036	1,490	835	3,361	207	2,323	2,704	1,465	6,492	363	11,987	0	0	11,987	690	0	0	0	0	0	21,840	1,260
和歌山	0	0	0	0	0	686	3,013	1,312	5,011	311	13,452	0	0	13,452	766	0	0	0	0	0	18,463	1,077
鳥取	1,132	934	196	2,262	248	1,264	1,080	251	2,595	216	4,740	0	0	4,740	312	0	0	0	0	0	9,597	776
島根	414	1,661	422	2,497	302	123	415	108	644	153	6,048	0	0	6,048	375	0	0	0	0	0	9,189	830
岡山	1,080	3,379	1,031	5,490	295	3,418	3,931	1,319	8,668	362	19,620	0	0	19,620	970	300	0	0	300	8	34,078	1,635
広島	0	0	0	0	0	6,193	13,520	3,376	23,089	734	26,084	0	0	26,084	1,254	533	0	0	533	26	49,706	2,014
山口	720	2,009	795	3,524	308	1,640	1,235	495	3,370	359	16,105	0	0	16,105	792	160	0	0	160	8	23,159	1,467
徳島	720	700	163	1,583	207	2,377	1,633	419	4,429	350	5,920	0	0	5,920	370	0	0	0	0	0	11,932	927
香川	0	0	0	0	0	3,063	2,291	1,772	7,126	363	8,471	0	0	8,471	380	0	0	0	0	0	15,597	743
愛媛	0	0	0	0	0	3,753	3,564	1,659	8,976	363	12,560	0	0	12,560	537	220	0	0	220	6	21,756	906
高知	0	0	0	0	0	1,420	2,333	1,031	4,784	362	8,552	0	0	8,552	580	0	0	0	0	0	13,336	942
福岡	0	0	0	0	0	20,362	14,751	8,540	43,653	1,724	42,469	0	0	42,469	1,721	1,900	0	0	1,900	77	88,022	3,522
佐賀	2,180	2,280	3,650	8,110	361	0	0	0	0	0	6,748	0	0	6,748	291	0	0	0	0	0	14,858	652
長崎	359	807	66	1,232	245	3,297	3,473	1,819	8,589	623	14,661	0	0	14,661	788	39	0	0	39	0	24,521	1,656
熊本	2,775	2,499	1,472	6,746	305	4,405	2,245	1,184	7,834	314	16,374	0	0	16,374	827	0	0	0	0	0	30,954	1,446
大分	0	0	0	0	0	4,724	3,404	1,747	9,875	363	10,616	0	0	10,616	514	0	0	0	0	0	20,491	877
宮崎	0	0	0	0	0	2,117	3,633	2,422	8,172	365	12,134	0	0	12,134	650	0	0	0	0	0	20,306	1,015
鹿児島	1,670	1,977	569	4,216	294	3,288	2,388	609	6,285	363	16,273	0	0	16,273	810	0	0	0	0	0	26,774	1,467
沖縄	0	0	0	0	0	2,660	3,404	4,685	10,649	364	14,842	0	0	14,842	738	660	0	0	660	33	26,151	1,135
合計	23,215	39,238	22,582	85,015	5,885	476,427	309,853	244,433	1,030,713	45,012	901,115	0	405	901,520	49,205	36,647	0	286	36,933	1,865	2,054,180	101,967

注1. オープン献血とは、献血のベッド等の器材を持参し、事業所や学校の会議室等を会場として行う献血受入れ方式。

注2. 稼働数とは、血液センター・献血ルームでは開設日数を、移動採血車では配車台数を、オープン献血では献血会場数をいう。

平成25年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

別紙2-2

	平成25年4月1日現在の献血受入施設数等について				平成25年度の献血受入施設整備予定について							
	血液センター	献血ルーム (事業所・出張所)	移動採血車	成分採血装置	血液センター		献血ルーム(事業所・出張所)		移動採血車		成分採血装置	
					新設予定数	休廃止予定数	新設予定数	休廃止予定数	増減数	更新数	増減数	更新数
北海道	1	9	17	75	0	0	0	0	0	0	0	0
青森	0	3	4	24	0	0	0	0	0	0	2	0
岩手	0	1	5	23	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城	0	2	6	38	0	0	0	0	0	0	△1	2
秋田	1	3	4	29	0	0	0	0	0	0	0	0
山形	0	1	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0
福島	1	3	8	41	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城	0	3	7	32	0	0	0	0	1	0	0	0
栃木	1	1	6	30	0	0	0	0	0	0	1	0
群馬	0	3	4	35	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉	0	8	10	85	0	0	0	0	0	0	0	0
千葉	0	6	10	80	0	0	0	0	0	1	4	8
東京	0	14	19	191	0	0	0	0	0	2	0	9
神奈川	0	8	12	137	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟	0	3	4	33	0	0	0	0	0	1	0	2
山梨	0	1	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0
長野	0	3	4	36	0	0	0	0	0	1	0	0
富山	0	1	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0
石川	1	1	4	21	0	0	0	0	0	0	0	1
福井	1	0	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0
岐阜	1	2	4	32	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	0	4	9	53	0	0	0	0	0	1	0	0
愛知	1	8	11	118	0	0	0	0	0	0	0	0
三重	1	2	4	29	0	0	0	0	0	0	0	0
滋賀	0	2	4	21	0	0	0	0	1	0	0	0
京都	0	3	6	33	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪	1	12	17	114	0	0	0	0	0	0	0	0
兵庫	0	7	8	78	0	0	0	0	0	1	0	0
奈良	1	1	4	22	0	0	0	0	0	0	0	2
和歌山	0	1	5	11	0	0	0	0	0	1	0	0
鳥取	1	1	2	15	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	1	1	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	1	1	5	30	0	0	0	0	0	0	0	0
広島	0	2	6	44	0	0	1	0	0	1	4	0
山口	1	1	5	21	0	0	0	0	0	1	0	2
徳島	1	1	3	19	0	0	0	0	0	0	0	0
香川	0	1	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛	0	1	4	23	0	0	0	0	0	0	0	0
高知	0	1	3	12	0	0	0	0	0	0	0	1
福岡	0	5	11	65	0	0	0	0	0	0	0	3
佐賀	1	0	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎	1	2	5	21	0	0	0	0	0	1	2	0
熊本	1	0	5	26	0	0	0	0	0	0	0	0
大分	0	1	3	15	0	0	0	0	0	0	0	3
宮崎	1	1	4	14	0	0	0	0	0	1	0	0
鹿児島	1	1	5	24	0	0	0	0	0	1	0	1
沖縄	0	1	3	19	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	21	137	283	1,858	0	0	1	1	1	14	11	34

※平成25年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)について・・・1については、実際に受入を行っている血液センター。

0については、立地条件等の理由により、献血ルーム、移動採血車及びオープン献血により必要な献血者を確保している。

※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

各都道府県血液センターにおける主な取組

①若年層を対象とした対策

No.	具体的対策	対象
1	県内の小学生を対象に保護者同伴のもとキッズスクールを開催し、スライドを用いた献血クイズ及び献血バス等の施設見学を実施することで親子で献血について学んでもらい、将来の献血者確保ならびに保護者の方へ献血の必要性を訴える。	小学生と保護者
2	若年層に高聴取率を誇るラジオ番組とタイアップし、パーソナリティがリスナーへ献血に対する呼びかけ等を行う。	16～19歳
3	県と連携するなどして、献血未実施校に訪問し献血セミナーや校内献血の実施に向けた啓発活動を行う。併せて、献血実施日の前に献血セミナーを行い、献血の重要性を理解していただくことにより、より多くの献血者確保を図る。	高校生
4	学生ボランティア団体主催の献血実施場所において、ボランティアと同世代の若年層献血者の増加を図ると共に献血の啓発を行う。	大学生・専門学生
5	医療を目指す学生に対して、献血セミナーを実施し、献血の重要性や必要性を理解してもらい、率先して献血に協力してもらう。	薬学部及び医学部学生
6	プロスポーツ団体とのコラボキャンペーンにより、試合会場での献血実施やコラボグッズを製作し、若年層を主に対象とした献血者確保を図る。	20歳代
7	献血者にペア献血キャンペーン広報用チラシと持参用カードを配布し、次回協力時に新規献血者とペアで来所した方々に記念品を贈呈し、新規献血者の開拓及び献血者増を目的とする。	10～20歳代

②企業等における献血推進対策

No.	具体的対策	対象
1	献血への協力ができない企業のHPなどを閲覧し、その中でも社会貢献活動をしている企業に対して、電話等により献血の必要性について説明し協力を依頼する。献血協力企業に対しては、グループ企業で献血をしていない企業を紹介してもらい啓発活動を行う。また、3年以上献血協力が遠ざかっている企業に再度献血への協力を依頼する。	献血未実施の企業や献血協力企業等
2	既存団体からの紹介や、特にCSR活動を推進している企業の代表メールアドレス宛に献血協力案内を送るなどして、献血サポーターになっていただける企業・団体を積極的に募る。また、当該企業・団体へのロゴマークの配布も併せて推進する。	新規企業及び団体
3	県・市町村担当者、献血協力団体及び医療機関等と血液の安定供給や献血の現状に関する会議を開催し情報交換を行うとともに、献血者の確保の必要性等を啓発する。	県・市町村、献血協力団体、医療機関
4	各市町村担当者から献血未実施事業所を紹介してもらい、同担当者として事業所を訪問し、血液事業の現状や献血の必要性を説明して新規開拓に努める。	献血未実施事業所

③複数回献血者の確保対策

No.	具体的対策	対象
1	献血会場に複数回献血クラブ会員の非接触型携帯サイト接続ユニット(サイトスタンパー)を設置し、登録しやすい環境を整備することにより、積極的に新規会員を募集する。	献血会場来場者
2	1年以上献血に協力いただいていない方に依頼要請をかけ、複数回献血者への誘導を図る。	休眠献血者
3	高校集団献血を男子校中心(主に17歳男子を対象)に年間2回実施(例年3年生だけ実施の高校で2・3年生を対象として実施)し、若年層の複数回献血者を確保する。	高校生
4	「家庭」を単位とした献血の思想普及を図ることを目的に、そのご家族(本人、子供等)の誕生日に献血していただく呼びかけ等を行い、親子で助け合う心を育むきっかけとし、年間を通して継続的な協力をいただく。	全献血者

④その他の具体的対策

No.	具体的対策	対象
1	事業所での移動献血の際に、献血していただいた55歳以上の方にダイレクトメール等を送付し、定年退職後にもルームで献血に協力していただけるよう推進を図る。	55歳以上の献血者
2	献血の実施と併せてAEDと心肺蘇生法の体験や救護物資の展示等を行い、献血のみならず赤十字活動への参加を促す。	献血希望者
3	単位認定される大学の正規授業において血液事業・献血について深く考える機会を提供し、当該授業を通じた学生の成果を広く活用することで献血啓発に資する。	大学生
4	学生やその保護者及び献血協力団体等に血液センターの施設見学に参加していただき、血液事業の現場に触れることにより、献血の必要性への理解を深め、また献血者の確保に繋げる。	学生、献血協力団体等

平成25年3月1日

平成24年度献血受入計画（平成24年4～12月）における取組状況と
平成25年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

- 1 平成24年4～12月における各都道府県別の血液確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較 別紙1のとおり

- 2 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析

各血液センターにおける献血受入計画（平成24年4～12月：平成24年度の受入計画を3/4したもの）の目標量155.6万Lに対する確保量は153.1万Lで、達成率は98.4%となっており、確保量が目標量を下回っています。

一方、全体の血液確保量153.1万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は145.5万L（確保量に対する使用率95.0%）です。確保量のうち7.6万L（使用量の5.0%）が未使用量としての計上となっておりますが、この中には検査不合格と期限切れが含まれています。

これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、期限切れ等に注視しながら安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果であり、平成24年度も引き続き安定供給が確保されています。

なお、今後も安定供給を確保するため、より精度の高い需給管理と需給調整による有効活用を図ってまいります。

- 3 血液製剤の安定供給等にかかる取組

日本赤十字社の血液事業については、更なる安全な血液製剤の安定供給を確保することとして、平成24年度から広域事業運営体制に移行し、これまでの都道府県単位からブロック（全国7ブロック）を単位とする広域的な需給管理体制を構築しました。

本体制下において、輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組を行っています。

- (1) 血液事業本部の取組

血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する

「献血推進委員会」を設置しています。特に、より高精度な需要予測を図ることを目的として、同委員会の下に「輸血用血液製剤需要予測特別委員会」を設置し、医学的及び臨床的な観点から需要について検証しております。

また、輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、「安定供給促進会議」（原則隔週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

（２）各血液センターの取組

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎月開催）及びその下に「需給計画委員会作業部会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中期的需給計画を策定しています。

特に、ブロック血液センターにおいては、ブロック内の需給状況の把握、需要予測及び需給計画等を検証し、ブロック内地域血液センターに対して指導・調整を行い、安定供給の促進を図っています。

（３）在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前６時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙２）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った都道府県については、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等をブロック血液センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

なお、平成24年度については、注意報水準及び警報水準を下回った事例は発生していません。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

⑤ 更に、赤血球製剤在庫が減少する冬季対策として、各ブロックの赤血球在庫が適正在庫数の120%以上で推移するよう需給管理を図っております。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成24年10月にブロック血液センター需給管理課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、より安定的な在庫の確保に向けて、春季の確保対策については、3月に再度詳細な検証を行う予定としております。

(5) 危機管理にかかる取組

広域事業運営体制に即した危機管理体制への見直しを行い、血液事業危機管理ガイドラインを整備しました。

また、各血液センターにおいては、本ガイドラインに基づいて、危機管理対応マニュアルを整備しております。

4 平成24年度献血受入計画の進捗状況

平成24年度献血受入計画として、核となる対策と取組を血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組の実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報を実施しました。

参考① 青少年ふれあい事業の実施状況（国庫補助事業）

小中学生を対象とした血液センター等の見学等（体験学習を通じ、献血に触れ合う機会の創出により献血への理解を深める）

平成23年度実績 実施回数 597 回、参加人数 37,642 人

平成24年度上半期実績 実施回数 325 回、参加人数 18,444 人

参考② 若年層献血セミナー（国庫補助事業）

10 代後半から 30 代前半若年層を対象に献血への理解促進を図るために血液センターの施設を利用し、セミナー等を開催。

平成 23 年度実績 実施回数 459 回、参加人数 46,183 人

平成 24 年度上半期実績 実施回数 318 回、参加人数 32,328 人

ア. 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての勉強会や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図りました。

イ. 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたこと、文部科学省から各都道府県教育委員会あてに献血に触れ合う機会の受入れについての協力に関する通知が発出されたことから、これまで実施してきた若年層献血はもとより、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等についての勉強会を学校へ出向いて積極的に実施しました。

ウ. 大学生を対象とした対策

献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得て連携を図り、大学生に対して献血や血液製剤に関する理解を深め、実際に献血を体験してもらう取組を行いました。

また、学生献血ボランティアとの更なる連携を図るとともに、その組織基盤の強化にあたりました。

さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行いました。

エ. 10 代に対して、採血基準の改正により、男性に限り 400mL 全血採血が 17 歳から可能となることについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

ア. 20 歳代後半～30 歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、親子で献血に触れ合える機会を設けるため、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制の充実を図りました。

イ. 40 歳～50 歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」、「献血可

能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血者の増加に努めました。

ウ. 60 歳以上を対象とした対策

この年代は、60 歳を超えたところでの献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めました。

70 歳以上の献血が出来なくなった方についても、個人ボランティアとして協力頂き、献血の推進に支援いただけるよう努めました。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、男性に限り 69 歳まで可能となったことについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 企業・団体における献血の推進対策

社会貢献活動の一環として、献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で献血の推進を図りました。

- ・新規協力企業及び団体の開拓
- ・献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

<平成23年度実績>

ロゴマーク配布数1,168件 協賛企業・団体数1,794件

（協賛企業・団体数は事業開始の平成18年度からの累計は47,137件、ロゴマークの配付数は8,781件となっている）

<平成24年度上半期実績>

ロゴマーク配布数1,216件 協賛企業・団体数897件

(3) 複数回献血者確保対策

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行いました。

また、複数回献血クラブ会員の中でも、特にメールを利用した会員の増加に取り組みました。

- ・「複数回献血クラブ」会員の募集を強化

- ・「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施
＜平成24年度上半期実績＞

複数回献血クラブ会員数93,231人

- ＜平成18年度から平成24年上半期までの実績＞

複数回献血クラブ会員数485,809人

- ＜献血実人数に占める複数回献血者の割合＞

（平成23年4月1日～平成24年3月31日実績：32.3％）

（４）目標量を確保するための全般的な対策

（献血受入体制への取組）

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

（広報活動への取組）

- ・通年「LOVE in Action プロジェクト」
- ・7月「愛の血液助け合い運動」
- ・7～12月「第7回いのちと俳句コンテスト」
- ・12月「全国学生クリスマス献血キャンペーン」
- ・1～2月「はたちの献血」キャンペーン

上記の取組を全国で展開しました。この他、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝えるための映像を製作したことから、各血液センターにおいて、講演会や、施設見学時、学校等での上映会を実施し、効果的な広報を実施しました。

（血液センターにおける献血者確保への取組）

- ・複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブ会員へ情報誌の発行や、AED講習会等を実施する他、電子メールを活用した献血依頼を実施。また、リーフレットを作成する等して、新規クラブ会員の確保を実施
- ・需要に応じた400mL献血を推進
- ・需給予測に基づき、固定施設における受付時間の延長や移動献血バスの増車による献血受入等の措置を実施
- ・新規献血協力企業・団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼
- ・学生献血推進ボランティアと連携して、若年層献血者確保対策として大学等における献血を実施

- ・地域の特性に応じてキッズスペースを整備し、親子が献血に触れ合う機会を設け、献血者確保を実施

5 平成25年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成 23 年度供給数の実績と平成 24 年度上半期の供給数を中心に、過去 3 年の供給動向（別紙 3）等から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別（献血ルーム、献血バス、出張採血）の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

・献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組を計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組の積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組は、これまで過去に行ってきた取組の中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成 24 年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙 4 のとおりです。

平成 25 年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙 5 のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組の進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組を月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

各ブロック別血液確保量等一覧（平成24年4～12月）

単位:L

ブロック	都道府県	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		受入計画量	献血量		計画達成率	供給量	原料血漿送付量	計	血液使用率	未使用量	未使用率
		A	B	B-A	B/A			C	C/B	D=B-C	D/B
北海道	北海道	80,516	79,249	△ 1,267	98.4%	43,365	31,572				
	ブロック計	80,516	79,249	△ 1,267	98.4%	43,365	31,572	74,937	94.6%	4,312	5.4%
東北	青森	16,256	15,361	△ 895	94.5%	7,454					
	岩手	14,947	14,064	△ 883	94.1%	7,260					
	宮城	27,247	26,557	△ 690	97.5%	11,605					
	秋田	13,451	14,469	1,018	107.6%	6,151					
	山形	12,836	12,537	△ 299	97.7%	5,914					
	福島	24,230	25,668	1,438	105.9%	11,153					
	ブロック計	108,967	108,656	△ 311	99.7%	49,537	54,243	103,780	95.5%	4,876	4.5%
関東 甲信越	茨城	31,478	29,841	△ 1,637	94.8%	13,107					
	栃木	23,486	23,770	284	101.2%	10,254					
	群馬	24,698	24,283	△ 415	98.3%	12,033					
	埼玉	75,195	73,647	△ 1,548	97.9%	31,352					
	千葉	71,437	71,950	513	100.7%	32,087					
	東京	179,045	175,139	△ 3,906	97.8%	88,514					
	神奈川	95,138	92,250	△ 2,888	97.0%	43,599					
	新潟	28,436	28,170	△ 266	99.1%	11,531					
	山梨	10,502	11,220	718	106.8%	4,198					
	長野	22,763	22,547	△ 216	99.1%	10,046					
	ブロック計	562,178	552,817	△ 9,361	98.3%	256,721	277,012	533,733	96.5%	19,084	3.5%
東海 北陸	富山	11,657	12,152	495	104.2%	5,028					
	石川	15,002	14,827	△ 175	98.8%	6,867					
	福井	10,546	10,260	△ 286	97.3%	5,025					
	岐阜	22,027	22,234	207	100.9%	9,302					
	静岡	40,924	39,986	△ 938	97.7%	17,785					
	愛知	87,300	83,767	△ 3,533	96.0%	38,567					
	三重	18,947	18,228	△ 719	96.2%	7,786					
	ブロック計	206,403	201,454	△ 4,949	97.6%	90,360	99,805	190,165	94.4%	11,289	5.6%
近畿	滋賀	13,627	13,739	112	100.8%	7,223					
	京都	34,199	34,032	△ 167	99.5%	18,576					
	大阪	121,897	117,330	△ 4,567	96.3%	60,055					
	兵庫	63,244	64,833	1,589	102.5%	29,277					
	奈良	16,373	16,635	262	101.6%	8,755					
	和歌山	13,479	13,259	△ 220	98.4%	6,396					
	ブロック計	262,819	259,828	△ 2,991	98.9%	130,282	114,214	244,496	94.1%	15,332	5.9%
中四国	鳥取	7,625	6,915	△ 710	90.7%	3,525					
	島根	7,447	7,541	94	101.3%	3,654					
	岡山	25,155	26,165	1,010	104.0%	13,232					
	広島	37,183	37,116	△ 67	99.8%	18,239					
	山口	17,441	17,634	193	101.1%	8,496					
	徳島	9,510	9,927	417	104.4%	4,090					
	香川	12,295	12,175	△ 120	99.0%	5,525					
	愛媛	17,873	16,627	△ 1,246	93.0%	7,967					
	高知	9,591	9,714	123	101.3%	4,919					
	ブロック計	144,120	143,814	△ 306	99.8%	69,647	65,244	134,891	93.8%	8,923	6.2%
九州	福岡	67,985	65,987	△ 1,998	97.1%	31,186					
	佐賀	11,087	10,970	△ 117	98.9%	3,599					
	長崎	19,019	18,096	△ 923	95.1%	8,263					
	熊本	23,624	24,205	581	102.5%	10,825					
	大分	15,245	14,610	△ 635	95.8%	7,120					
	宮崎	15,937	14,094	△ 1,843	88.4%	7,034					
	鹿児島	20,728	20,649	△ 79	99.6%	9,447					
	沖縄	18,264	17,066	△ 1,198	93.4%	8,753					
	ブロック計	191,889	185,677	△ 6,212	96.8%	86,227	86,957	173,184	93.3%	12,493	6.7%
合計		1,556,892	1,531,495	△ 25,397	98.4%	726,139	729,047	1,455,186	95.0%	76,309	5.0%

※受入計画量は、平成24年度受入計画を3/4したもの。

平成24年4～12月各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
1	北海道	32,080	6,732	145,313	28,955	213,080	14,045	38,377	45,249	52,716	42,498	20,195	213,080
2	青森県	6,620	4,300	24,255	5,987	41,162	3,281	6,928	9,503	10,954	7,888	2,608	41,162
3	岩手県	7,070	3,513	19,709	10,172	40,464	4,075	7,541	9,016	9,331	7,782	2,719	40,464
4	宮城県	12,740	11,513	36,925	7,338	68,516	5,045	15,529	16,357	17,867	10,759	2,959	68,516
5	秋田県	9,070	4,115	21,294	5,436	39,915	3,817	9,167	9,779	9,021	6,342	1,789	39,915
6	山形県	4,883	3,519	18,783	7,765	34,950	4,089	6,504	8,014	8,624	6,116	1,623	34,950
7	福島県	9,685	6,584	40,575	12,289	69,133	3,780	11,737	16,443	18,217	14,321	4,635	69,133
8	茨城県	11,042	9,938	45,364	13,631	79,975	6,336	12,400	17,301	21,718	15,549	6,671	79,975
9	栃木県	8,731	10,181	34,329	11,069	64,310	7,725	11,588	15,839	16,275	9,680	3,203	64,310
10	群馬県	11,186	7,261	36,801	10,414	65,662	6,507	10,801	15,920	18,455	10,616	3,363	65,662
11	埼玉県	27,858	28,112	104,345	28,010	188,325	17,037	36,078	42,783	50,767	29,395	12,265	188,325
12	千葉県	26,955	27,418	110,048	26,638	191,059	16,103	36,759	42,950	51,568	30,746	12,933	191,059
13	東京都	85,146	59,155	266,744	33,905	444,950	26,784	113,022	106,791	115,684	62,076	20,593	444,950
14	神奈川県	33,592	41,748	147,774	7,082	230,196	10,095	40,573	53,316	71,212	39,838	15,162	230,196
15	新潟県	11,472	12,448	38,843	8,928	71,691	4,696	14,722	16,734	18,700	12,820	4,019	71,691
16	富山県	6,341	4,657	17,856	2,234	31,088	1,273	5,868	8,120	8,898	5,177	1,752	31,088
17	石川県	7,744	5,622	21,783	3,114	38,263	1,892	7,433	9,280	10,712	6,597	2,349	38,263
18	福井県	5,022	1,976	17,784	1,884	26,666	1,292	4,411	5,929	7,366	5,664	2,004	26,666
19	山梨県	0	8,110	16,060	3,266	27,436	3,250	4,530	5,720	7,501	4,822	1,613	27,436
20	長野県	8,819	9,996	33,787	6,045	58,647	2,587	9,820	13,944	17,531	11,179	3,586	58,647
21	岐阜県	8,151	9,655	35,298	6,271	59,375	3,496	8,783	13,064	16,853	11,826	5,353	59,375
22	静岡県	15,496	14,080	64,377	7,896	101,849	5,128	16,645	24,791	30,122	18,689	6,474	101,849
23	愛知県	37,438	43,803	127,266	15,378	223,885	12,575	47,441	54,550	61,722	35,547	12,050	223,885
24	三重県	7,477	11,052	26,035	92	44,656	908	6,504	11,134	15,094	8,498	2,518	44,656
25	滋賀県	4,519	3,457	24,924	2,170	35,070	1,217	5,996	8,239	9,842	6,950	2,826	35,070
26	京都府	13,025	10,035	59,659	1,013	83,732	4,134	17,809	17,185	21,526	15,274	7,804	83,732
27	大阪府	52,671	28,947	198,768	12,420	292,806	11,227	52,788	64,523	86,909	52,033	25,326	292,806
28	兵庫県	25,687	19,380	109,374	7,678	162,119	6,689	28,542	36,893	45,963	30,353	13,679	162,119
29	奈良県	8,079	5,247	26,519	2,314	42,159	1,841	7,576	9,198	11,928	8,350	3,266	42,159
30	和歌山県	5,007	2,910	23,799	2,597	34,313	1,879	5,029	7,635	9,707	6,849	3,214	34,313
31	鳥取県	4,041	1,154	11,977	760	17,932	569	3,235	4,840	5,099	3,254	935	17,932
32	島根県	4,364	2,306	12,440	241	19,351	670	3,252	4,905	5,451	3,976	1,097	19,351
33	岡山県	14,360	6,170	44,038	1,810	66,378	2,861	12,036	15,631	18,178	12,565	5,107	66,378
34	広島県	23,495	8,905	59,017	2,875	94,292	4,161	16,437	22,348	27,101	17,286	6,959	94,292
35	山口県	6,510	2,270	35,135	911	44,826	1,393	6,857	10,373	12,661	9,527	4,015	44,826
36	徳島県	5,201	2,698	16,924	284	25,107	841	4,700	6,321	6,688	4,791	1,766	25,107
37	香川県	5,297	2,610	22,386	883	31,176	1,383	5,527	7,628	8,510	5,749	2,379	31,176
38	愛媛県	6,818	3,207	31,681	46	41,752	1,716	6,972	9,908	11,721	8,259	3,176	41,752
39	高知県	4,810	1,444	17,364	2,192	25,810	1,663	4,816	6,144	6,587	4,791	1,809	25,810
40	福岡県	26,409	20,766	114,235	31	161,441	7,601	32,475	37,766	41,824	28,494	13,281	161,441
41	佐賀県	4,143	6,281	16,548	249	27,221	1,209	4,948	6,707	7,203	5,353	1,801	27,221
42	長崎県	8,600	4,573	35,540	1,799	50,512	2,454	9,085	11,861	13,760	9,899	3,453	50,512
43	熊本県	9,307	7,616	43,452	914	61,289	3,028	10,663	14,289	16,181	12,643	4,485	61,289
44	大分県	5,639	3,761	28,358	1,715	39,473	1,688	6,741	10,302	10,847	7,269	2,626	39,473
45	宮崎県	5,723	4,496	26,251	802	37,272	2,175	6,233	9,104	9,663	7,449	2,648	37,272
46	鹿児島県	8,162	5,587	38,259	1,036	53,044	2,718	9,915	13,070	13,902	10,043	3,396	53,044
47	沖縄県	5,855	6,787	29,896	444	42,982	2,285	9,023	12,657	11,140	6,425	1,452	42,982
計		652,340	506,095	2,477,892	308,983	3,945,310	231,198	753,816	920,054	1,079,299	692,007	268,936	3,945,310

血液製剤の在庫状況(血液センター別)

2013/2/15 6:00 AM

単位: (換算本数)

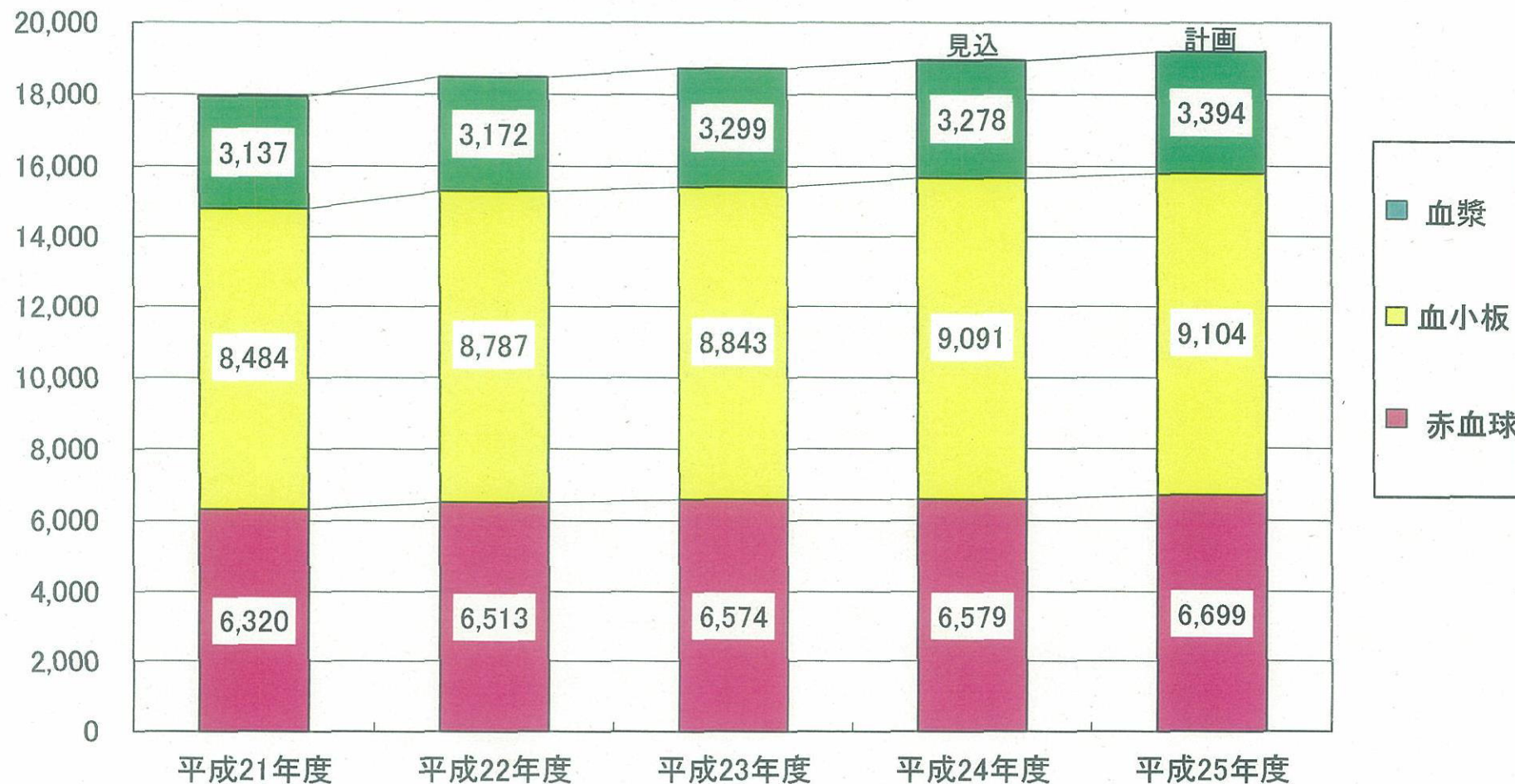
センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				
		適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率	
北海道	北海道	A	1,570	3,045	1,475	194%	富山	A	216	235	19	109%	滋賀	A	250	315	65	126%
	O	1,370	1,819	449	133%	O		162	251	89	155%	O		200	251	51	126%	
	B	1,010	1,845	835	183%	B		108	164	56	152%	B		140	219	79	156%	
	AB	550	937	387	170%	AB		54	67	13	124%	AB		70	90	20	129%	
	合計	4,500	7,646	3,146	170%	合計		540	717	177	133%	合計		660	875	215	133%	
青森	青森	A	260	355	95	137%	石川	A	230	587	357	255%	京都	A	615	677	62	110%
	O	260	313	53	120%	O		200	493	293	247%	O		470	589	119	125%	
	B	170	230	60	135%	B		150	380	230	253%	B		330	485	155	147%	
	AB	70	90	20	129%	AB		70	150	80	214%	AB		155	211	56	136%	
	合計	760	988	228	130%	合計		650	1,610	960	248%	合計		1,570	1,962	392	125%	
岩手	岩手	A	240	314	74	131%	福井	A	190	241	51	127%	大阪	A	1,880	2,896	1,016	154%
	O	250	271	21	108%	O		155	214	59	138%	O		1,470	2,185	715	149%	
	B	150	218	68	145%	B		105	160	55	152%	B		980	2,202	1,222	225%	
	AB	60	56	-4	93%	AB		50	58	8	116%	AB		570	943	373	165%	
	合計	700	859	159	123%	合計		500	673	173	135%	合計		4,900	8,226	3,326	168%	
宮城	宮城	A	400	1,566	1,166	392%	岐阜	A	336	469	133	140%	兵庫	A	1,040	1,226	186	118%
	O	360	736	376	204%	O		252	314	62	125%	O		830	1,468	638	177%	
	B	240	958	718	399%	B		171	247	76	144%	B		570	1,223	653	215%	
	AB	100	338	238	338%	AB		87	156	69	179%	AB		280	375	95	134%	
	合計	1,100	3,598	2,498	327%	合計		846	1,186	340	140%	合計		2,720	4,292	1,572	158%	
秋田	秋田	A	220	272	52	124%	静岡	A	670	1,050	380	157%	奈良	A	270	307	37	114%
	O	210	225	15	107%	O		560	657	97	117%	O		210	275	65	131%	
	B	150	167	17	111%	B		400	603	203	151%	B		150	301	151	201%	
	AB	80	105	25	131%	AB		170	227	57	134%	AB		80	121	41	151%	
	合計	660	769	109	117%	合計		1,800	2,537	737	141%	合計		710	1,004	294	141%	
山形	山形	A	220	235	15	107%	愛知	A	1,353	2,754	1,401	204%	和歌山	A	230	322	92	140%
	O	190	216	26	114%	O		1,074	2,147	1,073	200%	O		205	259	54	126%	
	B	120	172	52	143%	B		738	1,682	944	228%	B		145	217	72	150%	
	AB	60	83	23	138%	AB		345	730	385	212%	AB		80	103	23	129%	
	合計	590	706	116	120%	合計		3,510	7,313	3,803	208%	合計		660	901	241	137%	
福島	福島	A	440	573	133	130%	三重	A	270	374	104	139%	福岡	A	4,285	5,743	1,458	134%
	O	378	502	124	133%	O		220	242	22	110%	O		3,385	5,027	1,642	149%	
	B	246	336	90	137%	B		160	184	24	115%	B		2,315	4,647	2,332	201%	
	AB	106	132	26	125%	AB		70	90	20	129%	AB		1,235	1,843	608	149%	
	合計	1,170	1,543	373	132%	合計		720	890	170	124%	ブロック計		11,220	17,260	6,040	154%	
茨城	茨城	A	1,780	3,315	1,535	186%	鳥取	A	3,265	5,710	2,445	175%	佐賀	A	1,140	1,566	426	137%
	O	1,648	2,263	615	137%	O		2,623	4,318	1,695	165%	O		840	1,107	267	132%	
	B	1,076	2,081	1,005	193%	B		1,832	3,420	1,588	187%	B		560	1,489	929	266%	
	AB	476	804	328	169%	AB		846	1,478	632	175%	AB		280	589	309	210%	
	ブロック計	4,980	8,463	3,483	170%	ブロック計		8,566	14,926	6,360	174%	合計		2,820	4,751	1,931	168%	
栃木	栃木	A	435	572	137	131%	島根	A	145	206	61	142%	長崎	A	150	198	48	132%
	O	380	504	124	133%	O		100	116	16	116%	O		110	152	42	138%	
	B	270	399	129	148%	B		70	149	79	213%	B		80	110	30	138%	
	AB	115	151	36	131%	AB		35	68	33	194%	AB		50	72	22	144%	
	合計	1,200	1,626	426	136%	合計		350	539	189	154%	合計		390	532	142	136%	
群馬	群馬	A	350	480	130	137%	岡山	A	120	174	54	145%	熊本	A	260	330	70	127%
	O	270	351	81	130%	O		90	134	44	149%	O		200	259	59	130%	
	B	180	325	145	181%	B		60	132	72	220%	B		140	264	124	189%	
	AB	90	133	43	148%	AB		30	62	32	207%	AB		70	125	55	179%	
	合計	890	1,289	399	145%	合計		300	502	202	167%	合計		670	978	308	146%	
埼玉県	埼玉県	A	360	512	152	142%	広島	A	450	842	392	187%	大分	A	475	464	-11	98%
	O	290	452	162	156%	O		340	449	109	132%	O		335	375	40	112%	
	B	220	333	113	151%	B		230	437	207	190%	B		235	303	68	129%	
	AB	120	177	57	148%	AB		120	195	75	163%	AB		105	141	36	134%	
	合計	990	1,474	484	149%	合計		1,140	1,923	783	169%	合計		1,150	1,283	133	112%	
千葉県	千葉県	A	1,100	1,543	443	140%	山口	A	620	1,161	541	187%	宮崎	A	250	293	43	117%
	O	900	1,209	309	134%	O		460	659	199	143%	O		190	245	55	129%	
	B	600	1,505	905	251%	B		330	656	326	199%	B		130	169	39	130%	
	AB	300	460	160	153%	AB		160	289	129	181%	AB		70	84	14	120%	
	合計	2,900	4,717	1,817	163%	合計		1,570	2,765	1,195	176%	合計		640	791	151	124%	
東京都	東京都	A	900	1,043	143	116%	徳島	A	380	564	184	148%	鹿児島	A	260	294	34	113%
	O	800	907	107	113%	O		270	312	42	116%	O		200	272	72	136%	
	B	550	914	364	166%	B		190	335	145	176%	B		140	190	50	136%	
	AB	250	266	16	106%	AB		100	157	57	157%	AB		70	100	30	143%	
	合計	2,500	3,130	630	125%	合計		940	1,368	428	146%	合計		670	856	186	128%	
神奈川県	神奈川県	A	2,500	4,465	1,965	179%	香川	A	170	282	112	166%	沖縄	A	380	429	49	113%
	O	2,100	2,842	742	135%	O		120	144	24	120%	O		290	368	78	127%	
	B	1,500	3,945	2,445	263%	B		80	180	100	225%	B		190	247	57	130%	
	AB	700	1,262	562	180%	AB		50	68	18	136%	AB		100	147	47	147%	
	合計	6,800	12,514	5,714	184%	合計		420	674	254	160%	合計		960	1,191	231	124%	
新潟	新潟	A	1,360	1,726	366	127%	愛媛	A	230	424	194	184%	全国	A	260	261	1	100%
	O	1,120	1,346	226	120%	O		160	264	104	165%	O		230	243	13	106%	
	B	760	1,666	906	219%	B		115	229	114	199%	B		140	173	33	124%	
	AB	360	885	525	246%	AB		60	100	40	167%	AB		70	64	-6	91%	
	合計	3,600	5,623	2,023	156%	合計		565	1,017	452	180%	合計		700	741	41	106%	
山梨	山梨	A	420	466	46	111%	高知	A	350	534	184	153%	全国血液型別	A	3,175	3,835	660	121%
	O	350	493	143	141%	O		230	332	102	144%	O		2,395	3,021	626	126%	
	B	280	459	179	164%	B		170	226	56	133%	B		1,615	2,945	1,330	182%	
	AB	155	215	60	139%	AB		90	98	8	109%	AB		815	1,322	507	162%	
	合計	1,205	1,633	428	136%	合計		840	1,190	350	142%	ブロック計		8,000	11,123	3,123	139%	
長野	長野	A	130	150	20	115%	徳島	A	190	280	90	147%	全国血液型別	A	24,615	37,527	12,912	152%
	O	100	184	84	184%	O		140	189	49	135%	O		19,931	27,674	7,743	139%	
	B	60	112	52	187%	B		90	141	51	157%	B		13,813	27,431	13,618	199%	
	AB	30	76	46	253%	AB		50	58	8	116%	AB		6,847	11,307	4,460	165%	
	合計	320	522	202	163%	合計		470	668	198	142%	合計		65,206	103,939	38,733	159%	
愛媛	愛媛	A	330	455	125	138%	高知	A	2,655	4,467	1,812	168%	全国血液型別	A	24,615	37,527	12,912	152%
	O	290	339	49	117%	O		1,910	2,599	689	136%	O		19,931	27,674	7,743	139%	
	B	210	350	140	167%	B		1,335	2,485	1,150	186%	B		13,813	27,431	13,618	199%	
	AB	110	203	93	185%	AB		695	1,095	400	158%	AB		6,847	11,307	4,460	165%	
	合計	940	1,347	407	143%	ブロック計		6,595	10,646	4,051	161%	合計		65,206	103,939	38,733	159%	
徳島	徳島	A	7,885	11,412	3,527	145%	香川	A	230	424	194	184%	全国血液型別	A	24,615	37,527	12,912	152%
	O	6,600	8,627	2,027	131%	O		160	264	104	165%	O		19,931	27,674	7,743	139%	
	B	4,630	10,008	5,378	216%	B		115	229	114	199%	B		13				

全国の赤血球の在庫状況(平成24年度)

2013/2/15 金	RCCLR+照射RCCLR (換算数)						上段: RCCLR1					上段: IR-RCCLR1				
ブロック名	上段: 適正在庫 中段: 実在庫 下段: 過不足数・対過不足率						中段: RCCLR2					中段: IR-RCCLR2				
適正在庫数	過不足率						下段: RCCLR (換算数)					下段: 照射RCCLR(換算数)				
	A	O	B	AB	計		A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500	170%	28	17	16	6	67	461	352	237	133	1,183
	3,045	1,819	1,845	937	7,646		262	105	112	41	520	1,016	620	684	358	2,678
4,500	1,475	449	835	387	3,146		552	227	240	88	1,107	2,493	1,592	1,605	849	6,539
	194%	133%	183%	170%	**											
東北ブロック	1,780	1,648	1,076	476	4,980	170%	0	0	0	1	1	411	321	299	123	1,154
	3,315	2,263	2,081	804	8,463		3	2	8	4	17	1,449	969	883	336	3,637
4,980	1,535	615	1,005	328	3,483		6	4	16	9	35	3,309	2,259	2,065	795	8,428
	186%	137%	193%	169%	**											
関東甲信越ブロック	7,885	6,600	4,630	2,230	21,345	159%	181	157	187	99	624	749	536	641	229	2,155
	11,412	8,627	10,008	3,828	33,875		1,249	1,037	1,277	480	4,043	3,992	2,930	3,313	1,270	11,505
21,345	3,527	2,027	5,378	1,598	12,530		2,679	2,231	2,741	1,059	8,710	8,733	6,396	7,267	2,769	25,165
	145%	131%	216%	172%	**											
東海北陸ブロック	3,265	2,623	1,832	846	8,566	174%	26	17	22	14	79	288	201	190	78	757
	5,710	4,318	3,420	1,478	14,926		491	378	222	91	1,182	2,207	1,672	1,382	602	5,863
8,566	2,445	1,695	1,588	632	6,360		1,008	773	466	196	2,443	4,702	3,545	2,954	1,282	12,483
	175%	165%	187%	175%	**											
近畿ブロック	4,285	3,385	2,315	1,235	11,220	154%	21	16	12	8	57	172	127	159	75	533
	5,743	5,027	4,647	1,843	17,260		310	190	215	64	779	2,465	2,252	2,023	816	7,556
11,220	1,458	1,642	2,332	608	6,040		641	396	442	136	1,615	5,102	4,631	4,205	1,707	15,645
	134%	149%	201%	149%	**											
中四国ブロック	2,655	1,910	1,335	695	6,595	161%	5	3	5	3	16	48	58	36	22	164
	4,467	2,599	2,485	1,095	10,646		13	38	35	15	101	2,194	1,231	1,187	520	5,132
6,595	1,812	689	1,150	400	4,051		31	79	75	33	218	4,436	2,520	2,410	1,062	10,428
	168%	136%	186%	158%	**											
九州ブロック	3,175	2,395	1,615	815	8,000	139%	5	4	17	6	32	146	93	82	62	383
	3,835	3,021	2,945	1,322	11,123		158	115	80	44	397	1,684	1,347	1,343	583	4,957
8,000	660	626	1,330	507	3,123		321	234	177	94	826	3,514	2,787	2,768	1,228	10,297
	121%	126%	182%	162%	**											
合 計	24,615	19,931	13,813	6,847	65,206	159%	266	214	259	137	876	2,275	1,688	1,644	722	6,329
	37,527	27,674	27,431	11,307	103,939		2,486	1,865	1,949	739	7,039	15,007	11,021	10,815	4,485	41,328
65,206	12,912	7,743	13,618	4,460	38,733		5,238	3,944	4,157	1,615	14,954	32,289	23,730	23,274	9,692	88,985
	152%	139%	199%	165%	**											

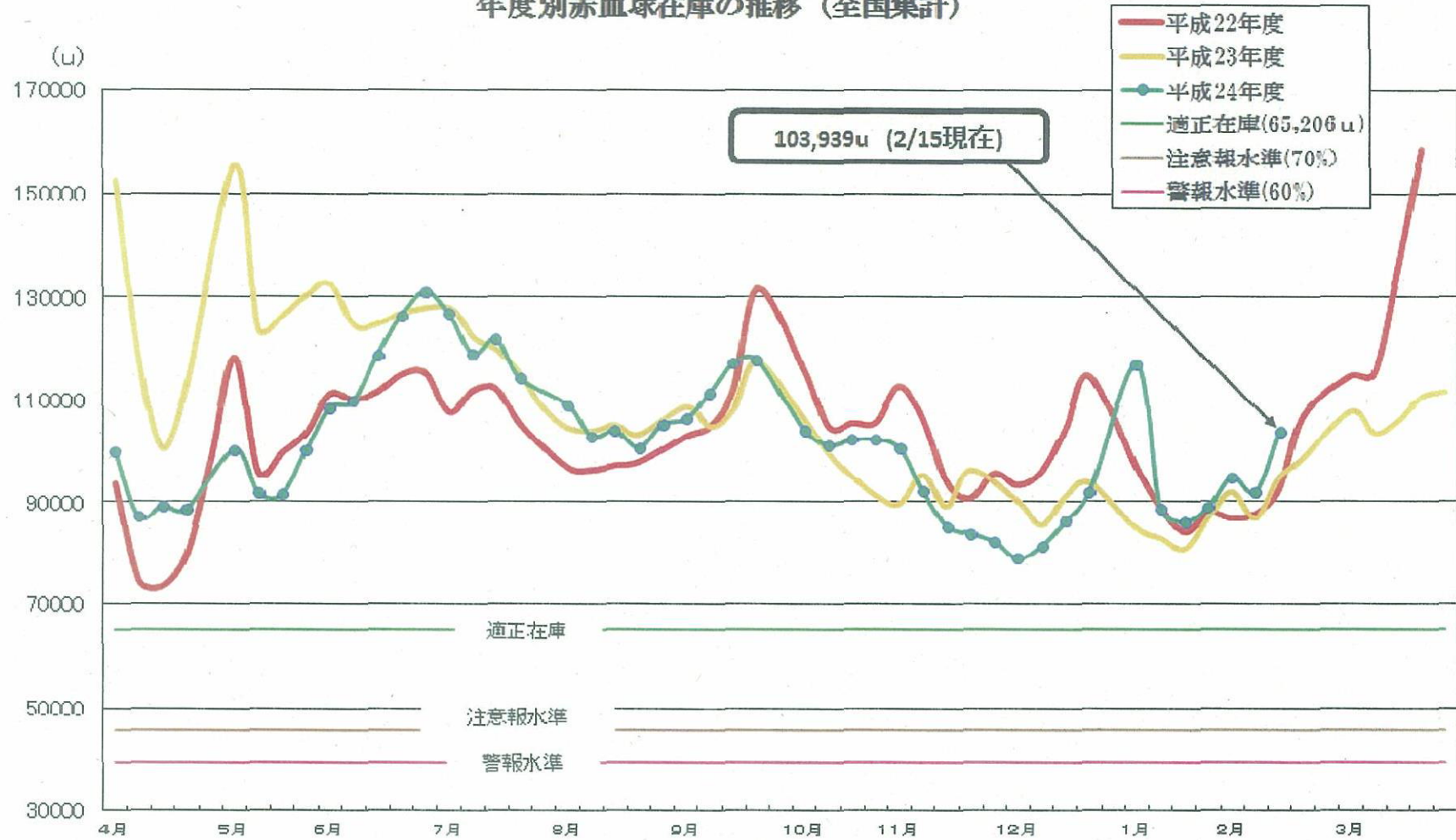
200mL換算
(千単位)

供給動向と供給見込み



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

北海道赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 8.6%	ティーンズドナー献血キャンペーン	継続	16～19歳	11～12月	1	全道献血受入施設	北海道の共同事業で、若年層に高聴取率を誇るラジオ番組とタイアップし、パーソナリティがリスナーへ献血に対する呼びかけ等を行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 9.4%	学生献血推進協議会会議	継続	道内各学生ボランティア	4・8・1月	3	北海道センター	クリスマス献血キャンペーン及びサマー献血キャンペーンの報告会や反省会と併せて血液事業の現状や血液製剤の知識等を養ってもらう。
	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	7月	1	札幌、室蘭、旭川、釧路、函館のショッピングセンター等	学生献血ボランティアがイベント等の催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	1	札幌、室蘭、旭川、釧路、函館のショッピングセンター等	学生献血ボランティアがイベント等の催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
	献血推進ポスター展	継続	デザイン系の専門学校生等	6～9月	1	北海道センター	幅広い献血の啓発を行うため、絵画技術を有する札幌近郊の学校へ、献血広報用ポスターの作成に参加していただく。
その他の目標値 献血セミナー実施目標数 小学校20校、中学校13校 高等学校8校	献血推進講演会(献血セミナー)	継続	小・中・高・短大・大学生	通年	3	山の手高校、武修館高校、医療センター西看護学校他	学校長はじめ教員の理解のもと、1時間程度の献血推進講演を行う。
	施設見学の受入	継続	小・中・高・短大・大学生	通年	随時	北海道センター	血液センターを見学してもらい、血液事業の現状を説明することで、献血の必要性を理解してもらう。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
13件	新規及び待機事業所の開拓・確保	継続	各企業及び献血会場周辺企業	通年	-	各事業所	企業間のネットワークや、ライオンズクラブなどを通して、新規献血事業所及び待機事業所を紹介してもらう。
1回	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ会員	7～11月	1	ホテル講演会場	ライオンズクラブ会員を対象に講演を行い、血液事業の現状を理解いただいた上で、さらなる献血推進をお願いする。
48件	献血サポーター募集	継続	各事業所	通年	-	各事業所	献血協力企業に対して、より一層献血への意識を高めてもらうために、移動採血実施の際に「献血サポーター」への登録を呼びかけていく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

北海道赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 ①複数回献血クラブ会員数を5,000人アップする。 ②新規献血者再来率を20%とする。	①複数回献血クラブの運営	継続	一般の献血者	通年		クラブ案内チラシや非接触型携帯サイト接続ユニット等を有効活用し、積極的に新規会員を募集する。
	②新規献血者に対する再来依頼	継続	新規献血者	通年		新規献血者に対し、ハガキによる要請を行うことにより、再来率の向上を目指す。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

青森県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 4,500人 8.5%	若年層献血者確保対策	継続	県内の大学生	5・6・7・11・12・1月	6	青森県庁	平成24年9月現在で青森県学生献血推進連絡会の参加校が6大学となっているので、不参加の大学を訪問して8大学による連絡会とする。年6回連絡会を開催し、献血の勉強会やキャンペーン等の企画を立案して同年代の献血者の確保につなげる。
	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学学生	4～3月	延べ40	各大学・短期大学	各大学・短期大学の学校献血や学園祭献血において、学生献血推進連絡会の学生ボランティアが中心となり同世代へ呼びかけをする。学園祭パンフレットに広告(有料)を掲載して、推進に努める。
	若年層献血者確保対策	継続	高校生	4～3月	20	献血未実施高校	献血未実施高校を訪問し、献血協力や献血セミナーの実施を依頼する。(平成24年10月末現在85校中、42校実施予定)
	若年層献血者確保対策	継続	高校生	4～3月	延べ60	各高校	平成24年度から25年度にかけて未実施高校を訪問し、献血実施校を増やし、10代の献血者を増やす。
20代の献血者及び献血率の目標値 10,000人 8.5%	若年層献血者確保対策	継続	県内の大学生	5・6・7・11・12・1月	6	青森県庁	上記内容と同様
	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学学生	4～3月	40	各大学・短期大学	上記内容と同様
	若年層献血者確保対策	継続	自衛隊員	1月	3	陸上自衛隊	陸上自衛隊の成人式開催時(3会場)に献血バスを配車し、新成人を中心とした若年層の献血者確保に努める。
	若年層献血者確保対策	継続	薬学部及び医学部学生	4～3月	27	薬剤師会館及び弘前ルーム	医療を目指す学生に対して、献血セミナーを実施し、献血の重要性や必要性を理解してもらい、率先して献血に協力してもらう。(平成24年度は27回実施し163人参加予定)
10・20代の引換券持参献血者 400人以上	若年層献血者確保対策	継続	10・20代	1～3月	1	各献血会場	10・20代の若年層に人気のあるクーポンマガジン(36万部発行)に、記念品引換券の付いた広告を掲載し、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。
5,000人に依頼し8%以上の応諾率(400人以上)	若年層献血者確保対策	継続	10・20代	9～10月	1	各献血会場	16～29歳の献血依頼対象者に封書依頼し、期間中、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。(24年度は5,443通発送し、394人の応諾、7.2%の応諾率)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
25社以上の新規開拓	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施事業所	4～3月	随時	各事業所	市町村担当者から、未実施事業所の情報提供をしてもらい、担当者と一緒に事業所を訪問し、血液事業の現状等を説明して新規事業所の開拓に努める。
延べ540以上の訪問	献血協力団体増加対策	継続	献血実施事業所	4～3月	随時	各事業所	献血実施予定の事業所に対して、市町村担当者と一緒に事前に訪問し、血液の在庫状況やキャンペーン等の案内をして献血者確保に努める。訪問した際には、従業員数などの情報を確認し、配車計画の参考にす。また、周辺事業所にも訪問して、確保にあたる。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
950人以上の新規入会 (平成24年度実績予測数の10%増)	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4月～3月	随時	複数回献血クラブ会員の入会特典として、献血時にリフレクソロジー、整体マッサージ(併せて150回実施)を受けられることを周知し、入会者を募る。封書で一般献血者に依頼する際には、クラブ会員募集のパンフレットを同封する。また、未会員の献血者には、献血終了時にパンフレットを渡して入会を募る。平成25年度は950人の入会で実会員数6,000人を目標とする。
2,400人以上の応諾者	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	随時	随時、複数回献血クラブ会員の献血可能者に依頼メールを送信する。また、月1回、当センターのイベント等の情報を送信する。(年間60,000通の送信で応諾率4%以上を目標とする。)

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
6,000人に依頼し16%以上の応諾率(960人以上)	年齢層献血者確保	継続	30～49歳	5～6月	1	30～49歳の献血依頼対象者に封書依頼し、期間中、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。(24年度は6,436人(メール依頼含む)に依頼し、1,023人の応諾、15.9%の応諾率)
5,000人に依頼し20%以上の応諾率(1,000人以上)	年齢層献血者確保	継続	50～69歳	7～8月	1	50～69歳の献血依頼対象者に封書依頼し、期間中、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。(24年度は11月に実施。4,358通発送し、応諾率20%を見込む)

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岩手県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 前年対比300人の増加	学内献血の実施	継続	学内の学生・職員	通年	140	高等学校・専門学校・大学	県・市町村担当者と訪問し震災前(平成22年度)の実施校105校に協力を要請する。
20代の献血者及び献血率の目標値 前年対比300人の増加	学内献血推進イベント(ライブ&トーク)	新規		10月	1	大学	大学祭の会場で県内のアーティストの参加をいただきトーク&ライブを実施し献血のPRを行う。
	電車内ポスター掲示	新規		通年		JR東北本線 いわて銀河鉄道	通学路線の車輻に献血推進ポスターを掲示し献血のPRを行う。
	献血推進ポスター	新規		上半期		高等学校・専門学校・大学	県内出身のアーティストによるポスターを作成し、学校へ掲示する。
その他の目標値 献血セミナー200名参加	献血セミナー	継続	一般・献血者	1月	1	大型ショッピングセンター	集客の多いショッピングセンターで献血推進イベントの実施。地元ラジオ局とタイアップし公開録音を行い後日、放送する。
	献血ルーム一日所長	新規	主に若年層	8月	1	献血ルーム	県出身のアーティストを献血ルーム一日所長として任命し、若年層を中心に献血を呼び掛ける。
	ラジオCM	新規	主に若年層	冬季	50本		県出身のアーティストから県民(主に若年層)に対し献血への協力を呼び掛ける。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規協力団体10団体の募集		継続	県内の企業・団体	通年			献血未実施団体の発掘

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 3,000人に増加	複数回クラブチラシ作戦	継続	全血献血者	4～3月	通年	献血実施会場で複数回献血クラブ未加入者(特に400mL献血可能の方)にチラシを用いて勧誘する。
その他の目標値 複数回協力者を前年度対比で1%アップする。	献血もう1回 キャンペーン	継続	献血者	11～3月		主に上半期の献血協力者に対しダイレクトメールによりキャンペーンの周知を図る。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容			
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
200mL換算で200本の確保	東北学生夏の 献血イベント	継続		7～8月	2 学生ボランティアによる街頭での献血の呼び掛け。
1会場200mL換算100本	クリスマス献血 キャンペーン	継続		12月初旬～25日	15 各種ボランティア団体による街頭での献血呼びかけ。
1会場200mL換算100本	バレンタイン献血 イベント	継続		2月初旬～14日	10 各種ボランティア団体による街頭での献血呼びかけ。
50万枚	新聞折込チラシ	継続	新聞購読者	通年	300 県内で一番購読者の多い新聞社に献血チラシを折り込むことにより新規献血者の確保に努める。
献血参加者1,000名	献血体験イベント	継続		4月～6月	18 献血体験キャンペーンを実施し献血の必要性和複数回の献血をPRする。
	ラジオによる献血会 場告知等	継続	県民	通年	300 平日の朝、当日の献血会場の告知。献血ルームメッセージノートの紹介。等々

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

宮城県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 構成比7.7%	高校生セミナー実施用ポスター作成	新規(新規)	県内高校97校	年度内	5	県内高等学校	セミナー募集用ポスターを24年度配布し、校内行事予定に反映して置く。また、25年度も作成する。
	セミナー募集の依頼文を送付	継続	県内高校97校	年度初め	1	県内高等学校	学校長あて実施依頼の文書を送付する。
	献血普及用マグネットバー	継続	県内高校97校	年度内		県内各高等学校の各教室	各教室用に有るホワイトボードに啓発用のロゴを入れたマグネットバーを学校に必要性の有無を確認し、各教室にて使用して置く。
20代の献血者及び献血率の目標値 構成比6.7%	ルームへの誘導看板の設置	新規	10代20代中心	年間		仙台駅連絡通路	日50,000人が通る場所で、10代20代へ訴える内容の大型ボード(W800×H1600)を設置し、ルームの場所告知をする。
	ルームへの誘導看板の設置	新規	10代20代中心	年間		一番町地下鉄周辺	地下鉄駅内にルーム周知ボードを設置。内容を若年層向けにする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規50事業所の開拓(県内)	献血企業募集	新規	新規企業	年度	50	県内	新規事業所募集のポスター作成し、保健所と市町村町へ配布する外、新規事業所訪問を保健所市町村と行う。
仙台市内600箇所	企業担当者へのPR	新規	既に実施している仙台市内の企業	年度	約600	県内	企業献血担当者によって採血数が変わることから、献血実施依頼時、感謝のメッセージを載せた文章を作成し配布する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値年360人	会員募集強化キャンペーン	新規	献血者	9月・10月	1	献血者が減少する冬季に、献血依頼要請を円滑に行うため、記念品を準備し新規登録者の確保に努める。	
	血液センター見学会	新規	既会員	11月	1	複数会員に、献血してから患者様へ届くまでを見学して頂き、献血への理解と意欲をさらに高めて頂く。	
	複数回完結クラブメールマガジン	継続	既会員	隔月	6	献血状況やイベント情報等を掲載したメールマガジンを定期的に配信する。アドレス変更時の手順等を配信し、会員減少に努める。	
その他の目標値 月150人	成分献血予約オネガイメール	継続	既会員	不定期		一定期間献血頂いていない方へ、成分献血予約のお願いメールを送信し、献血者の掘り起こしと成分献血の予約数の確保に努める。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

秋田県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 4,600人	sirube献血(献血講話)	継続	高校生	通年	10	高等学校	秋田県の献血について高校生に解りやすく説明し献血についての理解を深め身近に感じてもらう事を目的に実施
	sirube献血(TVCM)	新規	秋田県民	通年	不定期	なし	テレビCMを通じて献血の普及啓発を行う
	sirube献血(ラジオCM)	新規	秋田県民	通年	不定期	なし	ラジオCMを通じて献血の普及啓発を行う
	高校生献血表彰	継続	高校生	通年	1	高等学校	高校生を対象に在学中献血回数5P(200mL:1P、400mL:2P、成分献血:2P)達成者に表彰状と記念品を贈呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 12,000人	sirube献血(献血講話)	継続	警察学校	7月	2	警察学校	秋田県の献血の現状や血液の必要性を解りやすく説明し献血についての理解を深め定期的に献血に協力頂く事を目的に実施
	学生献血推進協議会代表委員会	継続	短大生・大学生	4月・10月	2	ホテル・研修施設	少子高齢化が進む秋田県において学生が主となり献血への理解と必要性を同世代へ伝える事を目的に実施
	sirube献血(TVCM)	新規	秋田県民	通年	不定期	なし	テレビCMを通じて献血の普及啓発を行う
	sirube献血(ラジオCM)	新規	秋田県民	通年	不定期	なし	ラジオCMを通じて献血の普及啓発を行う

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
15,000枚送付で3,000枚応募率(2.0%) ※H23年度より、1.1%増	400mL献血強化のためDM送付	継続	前回400mL献血者	通年		秋田県内献血バス	前回の400mL献血者へのDM送付。 ※平成23年度、19,070枚送付(対象H20～H23)400mL献血者3,611人確保(応募率18.9%)
400mL献血者3,100人確保予定	春の献血強化月間	新規	400mL献血者	4～5月	1	秋田県内献血バス	4～5月の献血者の増加を図るため、特別な処遇品を準備する。 ※H23年度、4～5月の400mL献血者3,186人、H24年度4～5月の400mL献血者3,000人
400mL献血者3,000人確保予定	夏の献血強化月間	新規	400mL献血者	7～8月	1	秋田県内献血バス	7～8月の献血者増加を図るため、特別な処遇品を準備する。 ※H23年度、400mL献血者3,063人、H24年度400mL献血者2,859人
400mL献血者2,800人確保予定	冬期献血強化月間	新規	400mL献血者	11～12月	1	秋田県内献血バス	11～12月の献血者の増加を図るため、特別な処遇品を準備する。 ※H23年度、400mL献血者2,684人

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

秋田県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 年二回以上の実献血者数: 11,000名	イベント実施	継続	献血協力者	4月、5月、8月、11月、12月、1月、2月、3月	8	複数回献血者確保を目的に季節に応じたイベントを開催し献血協力を依頼する。
	複数回献血クラブ会員ポイント制導入	新規	複数回クラブ会員	通年	不定期	複数回献血クラブ会員の特典として献血種類別にポイント数を付けポイントに応じた記念品を準備し複数回献血者確保へ繋げる
	献血感謝祭の実施	継続	献血協力者	7月	1	日頃から献血に協力頂いている感謝の気持ちを込め血液センターでイベントを開催し献血普及啓発を図る

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山形県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度 10代の献血者4,648名→1割増の5,000名を目標とする	出前講座	継続	高校生	6月・10月等	5回	県内高等学校	各保健所献血推進員が学校を訪問し、献血実施日の前に出前講座を行い、献血の必要性を理解していただく。
	施設見学	継続	高校生	10月又は11月	2回	ブロックセンター	今年で3年目となり、養護教諭からも好評であることから、継続事業としてブロックセンターと連携を図りながら実施する。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度 20代の献血者9,056名→1割増の10,000名を目標とする	学生ボランティア打合せ会	継続	大学生等	5月・7月・10月	3回	所内	サマーキャンペーン及びクリスマスキャンペーンの実施について意見交換を行う。
	出前講座	継続	看護学生	9月	1回	学校内	授業の一環として実施。採血及び学術の協力を得て90分、スライド及びDVDを活用し説明する。
	はたちの献血	新規・継続	20代を中心とした年齢層	1月～2月		各献血会場	若年層を中心に地元プロスポーツチームとの献血キャンペーン等の実施する。
その他の目標値 県内中学校10校を目標とする	出前講座	継続	中学生	依頼があれば月に関係なく実施		県内中学校	次世代の献血者育成のため、各保健所と連携をとり希望校があれば、スライドやDVD等で実施。また、時間が少なければ口頭にて実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
県内企業3企業以上の実施を目標とする	企業セミナー	継続	企業職員等	依頼があれば月に関係なく実施	3回	希望企業	献血実施前にスライド等を活用して実施する。建設業等の依頼が多い。
クラブ員献血者数 13,783名	ライオンズクラブ研究会の開催	継続	ライオンズクラブ	10月～11月	1回	150名規模の会場	LC332-E地区58クラブ会員の献血に関する役職より参加してもらい、ガバナーより献血の目標を掲げてもらい1年間のアクティビティとする。
5クラブ以上の実施を目標とする	各ライオンズクラブ例会での出前講座	継続	各ライオンズクラブ	依頼があれば月に関係なく実施	5回	例会場等	研究会とは別に、各地区での例会にゲストスピーチとして参加しスライド等で献血の重要性を説明する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

山形県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 3,962名(平成23年度3,048名の3割増し)	低ヘモグロビン献血者に対する健康相談	継続	学生	平成25年8月1日～26年2月28日	29	高校での献血において、低ヘモグロビン濃度のために献血できなかった献血者に対し、栄養士による食生活や日常生活での相談・アドバイスを行う。
	複数回クラブ会員への依頼メール配信	継続	複数回クラブ会員	随時		複数回献血クラブ登録者に対し、献血依頼メールを送信。献血ルームのキャンペーン時や、献血バスの運行時に付近に住んでいる会員に対して行う。
	複数回献血者キャンペーン	新規	献血者	平成25年7月～9月		献血回数が2回目の献血者に対し記念品を進呈するキャンペーンを行い、献血回数が1回だけの献血者に2回目以降の献血を促す。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血セミナー集客150名を目標とする	献血セミナー	継続	一般・献血者	10月	1回	ショッピングセンター等でマスメディアを活用し、イベントを行う。また、冬を前に実施することで血液の確保に努める。
昨年同実績1割増	学生サマーキャンペーン	継続	学生ボランティア	8月	4～5会場	東北6県合同企画として、2007年より実施。夏、特に8月が不足することから、若者より呼びかけてもらい献血協力を仰ぐ。
昨年同実績1割増	学生クリスマス献血キャンペーン	継続	学生ボランティア	12月	4～5会場	冬期間の血液不足解消のため、12月各会場で実施。
50名の採血＋継続的な協力	プロチーム合同献血	継続	一般・献血者	10月	1回	地元プロサッカーチームとタイアップを行いキックオフ前に献血を実施。選手による呼びかけや、オリジナルグッズを献血実施者へプレゼントするなど大変好評である。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値	献血！私たちからはじめよう	継続	大学生・専門学校生	8月・1～3月	5	福島市・郡山市・いわき市	企画の段階から学生が主体となる参加型のイベントの開催
20代の献血者及び献血率の目標値	献血！私たちからはじめよう	継続	大学生・専門学校生	8月・1～3月	5	福島市・郡山市・いわき市	企画の段階から学生が主体となる参加型のイベントの開催

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1稼働平均2単位増加	事前企業訪問の実施強化	継続	企業および団体	通年	月間10回程度の訪問	県内企業	県・市町村献血担当者と移動採血車の運行計画に基づき事前企業訪問を計画的に実施強化する
新規事業所10社	新規献血協力事業所獲得	継続	企業および団体	通年	10回	県内企業	県・市町村献血担当者和との連携を図り、新規献血協力事業所を獲得する。
10社	献血サポーター獲得	継続	企業および団体	通年	10回	県内企業	県・市町村献血担当者和との連携を図り、新規献血サポーターを獲得する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

福島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 1,000名	複数回献血クラブ登録強化	継続	複数回献血クラブ未登録者	通年	毎月10回程度	街頭献血やイベント開催時に登録勧誘・受付の職員配置する。福島県独自の登録記念品を準備する。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

茨城県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 8,530名 平成23年度実績が8,039名、平成24年度予測実績8,290名あったことから実績に対して2.9%アップの8,530名確保目標とする。	400mL献血推進	継続	高校生	5月～3月	65回	高等学校	確保目標数:1,300名 平成23年度400mL献血者1,223名であったことから、実績に対し6%アップの1,300名確保目標とする。 方策として、採血基準変更に伴う資料等で400mL献血の安全性を説明し400mL献血者に対して記念品を配布する。
	高校献血推進	継続	高校生	6月～7月、9月～11月	20回	高等学校	実施目標数:75校 平成23年度管内実施校64校、実施率51.2%であったことから、8.8%アップの75校(11校増)を目標とする。 方策として、献血未実施高校に出向き献血受入の推進及び校長会、養護教諭の会議で献血の要請をする。
	高校献血キャンペーン	継続	高校生	10月～3月	1回	高等学校・献血ルーム	確保目標数:6,000名 平成23年度高校生の献血者5,389名であったことから実績に対し11.3%アップの6,000名確保目標とする。 方策として、県はキャンペーンのポスター等を募集し、優秀作品には賞状(血液センター所長賞含む)を贈る。また、優秀作品の中から1点チラシを作成し血液センターと協働で全ての高校に啓発する。
	出前講座	継続	高校生	8月、10月～12月	5回	高等学校	確保目標数:10校 平成23年度実施高校は3校であったことから実施校に対して8%アップの10校を実施目標とする。 方策として、血液センターより講師が各学校に出向き出前講座を実施し献血への理解を深めてもらい意識の向上を図る。。また、参加者には記念品を配布する。

20代の献血者及び献血率の目標値 18,470人 平成23年度実績が17,401名、平成24年度予測実績17,936名あったことから実績に対して3%アップの18,470名確保目標とする。	はたちの献血キャンペーンinカレッジ	継続	大学生	1月	1回	大学	目標値:100名 平成23年度の茨城大学では献血者49名の実績であったことから23%アップの60名増の100名を目標とする。また、同時期に筑波大学でも実施し40名の献血者を見込む。 方策として、新たに成人を迎える「はたち」の学生を中心に献血の啓発をする。また、献血協力者には記念品(県より)を配布する。
	献血セミナー	継続	大学生	4月～7月、11月	4回	大学	目標値:4大学 平成23年度のセミナー開催は2大学なので2倍の4大学を実施目標とする。 学内の献血実施日に献血ブースを設けパンフレット等を配布しセミナーを実施する。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	大学生	12月	1回	献血会場・献血ルーム	確保目標数:670名 平成23年度期間中の献血者は593名であったことから77人増の670人を目標値とする。 3ルーム1日5人増×3日間=45名、移動採血1日10名増×3日間=30名、(合計75名)+αで2名 方策として、県内の学生ボランティアが同世代の若者に献血への呼びかけを実施し献血者を確保する。また、大学のサークルに協力を要請しキャンペーン中のイベントを企画する。
	献血者紹介キャンペーン	継続	大学生	通年	1回	水戸・つくば・日立献血ルーム	確保目標数:2,095名 平成24年度(途中)の新規献血者は月平均122名(キャンペーン無)であったことからキャンペーンを実施し40%アップの170名とする。 170名-122名=48名・・・10名増の58名 1ヶ月58名×3人(新規・紹介者)×12ヶ月=2,088名 7名はプラスアルファ 方策として、新規献血者の同伴又は紹介いただき献血の申込をした方に記念品を配布する。血液センターHPIに掲載、大学構内にポスター等掲示でPRする
	初めての400mL献血キャンペーン	新規	大学生	通年	1回	献血会場	確保目標数:3,438名 平成23年度学内献血の400mL献血者実施者は3,161名であったことから11.4%アップの3,438名を確保目標とする。 方策として、400mL献血の意義を理解してもらうポスターを学内及び献血会場に掲示する。 初めての400mL献血協力者には記念品を進呈し400mL献血の推進を図る。

イ. 企業等における献血の推進対策

茨城県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
目標数 30 平成23年度新規事業所は24件であり、その25%アップして30事業所の確保を行う。	新規献血事業所の開拓	継続	新規事業所及び団体	通年	-	各事業所	市町村、団体等と連携し新規事業所の開拓。
目標数 20 平成23年度休眠規事業所は17件であり、その18%アップして20事業所の確保を行う。	献血の休眠事業所の開拓	継続	現在献血を休眠している事業所	通年	-	各事業所	以前献血を実施していたが現在献血を休眠している事業所の開拓。
目標数 26 平成23年度複数回事業所は21件であり、その25%アップして26事業所の確保を行う。	複数回事業所の開拓	継続	献血実施企業	通年	-	各事業所	年1～2回実施の事業所は年2～3回の複数回の協力をもらう。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値110,928名 平成23年度総実献血者65,638名で平均献血回数が1.63回であったことから、目標値を110,928名とし、平均献血回数を1.69回とす	複数回登録献血者推進キャンペーン	継続	献血者	通年	1回	実施目標数:2,000名 複数回献血者確保のため、新規メールクラブ会員を推進し、平成23年度実績1,422名からその40.6%アップとして2,000名の確保を行う。(企業献血、街頭献血時にメールクラブ会員登録会を実施する。)	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

栃木県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度実績 10,495人 献血率 12.1% 平成25年度は11,000人目標 献血率 13.1%	高等学校献血	継続	高校生	通年	80	高等学校	高校生を対象とした学校献血の実施。平成23年度6,771人を平成25年度は6,850人を目標とする。ポスター、チラシによる事前周知の徹底により目標達成を図る。
	初回献血者確保キャンペーン	新規	若年層献血者	通年	1	各献血会場	献血可能となった年齢層へ行政と連携し献血推進を働きかける。中学3年生卒業時にチラシを配布する。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度15,937人 献血率 6.9% 平成25年度は16,500人目標 献血率 7.1%	大学・短大献血	継続	学生	通年	20	大学・短大	大学生を対象とした学校献血の実施。平成23年度2,018人を平成25年度は2,200人を目標とする。ポスター、チラシによる事前周知の徹底により目標達成を図る。
	プロスポーツ団体コラボキャンペーン	継続	若年層プロスポーツファン層	2月	1	各献血会場	プロスポーツ団体とコラボキャンペーンを実施し20代若年層に働きかける。コラボグッズを製作しキャンペーン期間献血者にプレゼント。また、抽選でプロスポーツ団体グッズ等プレゼント。ポスター、チラシを制作し学校、企業等に掲出する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
集団献血等に協力いただける企業・団体1086社を1120社までに増加させる。	休眠・新規企業確保事業	継続	企業担当者	毎月	通年	栃木県内企業	行政・LC等から紹介された献血未実施企業等の団体に対して、血液製剤の需要動向や長期保存できないことなど、情報提供し、献血の意義を理解していただき今後長期にわたる協力関係を築く。
献血サポーターに参加する企業・団体を30社増加させる。	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業担当者	毎月	通年	栃木県内企業	献血協力団体、推進団体に対して、献血依頼時に要綱、広報ちらしを配布し参加を募る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

栃木県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成23年度献血者実績が84,476名で複数回献血者は46,312人であったことから、複数回献血者の確保目標値を49,785名とする。	献血ポイント	継続	献血者	通年	随時	献血種類、曜日等により、ポイントを付与。到達時に記念品と交換。その他不足時等+1ポイント付与による複数回献血の動機付けを図り、目標値達成を図る。平成23年度ポイント引換が4,008人が引換えたことから、献血ポイント引換え者を4,200名以上とする。
	複数回献血クラブ運営	継続	非複数回献血クラブ会員	通年	随時	非会員に対し、積極的に新規会員を募集する。メールによる献血要請依頼。情報提供。組織化、サービスの向上を図る。平成23年度メールクラブ会員率が献血者の6.0%であったことから、10%以上の会員率を目標とする。その為の取り組みとして、スタンパーの積極的な活用及び職員教育を行うこととする。
	平日成分献血確保	継続	献血者	通年	随時	確保の難しい平日の成分献血者を確保するために、記念品引換券を配布する。次回献血への誘導を図る。平成23年度平日成分献血者実績14,793名から、その15,500名の平日成分献血者の確保を行う。増加対策として、引換券の配布方法・デザイン等の検討を行う。
	もう1回献血キャンペーン	新規	献血者	不足時期	随時	再来を促すためのチケットを配布、献血協力者に記念品を贈呈する。平成23年度献血者の平均献血回数が1.60回であったことから、献血者の平均献血回数を1.72回以上を目標とする。
その他の目標値 平成23年度応諾数が月平均614人であったことから、目標値を月650名以上とする。	休眠献血者の掘り起こし	新規	休眠献血者	通年	随時	休眠献血者に対して、依頼要請をかけ、複数回献血者への誘導を図る。月20人以上の献血依頼を行う。
	60歳以上の献血依頼	新規	60歳以上の献血者	通年	随時	年齢の延長により可能となった69歳までの方を対象に依頼要請をかけ、成分献血の確保を図るとともに、複数回献血者への誘導を図る。月20人以上の献血依頼を行う。
	誕生月献血	継続	誕生月献血者	通年	12回	「誕生月の記念に献血を」はがき、メール等により依頼する。平成23年度誕生月献血の応諾率が17.3%であったことから、メールの送信内容、送付タイミング等を工夫することにより応諾率の目標値を23%以上とする。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
キャンペーン会場街頭献血での平成23年度実績数2,961人400mL献血率91.4%、平成25年度は4,000人を確保し91.5%以上を目指す。	400mL献血キャンペーン	継続	献血者	通年	100	400mL献血のみ受け入れ街頭献血会場を設定し、400mL献血キャンペーンを実施する。ホームページやポスターなどで事前周知を図る。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

群馬県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者「7,823人」 献血率「10.3%」 グランドデザイン 平成24年度版及び、事業計画書に基づく、目標(案)から算定した。、10代では23年度実績7657人(10.1%)、24年度(10.2%)、25年度(10.3%)から算定した。 「初回献血者」 若年層献血者確保対策に係る全国会議で示された、平成21年度～平成23年度 年代別初回献血者数・初回献血率及び初回献血者確保目標数案にある群馬県の平成24年度10代初回数値目標の、3年平均×5%増で4,234人であり、平成25年度については、5%増で算出し、211.7人の増の4445.7人を目標とする。	若年層献血協力キャンペーン(出張所)	新規	専門学校生 予備校生	都度	年6回	出張所	平成23年度 献血ルームの全体の16歳から19歳の割合は5.2%である。それを献血者確保目標の6.4%(中期目標)まで増加させる。(ルーム全体で年間約600人) 各ルームのお知らせポスターにキャンペーン情報を記載し、近隣の高校、専門学校、大学、予備校等30校(各ルーム10校)を訪問し、状況説明と掲示をお願いし、若年層献血者に特別記念品を付与。
	若年層献血者確保イベント(出張所)	新規	若年層	都度	都度	高崎出張所	若年層に人気のある占いを平日の月曜日～金曜日まで実施し、200名の参加を目標とする。 現在、月1回(2011年8月～)占い師の方のボランティアによって実施しており、時間は、14:00～17:00で、曜日は、その都度変更している。 2012年9月現在、304名実施した。 16歳から19歳の割合は、17.4% 20歳から29歳の割合は、31.3% 16歳から29歳の割合は、48.7%で約半分近くを占めている。 いかに若者に人気があるのかがうかがえる。 また、月1回ではなく、週1回または、この曜日にしてほしいという要望も寄せられているため企画した。
	ベア献血(出張所)	新規	若年層	通年	通年	太田出張所	献血者にベア献血キャンペーン広報用チラシと持参用カードを配布し、次回協力時に新規献血者とベアで来所した方お二人に記念品を差し上げることで、新規献血者の開拓及び献血者増を目的とする。 確保目標240組(月20組予定) 一般の献血協力者との記念品や接遇格差が生じないよう考慮し執り行う。
	若年層献血セミナー(演奏会協賛セミナー)	継続	若年層	2月	1回	演奏会会場	2月に若年層献血セミナーを実施する(パンフレット作成、記念品を付与)

20代の献血者及び献血率の目標値 献血者目標「15,687人」 献血率「8.3%」 20代については、23年度実績15,179人(8.0%)、24年度(8.1%)、25年度(8.3%)から算出した。 「初回献血者」 若年層献血者確保対策に係る全国会議で示された、平成21年度～平成23年度年代別初回献血者数・初回献血率及び初回献血者確保目標数案にある群馬県の平成24年度20代初回数値目標は、3年平均×7%増で2,218人であり、平成25年度については、7%増で算出し、155.26人増の2373.26人と算出した。 その他の目標値 若年層献血者確保対策の一環として、小学生及び中学生に対しても献血の意義理解の促進を図ることとし、将来にわたる若年層確保につなげる。 <親子献血教室> 30組60名の参加 <献血推進資材配布> 県内の中学校175校への配布	はたちの献血キャンペーン	継続	若年層	1月	1回	イベント会場、移動採血車	1月の県主催のイベント会場において、移動採血車を配車し、2,000個のカイロを作成配布し啓発を行う。
	ザスパ草津「春のキャンペーン」	継続	若年層	5月	1回	移動採血車、各出張所	5月の試合会場に移動採血車を配車、各出張所を含めたイベントを実施し、推進ポスター同様デザインのクリアファイルを作成して献血者に進呈する。22年度実績から、試合会場→60名の献血者を確保する。各ルーム(1週間)→1,000名の献血者を確保する。
	ザスパ草津献血応援スペシャルマッチ	継続	若年層	10月	1回	献血推進試合会場、移動採血車、各出張所	10月の献血推進試合に移動採血車を配車、各出張所を含めたイベントを実施し、献血応援グッズ、コラボ記念品を作成して献血者に進呈する。前年度実績から、試合会場→3,000人の観客数に対して、60名の献血者を確保する。各ルーム(1週間)→1,000名の献血者を確保する。
	パナソニックワイルドナイツ「応援キャンペーン」	継続	若年層	12月または1月	1回	移動採血車、各出張所	前年度実績から、試合会場→2,400人の観客数に対して、60名の献血者を確保する。各ルーム(1週間)→1,000名の献血者を確保する。献血応援グッズ、コラボ記念品を作成して献血者に進呈する。
	親子献血教室	継続	小学5・6年生とその保護者	8月	1回	血液センター(前橋赤十字病院、埼玉製造所を含む)	8月に親子献血教室(30組60名)を実施し、県及び前橋市広報・情報誌、ホームページ等に周知し参加者を募る。教室終了後に参加者に向けアンケートを実施する。アンケートに「献血可能年齢に達した際に実際に献血へ行く」などの、「親子献血教室が献血推進に有効である」と思料される回答を参加者の80%以上から得る。
若年層献血推進資材作成		新規	中学3年生	2月から3月	1回	県内中学校	20,600部のクリアファイルを県内中学生に配布する目的で、中学校へ郵送し、さらに教育委員会から各中学校へ配布依頼文を通知してもらう。県内の中学校175校への配布を目標とする。

イ. 企業等における献血の推進対策

群馬県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的なかつ詳細に記載すること)
平成23年度の実績が3社、平成24年度の実績が現在2社であり、平成24年度目標が239社と示されているが、活動がほぼないため、渉外時に50社、各出張所(3ルーム)で月1社で3×12月で年36社、献血推進課で月3社×36社、合計で122社とし、平成25年度については、前年の平成23年度目標数120社を先ずは達成したく目標値とした。	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体等	通年	通年	県内全域	渉外時、前年度に献血功労表彰した各献血団体及び、実績が優良企業等を対象に、「献血サポーター」に参加・協賛いただくよう50社を目標とし推進を図る。
	新規献血協賛企業の取得(出張所)	新規	企業・団体等	通年	通年	出張所	各出張所において、新規の献血協賛企業を募集し、3ルームにおいて、毎月1社(年間12社)の新規社を募集し、献血増加を図る
	新規献血の事業所・団体開拓プロジェクト	新規	企業・団体等	通年	通年	県内全域	県内3ブロックに分け、3チーム月/1か所の新規開拓を目標とし、積極的に活動を行い、36社(3社×12月)を目標とする。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

群馬県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 献血メールクラブ新規登録者は平成22年度実績では、1,738件で、平成23年度実績では、2,088件であり、その9.2%アップとして2,300名の確保を目標とした。(本年の状況は、10月5日現在数値1,086件で23年度同様の推移と予測した)	「献血ポイント キャンペーン」(出張所)	継続	県民	通年	通年	献血の種類別にポイントを付与し、達成者に特別記念品をすることで、複数回献血者の増加を図る
	「献血ポイントUP キャンペーン」(出張所)	新規	県民	都度	都度	再来成分献血の確保を目的に、献血者減少の時期に、更に1ポイントUPで付与し再来献血者の確保を図る
	複数回献血者確保(出張所)	継続	県民	都度	都度	2月3月の時期に、平日の献血者確保目的にリフレクソロジー施術による献血者の確保を行い、複数回の献血協力を図る。
	複数回献血者対象イベント(出張所)	継続	県民	都度	都度	複数回の献血協力を図るため、ショッピングセンターの映画館で250名の参加を募る映画鑑賞会を実施し、複数回献血者を抽選で招待する(前橋出張所)
その他の目標値 リピートキャンペーン目標値 120人	リピート献血者確保キャンペーン(出張所)	新規	県民	通年	通年	かわいいいご当地けんけつちゃんをクイズにして、献血に興味や関心をもってもらい、また、クイズにすることにより遊び感覚で献血に協力して頂く。 年間4回実施して、正解者の中から抽選で記念品を配布し、当選発表は、ルーム内に掲示することによって再来していただき、複数回献血者・リピータの定着及び確保を図る。(高崎出張所)
シニア献血者確保 600人	シニア献血者確保(出張所)	新規	県民	通年	通年	事業所で移動献血の際に献血していただいた方にダイレクトメール等を送付し、定年後でリタイアした後にルームでの献血協力への推進を図る

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度同様の目標値を設定し 6,000人	街頭献血キャンペーン	継続	県民	通年	通年	街頭献血での全血献血強化キャンペーンを実施し献血者確保を行う。(記念品を付与)
本年7月8月実績で全血献血については、対実行計画の▲1,149単位と大きく低迷した状況であった。 次年度は、移動採血班での街頭・40人	愛の血液助け合い運動 キャンペーン	新規	県民	7月から8月まで	1回	献血者が減少する7月1日から8月31日までの2ヶ月間、当該運動キャンペーンを実施し献血者確保を行う。(記念品を付与)
前年度同様の目標値を設定し 5,000人	400mL献血限定キャンペーン	継続	県民	通年	通年	街頭献血で400mL献血限定キャンペーンを実施し、400mL献血者の確保を行う。(記念品を付与)
前年度同様の目標値を設定し 400人	年末・年始献血キャンペーン	継続	県民	年末・年始	1回	年末・年始期間に献血キャンペーンを実施し、献血者確保を行う。(記念品を付与)(移動採血車、各出張所)
前年度同様の目標値を設定し 1,260人	バレンタイン献血キャンペーン	継続	県民	2月	1回	献血者が特に不足する2月の献血者確保を行う。(記念品を付与)
前年度同様の目標値を設定し 4,350人	400mL献血強化キャンペーン(出張所)	継続	県民	都度	年3回	献血者の確保が困難な時期(年3回程度)に、更なる400mL献血の協力を図り特別記念品を付与。
前年度同様の目標値を設定し 3,120人	午前中血小板献血予約 キャンペーン(出張所)	継続	県民	通年	通年	血小板成分献血者を対象として、予約献血者に対して特別記念品を付与し安定的な血小板献血者の確保を図る
前年度同様の目標値を設定し 1,300人	サマー献血キャンペーン (出張所)	新規	県民	夏期	1回	夏期の献血協力者減少時期に、アイスクリームを提供し、顧客満足度向上を図り献血者確保を図る(前橋出張所)
前年度同様の目標値を設定し 2,500人	献血ルームリニューアル キャンペーン	新規	県民	4月から5月まで	1回	献血ルームのリニューアルを記念し更なる献血者確保を図る(記念品を付与、太田出張所)

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

埼玉県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度実績が20,930名であったことから、実績に対し5%アップの22,000名を目標とし、献血率を8.6%とする	若年層献血セミナー	継続	小、中、高校、専門学校生等	年間	未定	実施学校訪問	目標実施回数15回とし、センター顧問が相手先を訪問し、パワーポイントにより、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。
	17歳の400mL献血推進	継続	高校生	通年	105校	高等学校	平成23年度17歳の400mL献血者1,526人であったことから、4.8%アップの1,600人目標とする。また、高校献血の実施回数については、103校であったことから、2校増の105校の実施を目標とする。献血未実施校について、県・市町村・血液センター3者による高校訪問を実施し、校内献血及び献血ルームにおける献血啓発を行う。
	卒業献血キャンペーン	継続	高校3年生	2月～4月	随時	各献血ルーム	公立高校及び私立高校の卒業生57,000人全員にチラシの配布とポスターの掲示依頼。
	テレビ埼玉による献血PR放送	新規	若年層	7月	1回	テレビ埼玉	若年層(特に高校生)に対して、県予選大会の高校野球放送の中で献血のCMを流し、将来の献血基盤となる10代、20代の若年層献血への広報、特に高校生の献血普及啓発を行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度実績が45,309名であったことから、実績に対し6%アップの48,000名を目標とし、献血率を5.7%とする	クリスマス献血キャンペーン	継続	若年層	12月23日	1	イベント実施会場	キャンペーン内容を周知するため県内全域に届くFM放送の活用と学生献血推進連盟の学生にボランティアとして参加していただき、連携を強化し若年層への献血参加を呼び掛ける。イベントでは埼玉西武ライオンズ選手とのトークショーや献血クイズなどを開催する。
	学生献血推進連盟主催による献血キャンペーン	継続	若年層	4月・8月・10月	3	イベント実施会場	学生献血推進連盟の立案による若年層を対象としたキャンペーンを実施する。確保目標は、4月の今年度実績151uは受入時間や受入体制から限界と思われるため今年度同様150uを目標とする。8月の今年度実績は100uであり、天候等が影響したため25年度は30%アップの130uを目標とする。10月の今年度実績は123uであり、日程の調整を行い5%アップの130uを目標とする。
	大学内での献血実施の強化	新規	大学生	通年	70～90	大学内	学生献血推進連盟のメンバーを中心に1会場につき5名～10名の学生ボランティアを依頼し、前日のPR活動や当日の広報活動を行い学内献血の強化を行う。
	学生献血推進連盟新人研修合宿	継続	大学生	8月	1	ブロックセンター埼玉製造所及び研修会場	学生献血推進連盟に加盟した大学生を対象に製造所の見学やDVDの視聴、講演を行い、献血に関する情報や知識を得ることを目的とする

その他の目標値 10代の新規及び初回献血者を平成23年度比で5%アップの11,500人、20代の新規及び初回献血者を平成23年度比で6%アップの7,300人を目標とする。	浦和レッズ献血協力ポスター作成	継続	若年層	10月	1回	県内各献血会場	浦和レッズの協力をいただき、献血推進通年用ポスターを作成し、県内の全高校、大学を中心に献血団体、医療機関等県1000カ所に掲示する。
	埼玉西武ライオンズ献血協力用ビデオ作成及び通年用ポスター作成	継続	若年層	4月	1回	県内各献血会場	埼玉西武ライオンズの協力をいただき、通年用ポスターの作成と西武ドーム・献血ルーム・血液センターホームページで放映する献血協力用ビデオの作成。ポスターは、各市町村をはじめ、高校・大学等約1,000カ所に掲示する。
	大宮アルディージャ献血協力ポスター作成	新規	若年層	9月	1回	県内各献血会場	大宮アルディージャの協力をいただき、献血推進通年用ポスターを作成し、県内の全高校、大学を中心に献血団体、医療機関等約1000カ所に掲示する。

イ. 企業等における献血の推進対策

埼玉県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成23年度の献血協賛企業の登録数は109団体に対し、約40%アップを目標とした150団体の登録を目標とする	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年	都度	未定	献血協力団体に対し、少子高齢化に伴う血液製剤の需要増加や献血可能人口の減少、血液製剤の使用状況について情報提供を行い、献血協賛企業登録を依頼する

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成24年度10月5日時点で総会員数「31,647人」のところ総会員数「40,000人」を目標に新規会員を「10,000人」確保する	メールクラブ新規会員募集キャンペーン	継続	メールクラブ未加入献血者	7月から9月 1月から3月	2回	今年度目標数8,400人に対し12%アップの10,000人の新規会員を確保する。移動採血会場では400mL献血の会員を積極的に確保し、献血ルームでは若年層を中心に会員の確保を行う。この取り組みとして、前回の移動採血会場での献血者に対し送付している依頼ハガキにポイント制等会員特典を強調した会員募集を掲載する。また、事業所向け募集パンフレットを作成し配布する。若年層の確保としては、友人紹介等のキャンペーンを行う。

エ. その他

埼玉県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
イベント参加人数の内、AED、心肺蘇生法の参加人数を100人とする	赤十字ふれあい広場	継続	一般	5月	1回	献血の実施及びAED&心肺蘇生法の体験や救急物資の展示等を行い、赤十字活動への参加を促す。平成24年度の献血参加人数が209名だったことから、平成25年度では6%アップの220名を目標とする。
高校生を含む学生の献血者数を平成23年度実績の31,381人から、約8%のアップを目標とする。	埼玉県若年層献血啓発キャンペーン	継続	高校生を含む学生	3月	1回	埼玉県在住又は通学の高校生を含む学生による参加型のイベントを開催し、若者が助け合い協力し合って何かをやるという視点から、より効果的な献血の啓発活動を行う。
献血者確保計画に基づくキャンペーン期間中及びイベント実施日において約10%アップの献血者確保を目標に県内全域に周知を行い、イベント集客数の増強と献血者の確保を行う。	FM NACK5による献血PR放送	継続	若年層	キャンペーン期間中	都度	地元FM局NACK5に於いてキャンペーンの周知CMや血液不足時の献血案内スポット放送を行う。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

千葉県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標 (対平成23年度実績)	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者を(平成23年度実績の17,656人)から3%増加530人を(平成25年度目標18,185人)目標値とする	10代献血者確保事業	継続	10代の献血可能者	通年	都度	全献血会場	若年層の献血者を確保増加させるため、献血セミナー実施数増加・学生献血推進協議会員を増員強化・複数回献血くらぶ会員の増強活用を図り目標値を達成するよう努める。
	献血啓発ポスター募集事業	継続	中学・高校生	5～10月(募集～発表)	1	県下全域対象	献血啓発ポスター県内応募校93校(中学80校・高校13校)を10%増加の102校とし、応募件数618件(中学541件・高校77件)を10%増加の680件を目標値とする 県薬務課と連携し県教育委員会より県立高校125校(市立11校・私立58校)は県薬務課より依頼)及び54市町村教育委員会(中学校)へ依頼文で献血啓発ポスターを募り、入賞(10名)作品を広報誌掲載や作品をデザインしたグッズなどを作成し献血啓発に繋げる。
	献血セミナー	継続	高校生	9月～2月	7	県内高等学校他	平成23年度実績(高校4校・専門学校1校の計5校)を7校に増加し、受講生1,077人(高校生677人・専門学生400人)より10%増加の1,088人を平成25年度目標1,185人を目標値とする 県内高等学校(全194校)にアンケートを実施し、献血の実施・献血セミナー等の実施要望を確認しながら、県薬務課と連携し県教育委員会からも県立高校(125校)校長あて依頼していただき献血セミナー実施・献血啓発に繋げる。
20代の献血者を平成23年度実績の47,219人から3%増加の1,416人を(平成25年度目標48,635人)目標値とする	20代献血者確保事業	継続	大学・短大・専門学校	通年	3	学域会場(大学・短大)	若年層の献血者を確保増加させるため、献血セミナー実施数増加・学生献血推進協議会員を増員強化・複数回献血くらぶ会員の増強活用を図り目標値を達成するよう努める。
	グループ献血キャンペーン	新規	大学・短大生	通年	3	学域会場(大学・短大)	平成23年度実績10,766人、3%増加の323人を達成するため、360グループを登録(3人1組)で応募率30%に設定し108グループ(3人1組)を目標値とする 3人1組で参加いただき、代表者に本人宛のはがきを直筆で記入していただき次回献血日程に合わせて本人に発送し、当日、本人・友人・知人等(3人以上)で献血会場にお越しいただく
	リレーキャンペーン	新規	社会人	10月～3月末	-	移動採血職域会場	平成23年度職域(初回)献血者4,794人から5%増加の250人で、平成25年度目標5,044人を目標値とする。 職域献血会場で紹介者カード5,000枚を配布し紹介率5%(250人)を目標とする。対象は新規又は1年以上間隔の開いた方を紹介いただく記念品を両名に差し上げて新規開拓に繋げる。
その他の目標値 学生献血推進協議会員115名から10%増員の127名を目標値にする	献血呼びかけ強化	継続	大学・短大・専門学生	通年	-	ショッピングセンター等	各大学長あての学生ボランティア加入推進の依頼文(大学43校・短大7校・専門学校8校)を提出し加入促進を図りながら、学生ボランティア加入用パンフレット20,000枚を作成し各献血会場(大学43校・短大7校・専門学校8校)で配布を行う。また、学生主催のイベント(サマー・クリスマスキャンペーンのほかハロウィン・バレンタイン・ホワイトデーキャンペーン)を実施しながら地域・街頭献血でも活動しながら、若年層への啓発に繋げたい。

イ. 企業等における献血の推進対策

千葉県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標 (対平成23年度実績)	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血会場の確保(30会場)	新規献血会場の確保	継続	企業等	年間	-	新規献血会場	推進課員の新規開拓訪問及び、献血推進団体(LC等)と連携を取りながら新規献血会場を確保していきたい。
臨時献血要請可能な企業(職域)の確保(10会場)	臨時要請可能企業	継続	企業等	下半期	-	職域献血会場	血液確保が安定している職域献血会場(自衛隊・空港警備隊・県庁・市役所等)で、血液不足時に臨時対応可能か事前に確認し、可能な会場は準備日数に何日必要か、通常使用しているスペースを使用できない場合の代替スペースはあるか、何人協力できるか、スタッフは何人必要か、社内承認を取るの何日必要か等をシミュレーションし即対応できるよう努める。
献血実施増回会場の確保(30会場)	献血実施増回会場の確保	継続	企業等	下半期	-	職域献血会場等	血液不足が深刻になる下半期に、平成23年度実績1回2回実施上位50会場から年1の会場(15会場)は2回、年2の会場(35会場)は3回に増回依頼し、目標の30会場を確保し下半期の安定確保に繋げたい。年3回・4回実施している会場は当然上位になるが通常開催の増回は難しく、臨時対応でのお願いになるため今回の上位50会場には含まれていない
新規献血サポーター協賛企業100社登録を目標値にする	献血啓発ポスター作成	継続	献血協賛企業	10月頃から掲出	-	献血協賛企業	献血協賛企業のスポーツチームを啓発ポスターに起用し献血協力の促進を図るとともに、献血協賛企業を紹介することで各協賛団体の献血協賛(献血サポーター登録)への参加を促し、すでにサポーター登録企業・団体には血液不足が生じた際は積極的に協力、支援をお願いする

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 年間2回以上の献血者を 平成23年度実績の46,619人から 11.9%アップの52,900人を確保する。	複数回献血促進	継続	複数回献血くらぶ 会員	下半期(10月以降)	随時	複数回献血くらぶ会員が、平成25年度中に年間2回の献血をしていただいた時点でオリジナル記念品を進呈する。メール、ホームページ及び献血ルーム内にて告知をする。確保目標10,000人	
	複数回献血くらぶ 新規会員確保	継続	未登録者	通年	随時	複数回献血くらぶの新規会員を増やすことを目的として、会員登録をされた方にオリジナル記念品を進呈する。ホームページ及び、献血ルーム、移動採血現場にてチラシ、簡易看板等でPRする。新規確保会員20,000人とする。平成24年度期末会員予定数26,000人+20,000人=46,000人よって複数回献血くらぶ会員全体の43.5%を増加させる。	
	定期依頼要請	継続	依頼可の献血者	通年	随時	週1回各ルーム毎に献血履歴のある成分献血可能者に要請ハガキを送る。また、年2回以上実施する移動採血で前回献血していただいた方に献血実施案内ハガキを送る。平成24年度上半期実績より、成分献血依頼100,000人とし応諾率21%とする。免許センター全血依頼20,000人とし応諾率7.8%とする。推進課支援用の移動採血での依頼180,000人応諾率24.4%(平成24年9月実績)とする。	

エ. その他

千葉県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標 (対平成23年度実績)	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
冬期(10月～3月末)の間、平成23年 度実績400mL献血者22,660人から 3%増の23,340人(680人)を目標値と する	冬期の献血者確保	継続	期間内移動採血 会場献血者	下半期	-	限定グッズを用意して、期間内の実施会場に事前PR(職域献血会場にポスター掲示・チ ラシの配布依頼(約3週間前)地域献血会場SC等は会場と協力団体にポスター掲示・チ ラシの配布依頼(約3週間前)・センターHP等を活用して前年同時期より400mL献血者を3% 増加させる。
年末年始(12月25日～1月10日の間) の平成23年度実績400mL献血者 3,594人から3%増の3,702人(108人) を目標値とする	年末年始の献血者 確保	継続	期間内移動採血 会場献血者	12月25日～1月10日	-	限定干支グッズを用意して、期間内の実施会場に事前PR(職域献血会場にポスター掲示・チ ラシの配布依頼(約3週間前)地域献血会場SC等は会場と協力団体にポスター掲示・チ ラシの配布依頼(約3週間前)・センターHP等を活用して前年同時期より400mL献血者を 3%増加させる。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

東京都赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値:7.2% 23年度 7.2%	高校セミナー実施	継続	高校生	通年	10	学校や区の施設、区民館等	献血への理解を深めていただくため、学校を訪問し、セミナーを実施。(参加者計 1000人以上)
	高校献血の推進	継続	高校生	4～12月	10	学校	既存の高校献血の増回や、紹介等を介し新規高校献血を確保する。(計 680人以上)
	複数回献血クラブの推進	継続	高校生	通年	常時	各献血会場	10代の献血者へ複数回献血クラブ加入を推進。(新規加入者目標2400人)
20代の献血者及び献血率の目標値:8.6% 23年度 8.5%	複数回献血クラブの推進	継続	短大・大学生、社会人	通年	常時	各献血会場	20代の献血者へ複数回献血クラブ加入を推進。(新規加入者目標13400人)
	若年層献血者確保	継続	短大・大学生	3月	1	明治神宮	毎年行われる日本ラクロス協会主催の献血に大学生が多数来場されるが、事前の説明会等でより多くの動員と複数回献血クラブに加入していただくようお願いする。(献血者目標650人)
	大学献血の推進	継続	短大・大学生	4～12月	165	学校	既存の大学献血の増回や、紹介等を介し新規大学献血を確保する。(献血者目標8675人)
	大学セミナー実施	継続	短大・大学生	通年	10	大学や区の施設、区民館等	献血への理解を深めていただくため、大学を訪問し、セミナーを実施。(参加者計480人)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規、掘り起こし団体を60会場確保	献血協賛企業活動推進	継続	企業および団体	通年	常時	各企業や事業所等	既存団体からの紹介や、特にCSR活動を推進している企業の企業代表メールアドレス宛に献血協力案内を送る、パンフレットを持参し企業へ訪問する等により確保する。
増回団体を50会場確保	協力団体増加対策	継続	企業および団体	通年	常時	各企業や事業所等	既存団体へ献血の現状や需給状況などの資料を用いて説明を行い増回を提案、確保する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

東京都赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
対未登録者数割合15%以上を携 帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保 事業(携帯メールク ラブ推進)	継続	400mL献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献 血を継続していく。
O型献血者未登録者の20%を携 帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保 事業(携帯メールク ラブ推進)	継続	O型献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献 血を継続していく。
AB型献血者未登録者の20%を携 帯メールクラブに加入推進す る。	複数回献血者確保 事業(携帯メールク ラブ推進)	継続	AB型献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献 血を継続していく。
複数回献血クラブの新規登録者 4万8千名確保を目標とする。	新規登録キャン ペーン	継続	複数回献血クラブ 未加入の献血者	通年	常時	平成23年度における東京都内の複数回献血クラブ会員の複数回献血の割合は 41.4%であった。このため、継続して会員数増加に重点を置いた対策を推進していくこ ととする。
献血者一人当たりの年間平均献 血回数2回以上を目標とする。	複数回献血クラブ ポイント制	継続	複数回献血クラブ 登録者	通年	常時	複数回献血クラブシステムの機能により献血することによりポイントを付加することによ り、複数回献血の推進を図る。平成23年度における東京都内の実献血者の献血数 は1.6回であり、複数回献血クラブ会員の献血回数増加を図ることによって、全体の底 上げを図ることとしたい。
複数回献血クラブ会員の依頼に 対する応諾率は成分献血20%、 全血献血は10%を目標とする。	献血依頼Eメール 配信	継続	複数回献血クラブ 登録者	毎月	12	採血種別・血液型別に、会員に対して献血依頼Eメールを配信する。メール配信者数 の増加を図っていくことにより、安全な血液の安定的確保に資することを目的とする。
依頼に対する応諾率10%以上を 目標とする。	献血ルーム案内は がき(ダイレクトメー ル)の発送	継続	一定期間未献血 者(複数回献血ク ラブ会員以外)	毎月	12	Eメール送信対象外の献血者に対してダイレクトメールを送付することで、複数回献血 に繋げていくこととする。
依頼に対する応諾率30%以上を 目標とする。	移動採血会場案内 はがき(ダイレクト メール)の発送	継続	前回、同献血会場 に來所した献血者	随時	12	特に、地域・街頭等の移動採血場所を中心に、定期的な献血への協力を依頼する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
成分献血の40%以上を事前予約 により確保する。	成分献血予約	継続	成分献血可能者	通年	12	特に、複数回献血クラブの予約機能による予約受付を強化することで、安定的な予約 献血者確保に繋げる。
参加者目標: 計100組200名以上	体験型学習	継続	児童および保護 者、その他学生	通年	10	献血を身近に感じてもらうことを目的として、血液センター施設に招待し学びの機会を 提供する。
授業参加者30名以上	産学共同事業	継続	大学生	上半期	1	単位認定される大学の正規授業において血液事業・献血について深く考える機会を 提供し、当該授業を通じた学生の成果を広く活用することで献血啓発に資する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

神奈川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 18,000人 献血率 5.5% 平成23年度実績 11,747人 50%増を目標とする	高校への献血セミナー	継続	県内高校生	随時	10校	県内高校(公立・私立)	県薬務課との連携により県内各高校にセミナー案内文の配布。校長会による周知等により、献血セミナーを通じて高校献血や高校生の献血ルームへの誘導を図る。
	大学献血の増加	継続	大学生	随時	132回	各大学	ボランティアフェスティバルの参加学生を中心に校内での広報支援等および実施回数の増加を図る。 大学献血実績 H23年度 23校110回、H24年度 27校117回、H25年度 132回予定
20代の献血者及び献血率の目標値 77,000人 献血率 7.3% 平成23年度実績 54,546人 40%増を目標とする	プロスポーツチームとの協働	継続	県民及びサポーター	随時	5回	各試合会場	横浜マリノス・川崎フロンターレ・湘南ベルマーレとの協働によるファン感謝デーの参入や試合会場での献血実施。また、イベントでの献血PRや献血ルームへの誘導施策の実施をするとともに各プロスポーツチームのHPにて掲載を依頼する。
	大学献血の増加	継続	大学生	随時	132回	各大学	ボランティアフェスティバルの参加学生を中心に校内での広報支援等および実施回数の増加を図る。 大学献血実績 H23年度 22校110回、H24年度 25校117回
平成24年度実績11校参加 20%増の13校参加を目標とする 平成23年度 学生420人参加 平成24年度 学生430人参加	ボランティアフェスティバル in KANAGAWA	継続	県民一般	10月	1回	日本丸パーク	参加大学の代表者に対し献血セミナーにより、献血の必要性・重要性を認識してもらい、ボランティア活動として献血のPRをしてもらうことにより、若年層の普及を図る。 また、学生ボランティアを通じて参加大学の増を図る。
平成24年度実績204校から応募 5%増の215校を目標とする	献血の絵ポスター展	継続	県内小中学生	夏休み期間	1回	献血表彰式展にて入賞者表彰および作品展示	県薬務課との連携により県内各小中学校あて案内文を配布。作品の返却時に各学校の教員に対し、平成25年度での応募を働きかける。
平成24年度実績288人参加 10%増 320人参加を目標とする	夏休み小中学生親子献血教室	継続	小中学生と保護者	夏休み期間	2回	県民サポートセンター／横浜駅西口ルーム／神奈川県センター	血液センターが講師を担い県と共催していることから、県薬務課との連携により県内各小中学校あて、夏休みの宿題として取り上げられるよう案内文を配布し各学校に対し参加依頼を行う。参加校の増加目標達成のためポスターおよびFMヨコハマ等により周知を図る。

イ. 企業等における献血の推進対策

神奈川県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規20社(団体)	献血実施企業や団体を通して新規紹介	新規	献血実施企業団体	随時	通年	県内企業・団体	献血実施企業・団体からの紹介やホームページ等を活用し、関係企業・団体を新たに紹介いただくと共に、献血サポーターロゴマーク配布も併せて推進する。
献血推進団体会合への出席20回程度 平成24年実績10回程度	献血推進団体の会合への出席	継続	ライオンズクラブ、ロータリークラブ等	随時	随時	団体の会合場所	推進団体の月例会等会合に積極的に参加し、献血への理解促進と地域に根差した献血推進活動への協力依頼をおこなう。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 81,000人 平成23年度実績53,000人及び平成24年度採血計画から66,000人を平成24年度見込み目標としており、平成24年度の22.7%アップの確保目標とする。	献血ルーム登録者への献血協力依頼葉書送付	継続	全血献血登録者のうち依頼対象献血ルーム献血を採血希望場所に指定(登録)している方	4月～3月	年12回	依頼期間内に献血実施予定を献血ルームに採血希望(登録)している方で、全血登録者11万人へ葉書による依頼を行う。平成24年度実績から7,500人(約7%)の確保目標とした。	
	献血登録者へ街頭献血協力依頼葉書送付	継続	全血献血登録者のうち依頼対象街頭献血を採血希望場所に指定(登録)している方	4月～3月	年12回	依頼期間内に献血実施予定の街頭献血会場を採血希望場所に指定(登録)している方で、全血登録者11万人へ葉書による依頼を行う。平成24年度実績から7,500人(約7%)の確保目標とした。	
	献血メールクラブ会員への献血要請	継続	血小板・全血献血登録者のメールクラブ会員	4月～3月	適宜	メールクラブ会員への献血要請(主に緊急確保が必要な場合)Eメールにより依頼を発信する。平成23年度実績赤血球7回 717人、Rh(一)6回 51人、血小板 5回 159人依頼	
	成分血漿登録者への献血要請	継続	成分血漿登録者	6月～7月、2月～3月	年2回	夏期及び冬期に原料血漿確保をおもな目的として長期間の要請期間を設定し、登録者20,000人に対し依頼を行い、5,000人の献血者を確保する(応諾率25%)。なお、依頼対象及び内容を精査することにより、前年度からの増加を図ることとする。(平成23年度実績応諾者4,500人応諾率25%)	
その他の目標値 ポイントカードについては、平成23年度実績27,500枚であり28,700枚の回収目標とする。再来カードは、平成23年度実績3,300枚であり3,450枚の回収目標とする。	複数回献血協力者確保用ポイントカード(ドナーカード)の発行	継続	全ての献血登録者	4月～3月	随時	複数回献血協力者確保用ポイントカード(ドナーズカード)を作製し、継続協力者に特典を与える。	
	複数回献血協力者確保用献血再来カードの発行	継続	全献血協力者	4月～3月	随時	全血献血を主体としている神奈川県運転免許試験場内の献血ルームでの全血献血者を、成分献血主体の神奈川県内の献血ルームへの誘導を行う。なお、カードデザインの検討及び配布方法の改善により前年度からの増加を図ることとする。	

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に記入して下さい	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成23年度実績4,500人であったことから、実績に対して200%アップ新規会員9,000人の確保を確保目標とする。	新規献血メールクラブ会員の募集	継続	献血協力者全員	随時対応	随時	献血後の献血者に、ポスター・チラシ等で周知し、非接触型サイト誘導装置(サイトスタンパー)を使用して会員確保する。
平成23年度20,000人の葉書依頼、4,000人の確保、平成23年度同件数の依頼とする。	年末年始対策葉書依頼	継続	全血及び成分献血登録者	全血 12月1日～1月20日 成分 12月26日～1月5日	年1回(2回)	年末年始対策として全血及び成分献血登録者に葉書依頼を行う。成分登録者へは、主に年末年始期間中の血小板確保対策として献血予約の依頼を実施する。
平成23年度12,000人の葉書依頼、1,200人の確保実績であり、実績に対して8%アップの1,300人確保を目標とする。	ゴールデンウィーク対策葉書依頼	継続	全血献血登録者	4月27日～5月10日	年1回(2回)	平成25年度は、従来から行ってきたゴールデンウィーク対策を行い、全血登録者に葉書依頼をして血液確保に努める。ゴールデンウィーク前後に各1回、合計2回の献血依頼を行う。(平成23年度応諾実績1200人・応諾率10%)。なお、依頼対象者の選択において、前回実績等のデータを参照することにより、前年度比8%の応諾率向上を目指すこととする。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

新潟県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度実績6,960人に 対し、同数の6,960人を目標とする。	献血セミナー	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	12回	各高校、大学、専門学校	H23年度実績11回、高校生1,782人、他学生40人、合計1,822人 県高等学校長協会研修会・性教育研修会等において協力を依頼する。
	本社キャンペーンと連動したイベント	継続	県民(主に若年層をターゲットにする)	7月、1月	2回	集客の見込めるSCもしくはイベント会場	若年層がメインリスナー層である県域FM局とタイアップして、学生ボランティアから参加いただき若年層に人気のある著名人を招き、献血に関するトークを行う。来場者参加型の公開録音を行い、収録内容を若年層の聴取率の高い時間帯に放送する。
	献血バス配車	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	63回	各高校、大学、専門学校	H22年度実績69回、3,138人からH23年度実績63回、2,733人に減少し、生徒数も減少しているため、H23年度実績の維持に努める。
	献血推進活動	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	8回	イベント会場、学校、街頭献血会場	平成23年度実績6回、241名のボランティアから協力をいただいた。献血セミナー等を通じて高校のボランティア部に働きかけ、年間8回の活動を目指す。
	雑誌等を活用した広報	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	6回	新潟県内全域	雑誌、フリーペーパーにより献血PR及び呼びかけを行う。内容は同世代からの若者や著名人からの献血呼びかけとする。
	JRデジタルサイネージを活用した広報	継続	通勤にJRを利用する高校生・大学生・専門学校生	6月、11月、2月	6回	県内主要JR11駅	映像メディア「J・ADビジョン」を利用し、県内11駅を対象に動画及び静止画により献血PRを行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成23年度実績 21,190人に対し、同数の 21,190人を目標とする。	献血セミナー	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	12回	各高校、大学、専門学校	H23年度実績11回、高校生1,782人、他学生40人、合計1,822人 県高等学校長協会研修会・性教育研修会等において協力を依頼する。
	本社キャンペーンと連動したイベント	継続	県民(主に若年層をターゲットにする)	7月、1月	2回	集客の見込めるSCもしくはイベント会場	若年層がメインリスナー層である県域FM局とタイアップして、学生ボランティアから参加いただき若年層に人気のある著名人を招き、献血に関するトークを行う。来場者参加型の公開録音を行い、収録内容を若年層の聴取率の高い時間帯に放送する。
	献血バス配車	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	63回	各高校、大学、専門学校	H22年度実績69回、3,138人からH23年度実績63回、2,733人に減少し、生徒数も減少しているため、H23年度実績の維持に努める。
	献血推進活動	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	8回	イベント会場、学校、街頭献血会場	平成23年度実績6回、241名のボランティアから協力をいただいた。献血セミナー等を通じて高校のボランティア部に働きかけ、年間8回の活動を目指す。
	雑誌等を活用した広報	継続	高校生・大学生・ 専門学校生	通年	6回	新潟県内全域	雑誌、フリーペーパーにより献血PR及び呼びかけを行う。内容は同世代からの若者や著名人からの献血呼びかけとする。
	JRデジタルサイネージを活用した広報	継続	通勤にJRを利用する高校生・大学生・専門学校生	6月、11月、2月	6回	県内主要JR11駅	映像メディア「J・ADビジョン」を利用し、県内11駅を対象に動画及び静止画により献血PRを行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

新潟県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体5社	効率的採血の確保	継続	県内事業所及び団体	通年	都度	各事業所	H23年度実績は新規会場16社、新規協力団体3社であった。県及び市町村、新潟県献血推進協議会等に支援いただき、新規献血協力企業・団体5社の開拓を達成する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 平成23年度末7,107人に対し、 H24年度上半期実績702人 (9.9%)増になっていることから、 H25年度目標を10,000人とする。	複数回献血者 確保対策	継続	複数回献血クラブ 未登録者	通年	都度	若年層向けの雑誌等を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に登録してもらえようキャンペーン等も実施する。定期的にエラー会員に対して再登録を促すハガキを郵送する。	
	複数回献血者 確保対策	継続	年1回の献血者	通年	都度	毎月初の定時発信やキャンペーン毎の情報提供により複数回献血を促す。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
メルマガ登録会員の平成23年度末2,104人に対し、H24年度上半期実績293人(13.9%)増になっていることから、H25年度の目標を3,000人とする。	携帯・電子メールサイトによる広報	継続	「トクだね！こまち」サイト利用者	通年	都度	情報サイト「とくだね！こまち」を活用し情報掲出を行う。年6回プレゼント企画によりメルマガ登録会員を確保し、会員対象に献血キャンペーン情報を発信する。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山梨県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代20代の献血者増 平成23年度 10代 3640人 (献血率10.2%) 平成25年度 10代 3939人 (献血率11.0%) 平成23年度 20代 6510人 (献血率7.9%) 平成25年度 20代 6970人 (献血率8.5%)	若年層献血セミナー	継続	高校生・大学生	6・7・8・9・11・12	12回	血液センター及び各会場	県下高校・大学生にセミナーの実施 平成23年度 280人 平成25年度 500人 高校出張出前講座を積極的に(高校集団献血渉外時にセミナーも依頼する)、大学生にも行事(学祭等)での理解と協力を促す。
	高校献血全校実施 (年間2回実施も含め)	継続	高校生	5・7・8・9・10・11・12・ 1・2月	県内41校 48回実施	各高等学校内	高校生献血者数の増加 平成23年度 2,408人 平成25年度 2,600人(約8%アップ) 将来の献血者確保を図るために全高等学校(全日制)での献血を実施する。男子校や実績の多い高校から年間2回実施をお願いする。
	高校集団献血時に 400mL献血推進	継続	高校生・養護教諭	5・7・8・9・10・11・12・ 1・2月	県内41校 48回実施	各高等学校内	集団高校献血の400mL率のアップ 平成23年度 57.5% 平成25年度 65% 各高等学校の献血・渉外時、保健主事及び養護教諭に対して400mL献血の必要性を繰り返し説明し、理解と協力をいただくこととする。
	大学構内献血実施 キャンペーン	継続	大学生	4・5・6・9・10・11・1月	県下7大学 20回	各大学構内	大学生献血者 平成23年度 1,959人 平成25年度 2,100人(約10%アップ) 大学構内献血では、3人組み献血キャンペーンや各大学の学生献血推進連絡会による献血呼び込み等を中心に依頼する。
	学生献血推進 連絡会主催献血	継続	大学生	8・11・12月	3回	ショッピングモール	平成23年度 269人 平成25年度 300人(約10%アップ) 学生献血推進連絡会主催による年3回の街頭献血を実施する。
	若年層献血者 確保対策事業	継続	10代・20代の 若年層	12月末～1月初め	15回	献血ルーム ショッピングモール	キャンペーン中10代・20代献血者数 500人を目指す。 平成24年度より若年層献血者確保対策として、FM局を利用し年末年始10代20代の若年層に献血を呼びかける。

ウ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成24年度年間334団体実施。献血者の少ない団体や断られた団体8団体(約100人)中止。新規10団体(約300人)増を予定							
献血協力企業・団体を(過去に行っていた団体を含む)5社増加させる。	新規献血者の確保	継続	企業及び団体	4月～3月	5社	各事業所等	保健所・市町村等に紹介をいただき新規事業所の開拓を行う。前年度比較で5社増加の150人を目標とする。
年間1回の献血実施団体を年間2回依頼する(5団体)	複数回献血実施団体の増加	継続	企業及び団体	4月～3月	10団体	各事業所等	30人以上献血者の10団体に年2回の献血依頼をする。そのうち5団体からの協力を得ることにより150人の増加を図る。
企業献血でDM・携帯メールの応諾率30%維持する	企業献血の推進	継続	企業及び団体	4月～3月	約30社	各事業所等	事業所の献血者3,000人へDM・携帯メールによる献血依頼。前年度同様の900人の献血者確保を目標とする。
会社に配車していない献血団体15社の小規模事業所へ、献血依頼を行い(新規団体は3団体)移動献血車を配車する	小規模団体の掘り起し	継続	企業及び団体	4月～3月	40社	各事業所等	小規模事業所へ直接移動献血車を配車し、1日1台で3か所の移動献血を行う。1社当たり10人～15人の確保を目指し、前年度同様の180人を確保する。
平成24年度上半期現在66団体の献血サポーターを20団体増やす	献血サポーターの増加	継続	企業及び団体	4月～3月	100団体	各事業所等	献血渉外時100団体以上にコンタクトを取り、20団体の新規サポーター企業を確保する。サポーターになった団体(20団体)には、献血依頼はもとより献血しない時でも献血情報等を届ける。

エ. 複数回献血協力者の確保対策

山梨県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血協力者を平成23年度27.3%から平成25年度は30%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	市町村及び企業での献血経験者	通年	150	市町村及び企業へのDM・メールを8000人に依頼し、本年度上半期の応諾率約35%(2800の維持を目標とする。
複数回献血協力者を平成23年度27.3%から平成25年度は30%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	献血ルームで過去2年間1度の献血者	通年	1	献血ルームで過去2年間1度の献血者(地区限定)約1000人に対し献血依頼。前年度同様の応諾率約20%(200人確保)を目標とする。
複数回献血協力者を平成23年度27.3%から平成25年度は30%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	移動献血における初回献血者	通年	都度	初回献血者に、次回献血できるタイミングでお礼ハガキを送付しその上での献血依頼。年間約2000人対象。前年度同様の応諾率約30%(600人確保)を目標とする。
複数回献血協力者を平成23年度27.3%から平成25年度は30%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	高校集団献血の年間2回実施	通年	6	高校集団献血を男子校中心(17歳男子を念頭に)に年間2回実施(例年3年生だけ実施の高校で2・3年生献血対象にして、3校が年2回実施予定)
メールクラブ会員を1500名増やす	複数回献血協力者確保事業	継続	若年層献血者	12月～3月(通年)	都度	ブロックセンター作成のノベルティグッズを利用し、若年層のメールクラブ会員を増やす。前年度比500人増加の年間約1,500人、実施期間中約500人を目標とする。

オ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ルームの献血者17,000人を目指す	献血ルーム確保対策	継続	事業所・団体等	4月～3月	20団体	関東甲信越ブロックセンターの動向を踏まえ(増加傾向にある血販事情)事業計画より大幅な増加を目指す。移動献血バスで実施していた団体(5団体)を献血ルームに移行してルームの効率性を高める。
400mLの献血率80%を維持	高校生の400mL献血推進	継続	高校献血	5・7・9・10・11・12・1・2月	41校	集団高校献血での400mL献血を推進する。400mL推進の記念品を出し、(2年生も実施の高校は)17歳の該当者が増えるよう12月以降に実施し、平成23年度57.5%から平成25年度は65%にアップさせる。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

長野県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代・20代の献血者増加 平成23年度 10代 3,069人 (献血率 4.0%) 平成25年度 10代 3,707人 (献血率 4.8%) 平成23年度 20代 12,875人 (献血率 7.1%) 平成25年度 20代 15,555人 (献血率 8.6%)	学生献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生	7月・12月	4回	長野市・上田市・飯田市	平成23年度実績395人中、10・20代の実績131人、構成比33.2%であったことから、1.8%アップの35%以上を目標とし、ボランティアの協力により、若年層が好む記念品を用意し各大学等への周知と併せて会場での勧誘を行う。
	固定施設への学生送迎	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生	毎月(8・9月は休み)	48回	固定施設	平成23年度実績138人であったことから、44.9%アップの200人を目標とし、送迎予定日に校内にて献血PRティッシュを配布し、献血希望者を募り固定施設へ送迎する。
	10・20代の献血率アップ	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生	9月～11月	1回	固定施設及び各会場	平成23年度実績15,944人の20.4%であったことから、4.6%アップの25%を目標とし、10・20代の献血を促すポスター・メディアを使った広報を行うと共に、記念品を用意する。
	求む！献血ルーキー	継続	献血初回者	4・5月	1回	固定施設	平成23年度実績160人であったことから、150%アップの400人を目標とし、若年層を中心とした献血未経験者を対象に、ポスター・メディアを使った広報を行うと共に、記念品を用意する。
	若年層献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生	通年	15回	各学校	平成23年度実績11回であったことから、15回以上を目標として県と連携し、各学校へ献血に関するセミナー開催を依頼する。

ウ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
H23年度の実績は新規12社あったがH24年度は非常に厳しい状況であるため、休止再開・新規企業各10社を目標とする。	新規企業の開拓	継続	企業	通年	10社	各事業所	従業員数30人以上の企業をターゲットに渉外活動を行う。
	休止企業の再開	継続	企業	通年	10社	各事業所	従前実施していたが、一時的に休止している企業への渉外活動を行う。
計画を実施する20社において、H23年度実績を超える献血者の確保を目標とする。	献血前のティッシュ配布	継続	行政・企業	都度	20回	行政・企業入り口	県庁始め各行政と大手企業との了解を得、H24年度と同数の20社に対し献血実施前に従業員を対象にティッシュ配布を行い周知を図る。配布時間・内容等の検討を行い、従業員への遊及効果の向上を図ることにより、前年度からの増加を目指す。

エ. 複数回献血協力者の確保対策

長野県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成23年度献血者実績が78,201人中、複数回献血者は13,506人であったことから、平成25年度採血計画数77,047人中、複数回献血者の確保目標値を17,470人とするため、複数回献血クラブ会員の新規登録者の増加を図る。	複数回献血クラブ会員確保	継続	未登録者	毎月	36回	複数回献血者確保のため、新規メールクラブ会員を推進し、平成23年度末会員数の6,132人から46.8%アップの9,000人確保を目標とし、固定施設においては、日々未登録者への勧誘活動を行う。また、移動採血においては、街頭献血を中心に会員募集スペースを設け実施する。
平成23年度メールによる献血依頼数は14,380人で、応諾数が1,633人、応諾率11.4%であったことから、応諾率20%を目標とするため、応諾率の高い献血者をリストアップし依頼する。	メールによる献血協力者確保	継続	登録者	毎月	24回	血小板製剤の午前採血を中心にメール配信を行い、応諾率20%以上を目標に2,500人以上を確保する。

オ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
55歳以上の献血者における血小板献血の採血比率を12%とし、1,556人の献血者確保を目標とする。	55歳以上の血小板成分献血者アップ	継続	55歳以上男性	毎月	24回	55歳以上の血小板献血者数は平日を中心に毎月安定しており、平日の午前採血強化の一助となることから、55歳以上の男性血小板献血可能者へ毎月2回ハガキにより献血依頼を行う。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

富山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 7.0%	高校生400mL献血キャンペーン	継続	高校生	10月～2月	12回	各学校	400mL献血に協力いただいた学生に、通常の粗品に加え記念品を提供する。 学校の了解を得て、周知用チラシを献血告知用ポスターに貼付し事前PRをし、献血当日の受付会場においてもPRチラシを掲示する。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.8%	DMによる献血依頼	継続	大学周辺在住の20代	1月～3月	1回	各献血会場	大学周辺在住の20代を対象にDMを送り届いたDMを持参し献血にご協力いただいた方に記念品を進呈。
10代～20代の献血者及び献血率の目標値 10代 7.0%、20代 8.8%	献血セミナー	継続	短大・大学・看護学校生	4月～6月	5回	各学校	短大等5校で新入生(予定300名)を対象に、献血セミナーを実施し献血の必要性及び重要性を説明し、400mL献血、血小板献血への理解を深めてもらい、献血意識の向上を図るとともに、献血の協力をお願いする。オリジナル小冊子・パワーポイント等を使用する。
	いっしょに献血キャンペーン	継続	短大・大学・看護学校生	4月～11月	10回	各学校	大学等7校での学内献血実施時に、3人でいっしょに献血キャンペーン(先着15組、45名にカップラーメン等提供)を実施する。構内に告知用ポスターの掲示、学生ボランティア・当日献血協力者より友達にメール配信を依頼し周知を図る。また、ボランティアによる同世代からの呼びかけを実施する。
	つながる献血の輪(献血リレー)	継続	10代～20代	4月～3月	1回	各献血会場	賛同いただける若者を募集し、リレーカードを配布する。10代～20代の献血者がカードを持参し献血にご協力いただいた場合は、カードにスタンプを押印する。(不適可)献血後、知り合いの10代～20代の方に渡す。5人分揃ったら、参加者に記念品を送付する。
	みんなで祝福「卒業献血」	継続	高校生・短大・専門学校・大学	1月～3月	1回	各献血会場	卒業生を対象に献血された方に記念品を進呈する。(みんなで祝福のため在校生、家族と一緒に献血した場合も対象とする。)チラシ、ポスター、ポケットティッシュ、ホームページなどでPRする。

その他の目標値 ・献血者数300名	ボランティアと連携するイベント(サマー、クリスマス)	継続	特に若年層	8月、12月	2回	ショッピングセンター	学生ボランティアと連携し、中部統一・全国統一の献血キャンペーンを実施し、同世代の若者に献血の理解と協力を呼びかけ、夏場・冬場の血液不足を補うとともに若年層の献血者を増やす。ラジオCM(1局)、告知ポスターを電車で掲出(1社)、はがき依頼(400名)等で周知を図り実施する。
40組以上の参加	親子見学会	継続	小学生・保護者	7月～8月	2回	血液センター	本社作製DVD素材(おしえてけんけつちゃん!)を用いて献血の流れを説明し、献血クイズ及び血液に関する知識を高めてもらい、施設見学(供給課、パネル展示室)、献血バス・血液運搬車の体験乗車をしてもらう。各小学校への参加依頼するとともにホームページへの掲載や商業施設等で告知チラシ掲示を依頼する。 見学後に参加児童に感想文を書いてもらい、90%以上の方から「将来献血に参加する」との回答を得る。
児童・生徒 90名の参加	JRCトレセン会場で 献血セミナー	継続	小学生・中学生・高校生		1回	青少年自然の家	JRCトレセンで献血啓発を行う。オリジナル冊子・パワーポイントを使用し実施する。学生が集う場所に「献血の流れ等」パネルを展示する。 セミナー参加者の小・中学生にはアンケートをお願いし、90%以上の方から「将来献血に参加する」との回答を得る。高校生には、献血に関する認識や意識調査を実施する。
親子100組の参加	はたらくクルマ展示会場で 献血バスの展示	継続	幼児・小学生・保護者		1回	富山まつり (富山市役所前)	富山まつりのイベント「はたらくクルマ大集合」に献血バスを展示し、献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めてもらい、献血の推進に繋げる。 献血バスの展示に親子200名に参加していただく。献血クイズを実施し子供100名に参加していただく。
小学校66校に配布 (25,000枚)	ラジオ体操カード配布	新規	小学生		1回		富山市内の小学校66校(25,000枚予定)に、血液センターオリジナルのラジオ体操カードを配布する。児童及び保護者にも献血への意識と参加を促す。 ラジオ体操会場へ「けんけつちゃん」を5回以上出場させ、児童等へ献血を意識づけさせる。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力事業所10社・ 休眠事業所10社の増加	献血協賛企業推進	継続	事業所・団体	4月～3月		各事業所等	富山県主要工場名簿を活用するとともに、ライオンズクラブへ協力事業所紹介を依頼し、新規事業所の開拓、休眠事業所の掘り起こし。事業所担当者に愛のかたち献血等活用して献血の必要性を理解していただけるよう働きかける。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

富山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血率 28% 複数回献血クラブ会員数 2,500名	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		はがき及び電子メールを活用し、年1回の献血者2万人に対して、複数回の献血協力を依頼する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	400mL献血者	4月～3月		4月～9月に400mL献血協力者にキャンペーンカードを配布し、7月～3月に再度400mL献血者に粗品を進呈する。 受付場所や献血バス内でキャンペーン周知チラシを掲示し、ホームページでキャンペーン案内を掲載するとともに、複数回献血クラブ会員へメール配信し協力依頼する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	4月～3月		①会員募集用のチラシ・リーフレット(各15,000枚)、ポスター(1,000枚)を作成する。 ②各献血会場で献血者全員にチラシ・リーフレットを配布するとともに、献血協力事業所等へポスター掲示を依頼し会員募集を図る。 ③ショッピングセンターで会員募集イベントを2回実施する。
	複数回献血クラブ会員限定映画上映会	継続	複数回献血クラブ会員	11月	1回	複数回献血クラブ会員限定の映画上映会を実施し、会員への感謝及び継続した献血協力を呼び掛けるとともに、新規会員募集を図る。
その他の目標値 1000組	献血ファミリーカード	新規	献血者	4月～3月		献血者に「献血ファミリーカード」と称したポイントカードを配布し、ポイントが溜まると記念品を進呈する。カードは家族間での共有は可能。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ルームでの一日の平均血小板成分献血者を22名確保する	血小板献血者確保対策	継続	血小板献血可能者	4月～3月		①平日での献血協力を県内市町村及び事業所等の担当者に依頼する。 ②登録者への電話依頼、誕生日の献血者へのはがきでの依頼、複数回クラブ会員へのメールでの依頼をする。 ③七夕、バレンタインデー、ホワイトデー等キャンペーンを実施する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

石川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値6.00%	高校生に対する献血セミナーの開催	継続	高校生	平成25年4月～平成26年3月	8回	石川県内各高校	石川県内の各高校で献血セミナーを開催し、献血に対する理解と協力を求め移動採血及び固定施設での献血協力を得る。
	JRC部員に対する献血セミナー開催	継続	高校生	平成25年5月	1回	いしかわこども交流センター	石川県内各高等学校JRC部員の大会行事に併せ、献血セミナーを開催し献血に対する理解と協力を求める。
20代の献血者及び献血率の目標値9.50%	学生献血推進活動の促進	継続	大学生、短大生、専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	3回	血液センター	石川県学生献血推進委員会の総会及び勉強会を開催し、新年度を迎え新たな学生献血ボランティアを募集する。
	大学生等に対する献血セミナー開催	継続	大学生、短大生、専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	4回	血液センター及び金沢市内ホテル	石川県学生献血推進委員会の総会及び石川学生献血推進連総会の開催時に献血セミナーを開催し献血の理解を求める。
	大学献血の実施	継続	大学生	平成25年4月～平成26年3月	20回	石川県内各大学	学生献血ボランティアが在籍する大学を主に、在籍する学生ボランティアの呼びかけを行い献血を実施する。
	学生による献血キャンペーンの実施	継続	大学生、短大生、専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	6回	石川県内各ショッピングセンター	学生献血推進委員会メンバーによる、七夕、サマー、クリスマスの各献血キャンペーンを開催し献血の呼びかけを行う。
その他の目標値 親子120組240人を募集する	青少年献血ふれあい事業	継続	小学生と保護者	平成25年7月～平成25年8月	6回	血液センター	夏休み中に小学生と保護者を対象とした献血セミナーと血液センターの見学会を開催し、献血に対する理解を求める。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規募集の献血企業・団体10件	新規献血団体募集	継続	一般企業及び団体	平成25年4月～平成26年3月	10件		平成25年度中における移動採血日程の渉外活動の中で、新規の企業または団体の献血を10件募集する。
献血サポーター募集20件	新規献血サポーター募集	継続	一般企業及び団体	平成25年4月～平成26年3月	20件		平成25年度中における新規の献血サポーター企業団体を20件募集する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

石川県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員500人募集 メール依頼250人以上の応諾	複数回献血クラブ 新規会員募集	継続	一般献血者	平成25年4月～ 平成26年3月		母体、ルーム及び移動採血車の受付において新規の複数回献血クラブ会員を募集する。平成25年度中の募集目標を500人とする。
	複数回献血クラブ 献血依頼	継続	複数回献血クラブ 会員	平成25年4月～ 平成26年3月		血液不足時における、複数回献血クラブ会員に対するメールによる献血依頼の応諾者数を250人以上を目標とする。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血率89%	400mL献血の推進	継続	献血者	平成25年4月～ 平成26年3月		平成25年度は400mL献血率を89%を確保する。
1稼働65人、120単位	1稼働あたりの献血人数 及び単位数増加対策	継続	献血者	平成25年4月～ 平成26年3月	全稼働	平成25年度は移動採血車の1稼働の人数65人、1稼働の単位数120単位を目標とする。
55歳以上の男性の成分献血者を 100名増やす	シニア成分献血	継続	献血者	平成25年4月～ 平成26年3月		平成24年6月～平成25年5月で成分献血に協力した55歳以上の男性300名にかもめーるを送付する。平成25年1月～11月までに血小板献血した方、3,500名に年賀状を送付する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福井県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血数:1,700人/年 献血率: 5.6%	学校献血(受入)	継続	高校、大学等	4月～3月	15	各学校	オリジナルファイル+αな粗品進呈
	献血セミナー	継続	高校生	毎月	20	各学校	血液・輸血・献血を知ってもらう場として、記念品進呈
	高2生への周知	継続	全高校2年生	2月初旬	1	紙面1P(B5,カラー)	全ての高2生(約8,000名)に配布されるガイドブック掲載
20代の献血者及び献血率の目標値 献血数:6,400人/年 献血率: 8.8%	3人でいっしょに献血	継続	大学(生、関係者)	4月～3月	12	各大学	献血受付に3人(複数)で来て頂き、お菓子進呈
	学生連盟イベント	継続	大学等	9月頃	1	イベント会場	学生献血推進連盟が主となり、同世代への周知イベント
	新成人おめでとう	継続	はたちの者	1月(成人式)	1	各会場での配布	新成人に、血液センター(献血)を周知するためのチラシ等
その他の目標値 集客:400～500人、献血:2割	献血感謝祭	継続	10代・20代	8月(または3月)	1	イベント会場	過去1年間に献血(10代・20代)者に、抽選でイベント招待
	親子見学会	継続	小学生	7・8月	4	母体	100組親子200名

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1000	献血紹介カード	新規	従業員	毎月	200	各事業所(リスト無)	従業員数が多いが、今一献血数が伸びない企業向け紹介者と献血者に粗品を進呈
1000	ガラポン抽選	継続	従業員	毎月	200	各事業所(リスト有)	サポーター登録企業&多くの献血協力がある企業向けプレミアムな粗品(1回:極小数)、ハズレはポケットティッシュ
100	献血セミナー	継続	衛生委員	4月～3月	10	各事業所	月1回の安全・衛生委員会を実施し、職員へ周知願う

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

福井県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血率を31%(年度) (H24年:29.2%)	感謝の集い	継続	会員	12又は1月	1	複数回献血クラブ員に対して、抽選で映画試写会に招待(100組200名)
その他の目標値 会員数:月/100人(年間1,200人確保)	登録推進	新規	母体献血者	毎開設日		チラシを作製し、複数回献血クラブへの加入要請と共に「予約システム」の周知

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
集客: 50~100人	健康増進事業	新規	比重落ち者等	8月中旬(献血記念日)	1	比重落ち(献血者を含む)者へのヘルスケアとして、地産地消の食材を使った料理教室(健康食を紹介・試食会)を開催

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岐阜県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 5.9%	献血セミナー	継続	高校生	平成25年4月～平成26年3月	10回	高校	学校に赴き出前講座を行う。
	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大・専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	20回	各大学	2人以上連れだって献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	学生ボランティア主催サマー・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成25年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン
20代の献血者及び献血率の目標値 6.9%	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大・専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	20回	各大学	2人以上連れだって献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	学生ボランティアによりサマー・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成25年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体献血実施10社	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	平成25年4月～平成26年3月		各事業所等	県内の企業・団体を訪問し、主に移動採血車での全血献血の協力を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 現状32%の複数回献血者を35%まで増加させる。	電子メール、はがきによる協力依頼	継続	年1回の献血者	平成25年4月～平成26年3月		電子メールやはがきによる複数回の献血協力依頼を行う。	
	複数回献血クラブ会員増強キャンペーン	新規	献血者	平成25年4月～平成26年3月		複数回献血クラブ会員を増やすためリーフレットを作成し現場で加入した献血者に対して記念品を配布する。	
	複数回献血キャンペーン	継続	献血者	平成25年8月～平成26年3月		一定期間に協力いただいた方で、指定の期間に再度協力いただいた方に記念品を配布し、年2回以上の献血を促す。	

エ. その他

岐阜県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血率を平成24年度目標の84%から88%にする。	400mL献血推進強化対策	継続	献血者	平成25年4月～ 平成26年3月		400mL限定や200mL制限会場を設ける。推進団体に対し400mL献血推進を進める。 400mL献血実施可能な高等学校を平成24年度の5校から10校まで増加させる。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

静岡県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 9,500人 5.4%(人口構成比平成24年3月末参考)	若年層確保対策	継続	大学・専門学校	4月～7月、9月～1月	1	大学・専門学校	1629プロジェクトの継続
	高等学校献血対策	継続	高等学校	4月～7月、9月～12月	80	高等学校	献血セミナーの実施、校内献血実施、400献血推進
	高校生ラジオリレー	新規	ラジオリスナー	10月～3月	18	ラジオ	高校生から電波を通じて献血とは？から必要性等を訴える
20代の献血者及び献血率の目標値 28,500人 7.5%(人口構成比平成24年3月末参考)	若年層確保対策	継続	大学・専門学校	4月～7月、9月～1月	1	大学・専門学校	1629プロジェクトの継続
	キャンパス献血キャンペーン	新規	大学	5～7月、10～12月	9	大学内	大学内献血でイベントを実施し、記念品を進呈する
	学生献血キャンペーン	継続	一般	7月、12月、1月、3月	12	イベント会場	各季節ごと(サマー、オータム、スプリング、クリスマス)のキャンペーンにあわせて同世代の若者からの呼びかけイベントを実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
職業別献血者「会社員」を前年実績の1%増加	企業献血強化対策	新規	企業	4月～6月	150	実施期間中の献血協力事業所	企業内での献血協力時に新入社員対象に広報展開、記念品の進呈

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

静岡県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値	複数回献血推進	新規	未加入献血者	4月～7月	1	献血カードケースに献血会場等の情報にアクセスできるQRコードを付けた記念品を配布する
新規登録者数4000人増で 総会員数を約14000人にする	複数回献血推進	継続	未加入献血者	4月～3月	1	推進用のリーフレットの配布、加入者に記念品の配布、情報発信

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
全血献血400mL献血比率の増加 90.%以上を目標	カムカムキャンペーン	継続	400mL献血者	6月～3月	1	献血者にキャンペーンカードを配布し、次回400mL献血に協力していただくことにより、冬場の献血者増加を図る
平成25年度の60代献血者の構成比を6.5%まで増加させる	終わらない献血	新規	一般	10月～3月	1	60～65歳の事業所で献血協力者にハガキ等のDMで69歳まで継続的な献血を案内する

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

愛知県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率を6.2%にする。	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場	同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	卒業献血の推進	継続	高校3年生	12月～2月		高校	卒業という記念日を献血の契機と位置付け献血セミナー等を開催し、学内献血における400mL献血の推進
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校	大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校を目指す。
	初回・紹介者キャンペーン	継続	17歳～29歳	未定	1	初回は全献血会場、紹介は主に固定施設	17歳から29歳の初回献血者に記念品配布、17歳～29歳の献血者を紹介した献血者に記念品配布(本社予算)
20代の献血率を8.2%にする。	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場	同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校	大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校を目指す。
	初回・紹介者キャンペーン	継続	17歳～29歳	未定	1	各学校	17歳から29歳の初回献血者に記念品配布、17歳～29歳の献血者を紹介した献血者に記念品配布(本社予算)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体・複数回献血実施30社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体 休眠企業・団体 年1回協力企業・団体	4月～3月		各事業所	①今までに献血を実施したことのない企業・団体について、HP等閲覧し、社会貢献活動を積極的に行っている団体を抽出し、その企業・団体に対して積極的に献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ②献血実施企業・団体等にもお願いし、関連企業・団体を新たに紹介していただき、献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ③3年以上献血協力がいない企業(休眠団体)について、再度献血をお願いをする。 ④年1回のみ実施の企業・団体に対して、年複数回実施をお願いをする。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

愛知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者を35%まで増加させる。	複数回献血協力者 確保事業	継続	初回及び年1回の 献血者 複数回献血クラブ 未登録献血者	4月～9月 10月～3月		1.複数回献血クラブ登録キャンペーンを実施し、各献血会場において会員登録を強化する。 複数回献血クラブ会員登録数を12,000名増加させる。特に大学・専門学校などの若年層中心の献血会場、イベント会場等複数回献血クラブ広報誌やSMS等を活用して、会員募集強化を図る。 2.初回献血者に対して、依頼ハガキを活用して献血依頼要請併せて複数回献血クラブ登録を促す。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
全血献血における400mL献血 の比率 90%	400mL献血の推進 対策	継続	固定施設における 全献血者	4月～3月		1.稼働当たりの確保単位数が低下傾向にあり、400mL献血由来の赤血球製剤の需要が94%あることから、輸血用血液の安定確保と安全性の点から輸血用血液の使用状況を説明しその確保に努める。具体的にはその必要性についてホームページや機関誌に掲載し、献血推進協議会や献血団体・献血者個々へ説明するとともに400mL献血を推進するキャンペーンを行う。
移動採血における1稼働あたり の確保単位数 95単位	移動採血安定確保 対策	継続	移動採血車全献 血者	4月～3月		400mL献血については、固定施設での割合が低いことから数値目標として設定しキャンペーンを行いながら推進していく。なお、移動採血における確保単位数については、新システムの導入により数値目標を変更する場合がある。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

三重県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数1,543人 (献血率2.2%)	献血セミナー	継続	高校生・専門学生	7月・9月・10月・11月	6回300人	学校内教室	クイズ形式で楽しめる内容のセミナー
	学生献血	継続	高校生・専門学生	10月	5回100人	学内	授業時間内や学祭での献血実施。高校1校・専門学校4校実施予定
	Roll up your sleeve	継続	高校生・大学生 専門学生	街頭献血実施を中心に	15回(他事業と重複)	学内・ショッピングセンター	シリコンバンドの配布により献血協力への動機付けをおこなう。
	学生献血推進連盟	継続	高校生・大学生 専門学生	各種献血キャンペーンや学内献血などの1時期に合わせる	12回以上	学内・ショッピングセンター	各種献血キャンペーンに企画協力し学生献血の核となってもらう。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数10,080人 (献血率5.6%)	学生献血	継続	大学生・専門学生 教職員	月1回以上	20回700人	学内	授業時間内や学祭での献血実施。大学5校・専門学校4校実施予定
	全国統一キャンペーン	継続	大学生・専門学生	7月・8月・12月・1月・2月	15回800人	ショッピングセンター	月間・クリスマス・はたち等の献血当日の啓発活動。
	Roll up your sleeve	継続	高校生・大学生 専門学生	街頭献血を中心に	15回(他事業と重複)	学内・ショッピングセンター	シリコンバンドの配布により献血協力への動機付けをおこなう。
その他の目標値 学生ボランティアを350名確保する。	学生献血推進連盟	継続	高校生・大学生 専門学生	各種献血キャンペーンや学内献血などの1時期に合わせる	12回以上	学内・ショッピングセンター	各種献血キャンペーンに企画協力し学生献血の核となってもらう。
	学生ボランティア(ミドナサポーター)育成	継続	高校生・大学生 専門学生	4月～7月	約80校	学内	県行政(保険所)と連携して学校訪問しサポーターの加入を推進するとともに献血の呼びかけをする。

企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
成分献血協力団体を新規10団体を増やす。	献血協力団体増加対策	継続	献血協力団体	協力団体との打合せによる		固定施設3か所	四日市・母体で各3団体、伊勢で5団体を確保する。
新規献血協力団体10団体を増やす。	企業における献血の推進対策	継続	新規事業所	献血実施事業担当者 と事前協議を行い調整する。		献血推進課	新規事業所の開拓・献血実施事業所担当者に系列企業・グループ会社等を紹介していただく。
年間協力回数の増加依頼 (20企業以上の了承を得る)	企業における献血の推進対策	継続	献血協力団体	年間を通じ協力団体ごとに調整する。	50件	献血協力団体	50企業に年間(複数年)協力回数を1回でも増やすことを依頼し、20企業の了承を取り付けたい。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

三重県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 会員数を8,000人とする。	複数回献血キャン ペーン	継続	献血者全員	年間を通じて		採血現場でのチラシ等による勧誘
	はがきによる依頼	継続	献血者全員	5月・9月・12月・1月・3月	10回	協会の献血対象者に対してはがきで依頼する。
	メディアによる協力依頼	継続	視聴者	特にイベント実施月ごとに		スポンサー番組による協力依頼、情報提供
その他の目標値 3年以上休眠状態の献血協力 団体10団体の復活		継続	企業	担当者との打合せによる		担当者だけでなく、幹部・トップに面会させていただく。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	具体的かつ詳細に記載すること)
20組40名	ブロック血液セン ター見学ツアー	新規	小学生親子	7月・8月	2回	夏休みの時期に親子で参加してもらい、献血について興味を持ってもらう。
3校100名	出前授業	継続	小学生・中学生	学校と調整	3回	献血について興味を持ってもらう。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

滋賀県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規高校献血を3校以上実施	高校献血	継続	高校生	4月～3月	5	県内高等学校	H23度・・・4校 H24度・・・7校実施予定をH25年度は10校を目標とする。
高校及び大学で献血セミナーを5校以上実施。各会場で30名以上	献血セミナー	継続	高校生	4月～3月	8	県内高等学校	高校では事業の一環としてセミナーを実施する。大学では主務会等でセミナーを実施し、学内献血時にパネル 展示や、ダブルスカイの上映を実施する。
			大学生			県内大学	
夏季・冬季実施の学生キャンペーンに各回、20名のボランティアを要請し、若年層に呼び掛ける。	若年層献血推進	継続	高校生	7月・8月・12月・1月	4	街頭献血会場	例年実施している、サマー献血・クリスマス献血・はたちの献血キャンペーン時に学生ボランティアを増大し、若年層にPR及び、献血の勧誘を行う。
			大学生				
立命館大学の献血実施時に体育会に毎回20名以上の協力者を依頼する。	若年層献血者確保	新規	立命館大学体育会	年間を通して	12	立命館大学	立命館大学の体育会で献血担当を決定し、献血実施時に各体育部から、毎回20名以上協力してもらう。
学校献血(大学・高校・専門学校)に45台配車、献血者2700人確保	若年層献血者確保	新規	学生	年間を通して	45	各学校	呼び掛け用のTシャツ(200枚)を作成して啓発活動を行う。学生献血キャンペーンを実施する。
移動採血車1稼働平均100単位の採血	若年層献血者確保	継続	学生	12月～1月	随時	街頭献血会場及び固定施設	クリスマス期間から年末年始にキャンペーンを実施する

ウ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規事業所等5社以上実施	新規献血団体増強	継続	県内企業等	4月～3月	10	滋賀県内	新規献血協力団体を5社以上確保する。
一台当りの採血量を100単位以上確保する。	献血量確保	継続	県内企業等	4月～3月	50	滋賀県内	100単位以内の事業所等の底上げや、1日配車を半日配車に変更し1台当りの確保量を上げる。

エ. 複数回献血協力者の確保対策

滋賀県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10団体150名の増加	献血団体の年回実施回数の増加依頼	継続	企業・団体等の献血団体	4月～3月	随時	年間1回の実施先に対して年2回の実施を依頼し、10団体平均15名の増加で150名を目標

オ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾者(実協力者)3,000名	メール、はがきによる献血依頼	継続	街頭献血会場等の既協力者	4月～3月	毎月随時	メール、はがきによる献血依頼要請をする。 協力者の目標はメール、はがき併せて3,000名以上
新規登録者200名以上	郵送等による登録者募集	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	DM等により新規登録者を募集する。 固定施設への献血依頼に併せて200名以上の新規登録者の募集を行う。
血小板採血7170名	血小板献血者確保事業	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	固定施設において毎月季節イベントを実施する(12回/年) 成分献血ポイントキャンペーンを実施する(3～5月・10月～12月 2回/年)
母体採血1稼働平均40名	母体採血PR事業	新規	固定施設等の既協力者	2月～3月	随時	母体採血施設のリニューアルオープンリーフレットを2000部作成 母体施設の既献血者及び献血登録者に対し告知する
移動採血車1稼働平均100単位の採血	街頭献血啓発事業	継続	街頭献血会場等の献血者	年間を通して	随時	年間を通して献血協力の少ない市町及び街頭献血会場に新聞折り込みを実施する。 (年間約60会場 55万枚)

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

京都府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 10代献血者数6,400人 10代献血率5.6% (10代献血者数、平成23年度実績(4,815人)から約1,600人の増加を目指す。)	献血セミナーの推進	新規	小・中・高校生	通年	10回	献血ルーム・支部・高等学校	夏休みに小学生対象のセミナーの実施。中学生、高校生に対し、京都府下の教育委員会を通じ全ての公立、私立高校へ献血セミナーの実施について働き掛けを行う。青少年赤十字加盟校に対し、献血セミナーの実施について働き掛けを行う。献血を実施している大学の附属中学・高校へ、献血セミナーの実施について働き掛けを行う。イベント等で青少年に対し献血の啓発を行う。400mL献血可能年齢である男性17歳の積極的な広報展開(400mL献血基準の周知)
20代の献血者及び献血率の目標値 20代献血者数25,300人 20代献血率9.0% (20代献血者数、平成23年度実績(24,480人)から約850人の増加を目指す。)	3ルーム市バス広告	新規	20代	12月から開始して6カ月間	1回	京都市内	献血者が減少する冬場に、3ルームの場所を車体に掲示したパトラッピングバス(京都市内を循環する市営バスで、市内の大学を中心に走る路線)により、献血の啓発と献血ルームの周知を図る。
	世界献血者デー、高校生キャンペーン、はたちの献血キャンペーンの広告	新規	20代	6月、12月、1月、2月	4回		キャンペーンの実施前に新聞に若年層をターゲットにして広告を掲載し、広く献血の啓発を行う
その他の目標値 献血ワクワク体験参加者30人	献血ワクワク体験	新規	小学生以下の子供と保護者	7月または8月	1回	福知山出張所	献血出前講座(わかりやすいクイズ形式など)、献血バスや献血運搬車の見学。献血模擬体験、けんけつちゃんを題材にした献血ポスター(めり絵)作製⇒後日、献血バスに掲示のイベントを行い、小学生及び保護者への献血啓発を行う。

その他の目標値 20代の献血率を平成23年度よりも0.2%以上アップし、9.0%とする。 献血ルームの初回者率6.0%(平成23年度累計は4.8%であった。)	献血ルーム四条へようこそキャンペーン	新規	10代、20代を中心とした学生	平成25年11月1日から11月30日	数回	通行量の多い地下鉄四条駅構内及び四条烏丸交差点とルーム前	若い人の通行量の多い地下鉄四条駅構内に冬期献血者確保を訴える臨時掲出シートを掲出し、献血ルームの所在地の周知と献血推進を図る。 期間中に数回、京都府学生献血推進協議会による街頭啓発活動を通行量の多い四条烏丸交差点とルーム前で実施する。また期間中に若い人用の記念品を配布し、より多くの若い人の来所を図る。 このキャンペーンを通して冬期の献血者不足をマスコミ等に取り上げてもらうとにより、若年層の献血者増を図る。
	ネットで広げよう！ 献血仲間！ ～き♡ず♡な キャンペーン～	継続(拡大)	10～20代	通年		京都市内の3献血ルーム	若年層献血者確保対策として、若い世代が多く利用するツイッター、ユーチューブ、SNS(※ソーシャルネットワーキングサービス)等でのキャンペーンPRを実施する。また、いくつかの「ミッション(任務)」を行うことにより、プレゼントのチャンスが増加するというキャンペーンの仕組みにより、若い世代の興味を引き、友人等への献血紹介の動機付とする。 また、本キャンペーンにより冬期の400mL献血確保対策も併せて行う。 ＜方法＞ (1)インターネット、Webを使って ①従来のホームページ、フレンズ宛メールに加えてツイッター、ユーチューブ、SNS等でキャンペーンをPRし、同時に「キーワード(合言葉)」を告知する。 ②献血ルーム受付で「キーワード(合言葉)」を言って献血協力されると、記念品を進呈する。 ③献血ルーム受付で「キーワード(合言葉)」を言い、複数人数の献血協力で記念品をダブルプレゼントする。 (2)チラシを使って ①期間中の全献血協力者へチラシ配布によりキャンペーンPRを行う。 ②献血者の方から若い世代(10～20代)へチラシをお渡しいただく。その際、チラシの紹介者欄に献血者の住所・氏名等を記入してもらう。紹介者欄(イコール)プレゼント抽選応募となり、期間中の応募者の中から当選者へ豪華記念品を進呈する。若い世代の知人を紹介すればするほど、当選する確率が上がることとなる。 ③献血者からもらったチラシをご持参の方が献血協力で記念品を進呈する。 ④看護学校等の各種団体にもチラシを設置する。 (3)献血ルームからキャンペーンをPR 当日、その場で当キャンペーンをメール、SNS等でPRしていただいた方へ記念品を進呈。 ＜献血者処遇品＞ 300円相当の品(商品未定) ＜広報資料＞ ①オリジナルチラシ 60,000枚 ②献血者処遇品(300円相当の品) 3,000個 ③当選者への記念品(4000円相当の品) 100個
	フリーペーパーによる広報推進	継続	10代、20代を中心とした市民	平成25年12月から平成26年3月まで	各月1回	通行量の多い地下鉄四条駅構内及び四条烏丸交差点とルーム前	若い世代に「献血の必要性(献血って何?)」を考えていただく、「なぜ献血に行かなくてはいけない?」「献血ルームってどんなところ?」の疑問「対しフリーペーパー(読ませて行動させる)を活用し、献血ルームの周知、献血離れ、献血への認知度、関心度を向上させる。献血への関心をもつていただくため、献血の来所を促すキャンペーン・イベント・記念品を贈ることで初回献血者、献血経験はあるが献血ルームの来所は初めての献血者増を図る。

	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(大学生向け献血PR)	継続	10代・20代の大学生	平成25年11月	5回	教育大学・文教大学・種智院大学・龍谷大学	献血ルーム伏見大手筋近隣の大学の学園祭パンフレットに広告を掲載し、大学生等に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、献血者の増加を図る。
	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(若年層向け献血PR)	継続	10代・20代の若年層	平成26年1月	10回	献血ルーム伏見大手筋	地元FM局の番組内でパーソナリティーから聴取者に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、さらに血液センター職員が番組に出演することで、タイムリーな話題や献血情報を聴取者に提供し、献血協力を促す。
大学・専門学校献血の1稼動あたり400mL献血数50人以上	献血でSOYJOYキャンペーン	継続	学生・専門学校生	4月～3月	約100稼動の移動採血	大学・専門学校	大学献血・専門学校献血の実施前、及び実施日に、本キャンペーンチラシを学内で配布、「献血でSOYJOY進呈」をお知らせし、学内献血の協力を依頼する。
	大学・専門学校対象の通年献血ポスター及びパンフレットの製作	新規	学生・専門学校生	4月～3月	通年掲示	大学・専門学校	献血広報ポスター、リーフレットを製作し、京都センター管内における大学及び専門学校に配布・掲示してもらい学生に献血に関心を持つ機会を増加させ献血者増加につなげる。移動採血の実施時期に関わらず、一年を通して掲示及び配布を各学校へ依頼することで、京都府全体の10～20代前半(特に10代)の若年層献血者の増加を図る。
舞鶴市内での10代、20代の年間総献血者1,500名の確保	ヤング献血in MAIZURU大講演会	新規	10代・20代の若年層	平成25年5月	1回	舞鶴総合文化会館	これからの献血を支える舞鶴市内の中学生・高校生などの若年層を対象に1500人規模の大講演会を行い献血の重要性と安全性を啓発する。この目的に賛同する舞鶴ライオンズクラブ発足20周年記念事業とタイアップし、行政の後援も得て開催する。 ①行政の協力も得て講演会場の確保とその使用料の免除を受ける。行政誌・行政ポスターの紙面も活用する。 ②若者の支持を得ているアイドルグループ又は著名人を招きステージショー・トークショーやクイズ形式で献血の重要性を啓発する。 ③オープニング演奏として海上自衛隊舞鶴音楽隊と西舞鶴高校吹奏楽部ジョイント演奏を計画。 ④当日参加者には記念品(けんけつちゃんシール付USBメモリー)と啓発資料を渡す。 ⑤対象は舞鶴市内の中学・高校・高専の生徒。

イ. 企業等における献血の推進対策

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業・団体等を増加させる(目標5団体)	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	新規事業所、新規団体の開拓を行う。
企業団体等における年間複数回の協力依頼(目標3団体)	複数回献血協力企業・団体確保対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	既協力企業・団体に対して依頼する。
献血協賛企業活動推進事業のロゴマーク配布(目標40団体)	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	献血協賛企業の募集
継続協力企業・団体に於いての初回献血者の募集(各企業、団体における協力人数の3%)	初回献血者増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	既協力企業、団体に於いて献血に参加されなかった方に参加協力を働きかける。初回者を増加させることで、企業、団体での献血者増加につなげる。
施設見学参加40名	ブロックセンター見学	新規	長田野工業団地内企業若手(10～20代)社員	上半期	1回	近畿ブロック血液センター	当出張所が立地する長田野工業団地内企業の10、20歳代の社員約40名を対象に、近畿ブロック血液センター施設見学を行う。これからの企業献血の中心になってもらう若手社員に献血について知識を深めていただく。
平成24年度実績53名を上回る献血者を確保する。	京都府理容生活衛生同業組合員向け献血PR	継続	京都府理容生活衛生同業組合員	平成25年9月頃	1回	京都府内各献血ルーム	京都府理容生活衛生同業組合の広報誌に広告を掲載し、同組合員等に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、献血者の増加を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	9月と11月	8回	会員の健康増進を図り、献血への意識をさらに高めることを目的に、専門家による健康相談「ヨガ教室」を実施する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	1月	1回	数回献血と健康管理に対する意識をさらに向上させることを目的に「講演会」を実施する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	毎月1回	12回	輸血用血液の安定確保のため、定期的に協力要請メールを送信する。複数回の意識付に有効活用する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	毎月1回	12回	キャンペーン・健康相談事業など会員に関心を持っていただく情報提供メールを送信する。
複数回献血クラブ新規登録目標数を年間2,000人とする	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ未会員	4月～3月		会員募集用リーフレットを300,000枚作成し、複数回献血クラブ会員増加を図る。特に若年層の大学生・専門学生を中心に募集活動を強化する。また、年に6回の登録強化週間を設ける。
複数回献血者の目標値 献血ルームにおける400mL献血の複数回協力者の割合を前年度比5%増を目標とする。	「おこしやす献血キャンペーン 400mL献血キャンペーン」	継続	移動採血車及び献血ルーム来所献血者	平成25年4月1日～平成26年3月31日		「おこしやす献血ルーム400mL献血キャンペーンカード」を献血ルーム及び移動採血での400mL献血者に配付し、次回、献血ルームに来所された400mL献血者に対し、記念品を渡す。 キャンペーン期間中は平成25年4月1日からカードを配付し、記念品交換は平成26年4月30日まで。カードは42,000枚作成し記念品は10,200個を購入する。
その他の目標値 キャンペーンを通じて複数回の献血協力を促すことで、年間献血目標の15,000人を達成する。また、「献血ルーム伏見大手筋移転1周年キャンペーン」(平成24年8月24日～31日)の献血者数は449人(目標は450人で設定)であったが、本キャンペーンも24年度と同じ450人を献血者確保目標とする。	献血ルーム伏見大手筋移転2周年キャンペーン	継続	複数回献血者及び初回献血者	平成25年8月24日(土)～平成25年8月31日(土)	1回	献血ルーム伏見大手筋の移転2周年をマスメディア・インターネット等を活用しキャンペーン展開することで、広範囲に献血ルームの周知及び献血思想の普及を図り、若年層献血者・初回献血者の増加を目指す。 また、次年度以降も3周年、4周年記念と継続してキャンペーンを展開することで、継続した献血者増を目指す。 1. 献血ルームでのイベント ①けんけつちゃんの着ぐるみを活用して、献血の呼びかけを実施する。 ②献血者に移転2周年記念品を贈呈する。 2. 移転2周年キャンペーンの告知 ①キャンペーン告知のポスターを作成し、献血ルーム伏見大手筋近隣の学校・事業所等に掲示を依頼する。 ②京都府赤十字血液センターのホームページ等WEBでキャンペーンを告知する。 ③複数回献血クラブ登録会員へメールで告知する。 ④献血ルーム伏見大手筋の地元に着信したFM局を活用し、キャンペーンの告知・献血ルームの周知、献血思想の普及を図る。 ⑤京都府南部市町村に配付されている地域新聞に広告の掲載とキャンペーンの取材依頼を行う。 ⑥その他マスメディアにイベントの取材依頼を行い、記事の掲載を図る。

エ. その他

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者300人確保	地域マダム参加UPキャンペーン	新規	地域における女性会、PTA、保健協議会等会員	4月～3月	通年実施	初回または久しぶりの献血協力を狙い、400mL献血の確保および献血層の拡大を図る。会議開催時に現行の地域チラシ+ノベルティ物品をつけてPRし、献血参加を促す。
献血ルーム四条の平成25年度目標の献血者数22,053人を達成する。	四条通り地下通路のPR用掲出看板設置	新規	全世代献血者	通年	通年実施	平成23年11月25日に移転した献血ルーム四条の最寄駅である地下鉄四条駅と阪急烏丸駅の地下通路に献血ルームのPR掲出物を設置して、献血ルームの所在地の周知を図り、献血希望者を献血ルームに誘導する。
	はがきによる400mL献血依頼(3ルーム合同事業)	継続	全世代献血者	通年		①献血ルーム合同400mL依頼はがきによる依頼を行う。6か月前、10か月前の400mL献血者へ献血の依頼をおこなう。 ②誕生日月の献血者に、はがきによる依頼を行う。前年度献血者に、はがきを送付し400mL献血の依頼を行う。毎月800通送付し年間10,000通送付予定。依頼期間は誕生日月の1か月間とする。来所者には記念品(バースディプレゼント)を渡す。
献血ルーム伏見大手筋の平成25年度目標の献血者数15,000人を達成する。	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業	継続	大手筋商店街来訪者	通年	数回/日×365日	大手筋商店街のアーケード放送を活用し、商店街の来訪者に献血ルーム伏見大手筋のPR及び献血協力の動機付けを行い、献血者の増加を図る。
献血ルーム伏見大手筋の平成25年度目標の献血者数15,000人を達成する。	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(初回献血者向け)	継続	ケーブルテレビ視聴者	通年	数回/日×365日	有線テレビ放送を活用し、献血ルーム伏見大手筋の内部をより詳細にPRすることで、初回献血者の献血に対する不安等を緩和し、献血への参加意識を高める。
対象取組の24年度実績370人(予定数を含む)の維持	コミュニティーFMのスポット広告	継続	各局聴取エリアの地域住民	5、7、8、12、1、2月	6回	管内のコミュニティー局FMいかる、FMたんば、FMたんごで、イベント献血・街頭献血実施時に合わせスポットCMを流し、献血者の確保につなげる
対象取組の24年度実績3,400人(予定数を含む)の維持	地域新聞への広告	継続	各紙発刊地域の地域住民	毎月	30回	管内の地域新聞(両丹日日新聞、あやべ市民新聞、舞鶴市民新聞)に、イベント献血・街頭献血時に合わせて広告を掲載し、献血者の確保につなげる
年間採血目標(17,087人)の達成	地方紙への広告	継続	京都新聞(丹波・中丹・丹後版)購読者	4月	1回	当出張所の管内と重なる京都新聞の丹波版・中丹版・丹後版に広告を掲載する。前年度の実績とお礼、継続した献血のお願いを行う。
対象取組の24年度実績920人(予定数を含む)の維持	新聞折込ちらし	継続	京丹後市民	毎月	12回	毎月実施しているショッピングセンターでの献血に際し、地域に約10,000枚折込ちらしを実施し、献血者の確保につなげる。
H24年の回収率11.8%を上回る	RE:献血キャンペーン	継続	管内献血者	H25.7月～H26.3月	1回	献血者に記念品引換券を渡し(H25.7月～12月)、冬場の再来をお願いする。期間中(H25.10月～H26.3月)に来所いただいた方に記念品を渡す。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大阪府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	学推サマー献血キャンペーン	新規	若年層	8月	5会場	街頭及び献血ルーム	学生が主体になり献血キャンペーンを行うことで、若年層の共感を得る。 (1)学生自らがポスターやチラシなどの広報物品を作成。 (2)上記広報物品を使用し、街頭献血を主体に呼掛け活動。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	ラクロス献血キャンペーン	継続	大学生	3月(2日間)	8会場	街頭及び献血ルーム	年度末に日本ラクロス協会のメンバーが協力する献血に、記念品を作成し、献血協力者に配布するとともに、献血当日は街頭献血会場で呼びかけ活動も展開する。 この献血運動を今後とも継続し盛り上げていくために、ラクロス協会に因んだ記念品を作成し、献血者に進呈することにより、年度末における献血者の確保を図る。
その他の目標値 参加者全員の献血への意識向上を目指し、街頭での呼びかけボランティア時には、各会場10名の献血者増を目標とする。	サマー献血スクール	継続	高校生	8月	1回	・大阪センター内 ・街頭及び献血ルーム	(1)高校生を対象に献血セミナーを開催し、献血に対する理解を深めてもらう。 (2)実際に街頭等にて献血呼びかけのボランティア体験をしてもらうことにより、血液を確保することの重要性を理解してもらう。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。

イ. 企業等における献血の推進対策

大阪府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度より5～10%の増加	職域献血推進キャンペーン	継続	・新規団体 ・事業所における 400mL献血者	12月～3月	100会場	各事業所	冬季にビル献血や職域献血会場で、告知ポスターや告知チラシ、社内報、再来依頼ハガキ等で推進対策の事前PRをすることにより、献血参加を促し、献血協力者には記念品を進呈する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 400mL献血者の1人当たりの年間回数を1.38回(H23年度1.33回)に、成分献血者の年間回数を3.34回(H23年度3.29回)に、それぞれ引き上げる。	大阪府内共通ポイント制(成分献血・400mL献血)	継続	成分献血者 400mL献血者	通年	大阪府内全献血会場	400mL献血者と成分献血者にポイントカード(400mL・成分共有、有効期限400mL1年間、成分2年間)を配布し、記念品進呈回数時に記念品を進呈することにより、複数回献血者の増加を図り、輸血用血液の安定的な確保を図る。 成分献血者には、3回、10回、15回、20回の協力時に記念品を進呈することにより、複数回献血者の増加を図り、成分献血の安定的な確保を図る。 400mL献血者には、2回目の協力時に記念品を進呈し複数回献血者の増加を図る。	
その他の目標値 30～35%の応諾率	400mL献血プラスワンキャンペーン	継続	固定施設での400mL献血者	9月～3月	12施設	固定施設において、400mL献血協力者にプラスワンカードを20,000枚配布し、次回の400mL献血を依頼し応諾者には記念品を進呈する。	

エ. その他

大阪府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度より5～10%の増加	地域献血推進キャンペーン	新規	400mL献血者	11月～4月	100会場	地域献血において400mL献血者の底上げを図るためキャンペーンを実施し、400mL献血者に記念品を進呈する。
年末年始の計画比100%	年末年始献血者確保対策	継続	予約対象者等	年末年始	10施設	年末年始の血液確保について、各固定採血施設が予約により採血計画を確実に達成するために、予約で協力いただいた献血者に感謝の記念品を進呈し、採血計画の達成を図るとともに、毎年の予約をスムーズに行う。
1会場50人	呼掛け強化(キャラバン隊)	継続	400mL献血者	通年	80会場	街頭等で呼びかけキャラバン隊を結成し、呼びかけを強化し400mL献血確保を図る。
採血計画数100%の確保	ラジオ放送を使用としての献血啓発	継続	一般リスナー	通年	適宜	FM、コミュニティFM、AMなどの放送局を活用し、身近に感じてもらえるような放送局を中心とした献血啓発を行うことにより献血者の確保を図る。
冬季の計画数100%確保	献血者減少期(10月～3月)における献血者確保のための広報	継続	献血対象者	10月～3月	適宜	①ネット広告 性別、年代別、居住地などターゲットをしぼり訴求する ②ラジオスポット放送(ミニFM含む) 人気番組内で生パブの放送をする。ラジオCMを作成し放送する。 ③街頭ビジョン作製・放映 献血啓発・献血者確保用の映像CMを作成し、主要街頭に設置されている街頭ビジョンで放映。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

兵庫県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目 標値 13,847人(献血率6.2%)	若年層献血セミ ナー	継続	小・中・高校生 他	通年実施	30回	各学校及び血液センター	行政と連携のうえ、血液の知識、献血の重要性について献血セミナーを 実施し、高校生をはじめ若年層に対する献血思想の普及啓発に積極的 に取り組み、将来の安定的な献血者確保の基盤形成に努める。
	こども見学会	継続	小学生	7月～8月末	3回以上	血液センター	親子でプレゼンテーション型式によりクイズ等を交えながら 血液と献血について学習してもらい、献血に触れる機会を 増やす。
20代の献血者及び献血率の目 標値 46,658人(献血率8.2%)	はたちの献血キャン ペーン	継続	20代を中心とした 若年層	1月～2月	1回	イベント会場	地元ラジオ局等の協力を得て、成人式を迎えるはたちの若者を中心に 献血の呼びかけを集中的に行う。また、兵庫県学生献血協議会主催の 献血受入れも実施し、若年層への積極的な献血参加の促進、将来の献 血者となる児童等に献血を身近に感じてもらえるようキャンペーンを実 施する。
	献血協力組織育成 事業(兵庫県学生 献血推進協議会活 動助成)	継続	大学生を中心とし た若年層	通年実施	多数回	各学校及び血液センター	兵庫県学生推進協議会が主体となって、大学生をはじめ若年層に対す る献血思想の普及啓発に積極的に取り組むことにより将来の安定的な 献血者確保の基盤形成に努める。
	看護の日献血キャン ペーン	継続	20代を中心とした 若年層	5月	1回	献血ルーム	5月12日の看護の日になみ、毎年5月、県内の献血ルームにおいて 看護学生が自作の広報資材等で若年層を中心に献血の呼びかけを行 う。
その他の目標値 10代～20代の献血構成比を 全献血者の26%とする	複数回献血協力者 確保対策	新規	複数回献血クラブ会 員	通年実施	毎月	県内各献血場所	10～20代の複数回献血クラブ会員を中心に毎月献血依頼メールを配 信し、若年層の献血構成比向上を図る。
	ヴィッセル神戸との コラボレーション	継続	若年層	10月・1月	数回	スタジアム・イベント会場	ヴィッセル神戸(選手)の協力を得て、若年層への積極的な献血参加の 促進と将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうことを目 的にスタジアム内外での啓発や献血キャンペーン等を実施する。
	INAC神戸とのコラ ボレーション	新規	若年層	ホームゲーム開催月	数回	スタジアム・イベント会場	INAC神戸(選手)の協力を得て、若年層への積極的な献血参加の促進 と将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうことを目的に スタジアム内外での啓発や献血キャンペーン等を実施する。
	もっと知って赤十字 と献血	新規	若年層	5月	2回以上	県内赤十字施設等	県内の赤十字施設と連携のうえ、献血の重要性と赤十字活動を広く県 民に周知し、若年層を中心に理解者を増やす。

その他の目標値 10代～20代の献血構成比を 全献血者の26%とする	愛の血液助け合い	継続	若年層	7月	数回	スタジアム・イベント会場	愛の血液助け合い運動月間である7月において、若年層に人気のあるサッカークラブ(選手)等による若年層への積極的な献血参加の呼びかけ及び将来の献血者となる児童等への啓発活動を実施する。
	新聞広告	継続	若年層	通年実施	毎月	県内全域	新聞広告の活用等により効果的な画像による広報等を行い、若年層の献血受入を積極的に行う。
	大型ビジョンによる 広告	継続	若年層	通年実施	毎月	献血ルーム付近の大型ビ ジョン他	献血ルーム近辺に設置されている大型ビジョンの活用等により、効果的な映像を配信し、若年層の献血受入を積極的に行う。
	広報物(冊子・情報 誌)の作製	継続	若年層	通年実施	毎月	各施設	若年層をターゲットとした広報物を作製し献血思想の普及を図る。
	学生献血キャン ペーン	継続	高校、大学生他	通年実施	110回	高校、中学校等、県内の 学内献血会場	献血セミナーの実施と併せて、若者の献血に対する負のイメージを軽減できるような、また若者が知りたい情報の提供、献血に親しみを持ってもらえるよう独自の記念品等を作製し、高校献血の拡充と大学等における献血参加者の増を図る。
	ひまわり献血・クリ スマス献血キャン ペーン	継続	学生および来店者	8月・12月	2回	姫路市内店舗	姫路赤十字看護専門学校学生及びLCの共催により、8月(ひまわり献血キャンペーン)、12月(クリスマス献血キャンペーン)に着ぐるみ、風船等を配布し来店者への献血を呼びかけを行う。本キャンペーンについては、夏季、冬季の血液不足を補うこと及び若年層に献血の理解と協力を訴えたとともに、学生ボランティアの育成を主たる目的とする。
	10・20代献血拡大 キャンペーン(生 徒・学生拡大キャン ペーン)	継続	若年層(高校生・ 大学生・その他学 生等)	通年実施	毎日	○10代・20代献血拡大 全献血ルーム ○生徒・学生拡大 塚口ルーム・新長田ルー ム	○10代・20代の献血(若年層献血者確保対策事業) 友達紹介カードを作成、配付し献血者の知り合いの方の協力を得る。紹介者及び協力者に記念品を提供する。 ○生徒・学生拡大 対象者にけんけつちゃん関連グッズを進呈し、本人のリピート効果とともに校内での口コミ効果を狙う。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
100団体	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業、団体	通年実施	150回	企業、団体	献血サポーターマーク(ロゴマーク)を協力団体、企業に対して配付することにより、より一層献血に対する理解を深めてもらい、継続的な協力はもとより不足時等における積極的な協力が得られるよう努める。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

兵庫県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血クラブ会員新規登録者年間4,500人	複数回献血協力者確保対策	継続	未登録者	通年実施	多数回	大学や献血ルームにおいて、推進担当者が積極的に勧誘する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
12月～3月の採血計画達成(51,173人)	冬季の血液確保キャンペーン	新規	主に全血	12月～3月	1回	最も献血者確保が厳しい時期の対策として、新聞等の広報の実施と献血キャンペーンを実施し協力を促す。
12月～3月の採血計画達成(69,621人)	冬季用啓発資料の作製	継続	全献血者	12月～3月	多数回	最も献血者確保が厳しい時期の対策として、記念品を作製し献血協力を促す。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(121,409人)	献血ポイントキャンペーン	継続	400・成分献血者	通年実施	1回	献血種別ごとにポイントを設け一定のポイントが貯まれば記念品を進呈する。 (献血ポイントを作成し押印より確認する) ポイント内容:400mL=男性3ポイント、女性4ポイント 血小板=2ポイント 血漿=1ポイント 平日協力=1ポイント
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(3月:10,605人)	ひなまつり献血キャンペーン	継続	全献血者	3月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、ひなまつりにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。ひなまつりにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(5月:10,342人)	端午の節句献血キャンペーン	継続	全献血者	5月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、端午の節句にちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。端午の節句にちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(7月:10,489人)	七夕献血キャンペーン	継続	全献血者	7月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、七夕にちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。七夕にちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。

献血ルームの平成25年度採血計画数達成(10月:10,600人)	ハロウィン献血キャンペーン	継続	全献血者	10月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、ハロウィンにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。ハロウィンにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(12月:10810人)	クリスマス献血キャンペーン	継続	全献血者	12月	1回	県下全献血ルームにて、クリスマスにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。クリスマスにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(2月:10,105人)	バレンタイン献血キャンペーン	継続	全献血者	2月	1回	県下全献血ルームにて、バレンタインにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。バレンタインにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(女性:13,592人)	ネイルケア	継続	献血者中の希望者(女性)	通年実施	月4～6回程度の実施	ヒューマンアカデミー神戸校の学生ボランティアによるネイルケアの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表を作成、配付し事前周知を行っている。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(年間:34,549人)	アロマリンパマッサージ	継続	献血者中の希望者	通年実施	月2回程度の実施	ボランティアの方によるアロマリンパマッサージの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表を作成、配付し事前周知をおこなっている。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(年間:34,549人)	盆点前	継続	献血者中の希望者	通年実施	月2回の度実施	勸エム・オー・エー美術・文化財団の方による、お抹茶、お茶菓子のサービス。(1日30人限定)
実施時期における採血計画達成(期間中:8,789人)	けんけつちゃん誕生日	新規	全献血者	10月22日前後1週間	1	けんけつちゃんの誕生日に合わせ大々的広報を展開し、けんけつちゃんの周知とともに献血協力に繋げる。
月・火・水の血小板指示数確保(月火水平均300人)	平日(月・火・水)血小板キャンペーン	新規	平日(月・火・水)の血小板献血者	通年	毎週月・火・水	血小板の採血指示数が多い平日の月・火・水に限定し、献血いただいた方に感謝の気持ちとして記念品を進呈し次回協力にも繋げる。ホームページ及びチラシ等を作製し広く周知することで血小板献血者を獲得する。
三宮センター街出張所(午前中)平日20名、土日祝30名確保	ハッピータイムキャンペーン	継続	三宮センター街出張所の献血者	通年	毎日	献血協力の少ない午前中の献血者及び午前中のリピーターを確保するため、平日先着20名、土・日・祝日30名にミニクワッサンを進呈する。
三宮センター街出張所平日の採血計画達成(44人/日)	平日献血キャンペーン	継続	三宮センター街出張所の献血者	通年(平日)	毎平日	平日の献血協力者を増やし計画数を達成するため、協力者にレトルトカレー等を進呈する。
三宮センター街出張所における下半期採血計画達成(下半期:8177人)	400mL献血キャンペーン(下半期)	継続	三宮センター街出張所の献血者	平成25年10月～平成26年3	期間中	下半期の血液確保対策として、ホームページや依頼はがきなどにより当該キャンペーンを事前周知し、献血協力者に対して記念品を進呈する。

新長田出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:9,042人)	鉄人ルーム献血感謝の日キャンペーン	継続	新長田出張所の全献血者	毎月28日	12回	抽選権応募方式により応募を受け、「鉄人28号」にちなんで毎月28日に抽選を行い当選者に記念品を贈呈し感謝の意を表す。
新長田出張所における平成25年度下半期採血目標達成(下半期:4,569人)	鉄人献血ルーム献血強化キャンペーン	継続	新長田出張所の全献血者	平成25年10月～平成26年3月	期間中	下半期の血液確保対策として、ホームページや依頼はがきなどにより当該キャンペーンを事前周知し、献血協力者に対して記念品を進呈する。
新長田出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:9,042人)	紹介カード及びPTA会員ならびにスポーツクラブ会員証提示	新規	新長田出張所の紹介カード持参者及びPTA会員ならびにスポーツクラブ会員証持参者	通年	毎日	紹介カード及び献血協力団体であるPTAの会員ならびにスポーツクラブの会員証を持参した献血者に対して記念品を進呈し感謝の意を伝える。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	飾り付け大作戦	継続	尼崎出張所の献血者	毎月	12回	毎月毎に季節感あふれる飾り付けをルーム内外に施し、リピーターの多い塚口ルームの献血者に楽しんでいただく。それにより毎月来ていただけるよう誘導していく。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	平日献血拡大	継続	尼崎出張所の献血者	通年(平日)	毎平日	平日献血者に「けんけつちゃん瓦せんべい」進呈し、平日の安定確保を図る。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	PTA献血	継続	尼崎出張所のPTA関係献血者	通年	都度	PTA主催献血に際し、記念品を進呈することとし、事前PR、口コミ効果等に活用していただく。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(期間中:335人)	サマー献血	継続	尼崎出張所の献血者	8月(1週間)	1回(7日間)	ルームの入居するさんさんタウンの年間での一大イベントである夏祭り期間に合わせ記念品を提供し地域全体の盛り上げ効果を狙う。また、夏祭り協賛事業としてうちわ製作費を計上する。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	けんけつちゃん周知	新規	尼崎出張所の献血者	通年	毎日	ルーム入口に「けんけつちゃん」のエアードisplayを設置し、献血者が立ち寄りやすい環境を整備する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

奈良県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
目標数 10代 1,500名 20代 2,000名	若年層確保イベント	新規	10代・20代全般	7月、8月・12月、1月・3月 (長期休み時期)	3回	・街頭献血 ・街頭イベント会場	男性向:アニメポスター(初音ミク等)女性向:スイーツの記念品を軸にしたイベントを実施し、イベント時の採血増加を図る。(1日100名の目標)また、イベント時に引換券を配布し、その後の献血時に記念品との引換(同等品)を実施する。(目標1,000人)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回実施企業20社	企業複数回献血依頼	新規	単数回実施企業	通年	2	各企業	現在、年に1回のみの実施企業を年に複数回実施していただけるように依頼する。
企業紹介依頼10社	企業紹介依頼	新規	各関連企業	通年	1	各企業	現在、献血を実施している企業より、関連企業の紹介をしていただき、新規企業の獲得を目指す。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
新規登録者年間1,000名	会員向けイベント	継続	複数回会員登録者	通年	60回	会員の方向けにイベント(マッサージ、カラーセラピー等)を実施し、未登録の方も当日入会すれば参加できると説明し、勧誘をする。	
目標採血数 5,000名						この計画での採血目標数を5,000名に設定する。	
新規登録者年間500名	パンフレットの配布	継続	未登録者	通年	-	パンフレットを作成し、献血者の方に配る。	
成分献血(血小板)1日3名増	献血可能日当日献血	新規	献血経験者	通年	-	次回献血可能日の当日に献血をしていただいた方に記念品を進呈する。厳密に当日のみとするか、数日以内とするかは要検討。採血種類を400mLと血小板に限定する。	

エ. その他

奈良県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
母体成分 7,000名	成分・全血ポイントキャンペーン	継続	成分・400mL献血者	H25.7.1～H26.1.31	1回	成分・400mL献血1回につきポイントを進呈し、ポイントが貯まることにプレゼントを進呈する。
各イベント毎 1日50名	季節のイベント	継続	母体献血者	通年	8～10回	ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、ひな祭り等の際にお菓子のプレゼントや、くじ引きイベントを実施する。
母体400mL 10%増(10%=180名)	友達紹介キャンペーン	新規	未献血者	通年	1回	母体で400mL献血をしていただいた方に友達紹介チケットを渡し、次回献血未経験の方と一緒に献血に来ていただく。来ていただいた方にプレゼントを進呈する。
年間6,000枚 応諾率10%	献血サポーターキャンペーン	新規	固定施設での400mL献血者	通年	1回	固定施設で400mL献血協力者に専用はがきを渡し、自分への献血メッセージを記入していただく。献血期間が空いた時や血液不足時期にセンターからそのハガキを郵送する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

和歌山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,350人(6.4%)	高校生献血記念品	継続	献血者	通年	30	各高等学校	高校生献血実施に献血に協力いただいた高校生に対し、参加記念品として文房具などのノベルティグッズを進呈。
	専修学校生・大学生献血記念品	新規	献血者	通年	25	各学校	若者が貰って喜ぶ記念品を用意し、献血への参加を促す。 (20代献血者確保も兼ねる)
	高校生献血セミナー	継続	高校生	通年	5	各学校	各学校へ出向きセミナーを実施し、献血への関心を持ってもらう。 セミナー参加者には参加記念品(ノベルティグッズ)を進呈。
	大学生(専修学生)献血セミナー	新規	大学生及び専修学生	通年	3	各学校	各学校へ出向きセミナーを実施し、献血への関心を持ってもらう。 会場には和歌山県の献血の状況を知っていただくため、平成23年度の各実績をパネルにして展示。 セミナー参加者には参加記念品(ノベルティグッズ)を進呈。 (20代献血者確保も兼ねる)
	和歌山県学生献血推進協議会献血啓発キャンペーン	継続	高校生及び大学生等	通年	14	和歌山県内全域	和歌山県内各献血会場において、若者に献血に応じていただけるよう、学推メンバーが、その時期に応じた呼びかけ・接遇等に自分達でアイデアを出し、献血啓発イベントを開催する。 また、学推限定の紹介カード等を用意して、メンバーが各学校の友達等に配布し、献血協力を訴える。 紹介カード等は学推キャンペーン時に限定し、紹介カードを持参の方にオリジナル記念品を進呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 7,500人(8.8%)	はたちの献血ラジオキャンペーン	継続	ラジオ聴視者	1月・2月	1	和歌山県内全域	冬季の献血者確保対策の一つとして、はたちの若者を中心とした若年層へ、献血への理解と協力を訴えるCMスポット放送を行う。 また、地元ラジオ局で特別番組を制作し、輸血を受けた人の声などを流し、献血への協力へ繋げる。
	和歌山県学生献血推進協議会献血啓発キャンペーン	継続	高校生及び大学生等	通年	14	和歌山県内全域	和歌山県内各献血会場において、若者に献血に応じていただけるよう、学推メンバーが、その時期に応じた呼びかけ・接遇等に自分達でアイデアを出し、献血啓発イベントを開催する。 また、学推限定の紹介カード等を用意して、メンバーが各学校の友達等に配布し、献血協力を訴える。 紹介カード等は学推キャンペーン時に限定し、紹介カードを持参の方にオリジナル記念品を進呈する。

イ. 企業等における献血の推進対策

和歌山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター20社確保	渉外用ノベルティグッズ作製	新規	企業・団体担当者	通年	600	各企業及び団体	渉外活動時に各担当者へ配布。 複数回献血に理解・協力を訴え、献血サポーターへの入会を促す。 また、ノベルティグッズを配布することにより日頃より献血に関心を持ってもらいたい。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 複数回献血者を平成23年度実績より2,000人増。	「献血+ポッキーキャンペーン」	継続	献血者	3月	1	「あと1回・あと1人の献血で助かるいのち」と題し、3月の1ヶ月間に移動採血にて献血への協力を頂い方に対し、グリコチョコレートポッキー(大入り袋)をプレゼントする。	
	「献血でエッ!グー」キャンペーン	継続	献血者	12月・1月	20	街頭献血での献血処遇品をしてたまご10個入り1パックを進呈	
	事前依頼ハガキ応諾者の促進	継続	献血者	通年	1	事前依頼ハガキの応諾者に対して記念品オリジナルハンドソープを用意し、複数回献血者増に繋げる。	
	年間複数回献血者の促進	継続	献血者	通年	1	1年間に複数回の献血者に対して記念品オリジナル歯磨き粉を用意し、年間複数回献血を促す。	
その他の目標値 複数回献血クラブメール会員600人増	メール会員登録イベント	新規	献血者	通年	12	月1回の学推主催献血啓発キャンペーン時の献血者に対し、メール会員への誘発を行う。 また、入会者には記念品を贈呈。	
	クラブ募集用パンフレット	継続	献血者	通年	1	各献血会場にて献血者に対し、複数回献血クラブ募集用に配布。	

エ. その他

和歌山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加児童40人以上	夏休み献血ふれあい体験学習	継続	小学生(保護者同伴)	8月	1	小学生と保護者を対象に、近畿ブロック血液センターと血液管理センターの施設見学と、移動のバス車中において献血推進DVDを視聴し、おもしろ献血クイズ等を交えながら学んで頂く。
参加児童20人以上	親子で献血ボランティア	新規	小学生(保護者同伴)	11月	1	小学生とその保護者を対象に、献血セミナーを実施後、献血会場にて小学生には献血啓発を行ってもらい、保護者には献血に協力いただく。後日、献血していただいた血液の検査・製造過程(ブロックセンター)を保護者同伴で見学を行う。
中学校10校(生徒300人)	フレッシュ献血セミナー	新規	中学生	通年	10	各中学校へ出向き生徒を対象に「フレッシュ献血セミナー」と称し、セミナーを実施する。今後、献血可能年齢に達したときの献血への動機付けや、きつかけを与える。
参加学生100名以上	学推研修会	継続	専修学校及び大学生	12月	1	献血に関連のある講師を招き講演会を実施。また、講師とボランティア学生のボランティアミーティングなども併せて行い、今後の献血啓発活動のスキルアップに繋げる。その他にも献血のできる健康な体作りなどの講演も併せて実施。
参加件数100件	あなたのブログが命を救う	継続	献血者	通年	1	「あなたのブログが命を救う」と称し、地域密着型情報サイトを活用し、情報サイト会員に献血バス、献血ルームにて献血にご協力いただいた写真などを載せ、献血推進の内容を自身のブログで掲載していただく。掲載者には記念品(ノベルティグッズ)を進呈。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鳥取県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 県下高等学校32校の1/3(10校)を目標に献血の推進を図る。 県下高等学校32校の1/3(10校)に参加いただくことを目標とする。 10代の献血率を6%とする。	高等学校への献血セミナー	継続	高校生	5月～2月	10回	高等学校	高校2・3年生を対象に資料を配布し、血液の必要性を説明し推進を図る。(参加者:1校30名を予定、10校延べ300名を予定)
	10代献血者確保	新規	高校生	5月～2月	随時	固定施設 街頭献血会場	高等学校等に街頭献血日程等を掲載したリーフレットを配布し、固定施設や街頭献血会場で献血に協力いただく。
	若年者セミナー	継続	高校生	7月～8月	3回	県内のショッピングセンター	高校生を対象に血液の必要性の学習を行うとともに献血呼びかけ体験を通じて献血意識の向上を図る。(参加者:1回3～5校30名を予定、3回延べ90名を予定)
20代の献血者及び献血率の目標値 20代の献血率を9%とする。	献血者紹介	新規	大学生	5月～2月	8回	大学 専門学校 等	大学献血会場で献血者紹介キャンペーンを実施する。具体的な内容としては、献血者の方に献血未経験者を誘ってお越しいただく。献血経験がある人からない人への拡大及び献血紹介者の複数回献血への誘導を行う。
	献血協力団体の育成	継続	大学生	4月～12月	2回	大学	資料を配布し、血液の現状や必要性を説明し、夏季・冬期の献血者不足時に効果的な推進を図る。
その他の目標値 300人の参加が得られることを目標とする。	青少年等献血ふれあい事業 (献血セミナー)	継続	小学生 中学生	7月～8月	10回	血液センター 県内会議室	県内小学校高学年や中学生を対象にスライドを活用した学習をはじめ、血液センターの見学や移動採血車の見学を取り入れ実施する。 (土日を含め5日間、延べ10回開催:対象者300人)

イ. 企業等における献血の推進対策

鳥取県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図るため、100社を目標にロゴマークを配布する。	献血協賛企業活動推進	継続	企業・団体	4月～3月	500回	県内の企業・団体	献血広報資料に献血サポーター事業所名や後援している内容を掲載し、県内500事業所に広報資料を配布し、登録を推進する。
献血推進団体主催の協力実績が前年の回数を上回るよう推進を図る。(16回以上)	献血協力団体の育成	継続	大学生 ライオンズクラブ	4月～12月	17回	大学 ライオンズクラブ事務局	資料を配布し、血液の現状や必要性を説明し、夏季・冬の献血者不足時に効果的な採血となるよう推進を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 480名以上の複数回献血協力者を得ることを目標とする。	複数回献血協力者確保	継続	複数回献血クラブに登録されていない献血協力者	4月～3月	24回	複数回献血クラブに登録されていない方2,400名にダイレクトメールで要請を行ない、応諾率20%以上(480名以上)の協力を得る。 1回100名を対象に年24回ダイレクトメール要請を行う。	
新規登録者を700人確保する。	複数回献血協力者確保	継続	献血協力者	4月～3月	773回	全献血会場(776稼働)で職員や献血推進サークル部員を配置し、紹介用リーフレットを活用して推進を図る。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
各種キャンペーンを実施し、3,250人の献血協力者を確保する。	献血者確保対策(各種キャンペーン)	継続	献血協力者	6月～2月	9回	広く県民への献血の普及啓発を図るため、報道機関を活用し各種キャンペーンを実施する。 ・世界献血者デーキャンペーン ・愛の血液助け合い運動月間キャンペーン ・はたちの献血キャンペーン ・サマー献血キャンペーン ・年末年始キャンペーン ・クリスマス献血キャンペーン ・バレンタインキャンペーン ・若年層確保キャンペーン ・献血者紹介キャンペーン	
午前中の血小板成分献血者4,500人を確保する。	献血者確保対策(固定施設イベント)	継続	献血協力者	4月～3月	471回	母体開所250日、ルーム開所216日(計466日)で午前中の血小板成分献血者を確保し、意識の向上を図るため、午前中の協力者に記念品を贈呈する。 (4,500人を対象)	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

島根県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 1032人 献血率 4.0%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	10代の若年層	通年	連続	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で、10代・20代の献血協力者に記念品を進呈する。献血された方に、「若年層献血推進キャンペーン」紹介カードを渡し、カードを持って来られた方には本人用と紹介者用に記念品を2個進呈する)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	高校・高専献血セミナー	継続	高校生	通年	7回	各高校	高校及び高校JRC研修会等に出向き、若年層献血率アップの必要性と献血の流れ・注意事項など正しい知識の普及啓発を図る。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	7回	各高校	セミナー等で正しい知識を持ってもらった上で、高校の文化祭等に配車して高校生の献血を受け入れる。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 4959人 献血率 8.7%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	20代の若年層	通年	連続	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で、10代・20代の献血協力者に記念品を進呈する。献血された方に、「若年層献血推進キャンペーン」紹介カードを渡し、カードを持って来られた方には本人用と紹介者用に記念品を2個進呈する)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	学生献血推進ボランティア組織強化	継続	大学・短大	通年	2回	大学・短大	学生献血推進ボランティア組織加盟校を1校増加させ、学生献血推進ボランティア研修会を2回実施する。
	若年層向け広報展開	新規(継続)	若年層	通年	随時		大学祭等のパンフレット、タウン情報誌に若年層向けの献血啓発広告を掲載する。また、TV・ラジオで本部キャンペーンCMを掲出する。フェイスブック、ツイッターによる若年層向け広報を行う。
	大学・専門学校献血セミナー	継続	若年層	通年	随時	大学・専門学校	大学、専門学校の献血実施時に合わせ、献血啓発ビデオの上映等により献血セミナーを実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

島根県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター企業(団体)を5社以上増加する。	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協賛企業(団体)	通年	随時	各企業(団体)	献血協賛企業に献血サポーターとして登録いただき、一層の献血推進活動の促進を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 新規入会者 500名	複数回献血クラブ登録強化	継続	未入会の献血協力者	通年	随時	複数回献血クラブ入会募集パンフレットを作成し、固定施設(母体、ふれあい)や移動採血(大学・高専・街頭献血等)で随時案内を行い入会促進を図る。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
参加者 180名	小学生親子血液センター見学・体験教室	継続	小学校5・6年生	8月	6回	小学生を対象に親子で献血や血液についての学習や採血・供給の仕事を見学し、献血への関心と親しみを持っていただく。	
参加者 100名	献血推進団体との連携事業	新規	各献血推進団体	通年	4回	新たにライオンズクラブとの研修会を行い、連携強化と献血協力者増を図る。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岡山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成25年度10代献血率6.9%	献血デザインコンテスト	新規	小学生、中学生、高校生、大学生、専門学校生	7月～3月	1回	郵送、Web、メールによる	デザインコンテストに応募する図案を作成する過程で、自らが献血に関する事項を調べ、共感や疑問を持つことで献血の重要性と必要性への理解を深める。優秀作品は表彰し広報資料に活用する。
	いのちと俳句コンテスト	継続	主に小学生、中学生、高校生、大学生、専門学校生	2月	1回	郵送、Web、メールによる	献血に関する俳句を詠む過程で、自らが献血に関する事項を調べ、共感や疑問を持つことで献血の重要性と必要性への理解を深める。優秀作品は表彰する。
	小学生・中学生献血体験教室	新規	小学生、中学生	7月、12月	2回	イオン倉敷ショッピングセンター他	ショッピングモールにおいて、小学生に献血の疑似体験を行う。また、中、高、大学生が採血業務の疑似体験を行う事により普及啓発を図る。併せて将来的な献血者の確保に繋げる。
	ふれあい移動献血車	継続	高校生	4月～3月	15回	県内各高校	近年減少傾向にある若年層の献血者を確保するため、出前講座による普及啓発と併せ積極的に学内での献血実施を行う。
	献血de雑誌もらっちゃおうキャンペーン	新規	高校生、大学生、専門学生	4月～3月	平日約230日	献血ルーム等	10代、20代に人気の週刊誌を発売日とその翌日に限定し、処遇品として進呈する。市内の学校等に周知のポスターを掲示し、献血率の向上を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成25年度20代献血率8.8%	学連主催献血キャンペーン	継続	大学生・専門学生	4月～12月	4回	街頭献血	学生ボランティア団体主催の献血実施場所において、ボランティアと同世代の若年層の献血者の増加を図るとともに献血の啓発を行う。
	学生ボランティア献血セミナー	継続	大学生・専門学生	6月	1回	県内研修施設	学生ボランティアの献血に関する知識向上及び、メンバー間の親睦を深めることで、団体としての意識の向上、質の向上をさせることを目的とする。
	就職お役立ちマナー講座	新規	大学生・専門学生	4月～3月	6回	血液センター	就職活動を控えた大学生、専門学校生をターゲットとして、固定施設に講師を招き面接、企業訪問時、就職後のビジネスマンにマナー研修および献血に関する講義を実施し、固定施設の周知を図るとともに、若年層献血者の増加を図る。
	大学献血プレゼントキャンペーン	継続	大学生・専門学生	4月～3月	30回	大学構内、専門学校内の献血会場	大学内の献血実施時に献血頂いた学生にカップラーメンを贈呈し、大学生の献血者、特に初回献血者を増加させる。
	新入生限定キャンペーン	新規	大学生・専門学生	4月～6月	母体開所日 全日	血液センター	新学期を迎えた学生を対象に血液センターで献血頂いた学生に記念品を進呈する。固定施設(母体)の認知度を向上させると共に若年層の増加を目的とする。

その他の目標値 出前講座年間30回実施 親子体験教室14回実施	赤十字出前講座	継続	高校生	4月～3月	30回	県内各高校	実施にあたっては、県支部とタイアップしてAED講習と併せておこなっている。3ヶ年で県内全ての高校での実施を考えている。
	夏休み小学生親子血液センター体験教室	継続	小学5、6年生および保護者	7月～8月	14回	血液センター	県教育委員会の後援をいただいた後、県内各小学校に参加依頼文・チラシを郵送し参加者の募集を行う。併せて、HPによる参加者募集の呼び掛けも行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
未実施協力団体に対し、30社新規登録を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	未実施協力団体	4月～3月		県内各未実施協力団体	現在、献血未実施である協力団体を訪問し、献血への理解を頂くとともに、実施を依頼し協力企業数の底上げを図る。
休眠協力団体に対し、20社に献血実施の依頼を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	休眠協力団体	4月～3月		県内各休眠協力団体	現在、休眠状態である協力団体を訪問、掘り起こしを図り協力企業数の底上げする。
ライオンズクラブの協力件数を9件増加させる	各種団体等における献血の推進対策	継続	ライオンズクラブ	7～8月	1回	県下研修施設	岡山県下のライオンズクラブを一同に会し、行政や患者団体を招いて岡山県の血液事業の現状と問題点・改善点、岡山県の高度医療を支えるための方策等を話し合う。
県北地域の採血一稼働あたりの採血人数を2人増加させる。	各種団体等における献血の推進対策	新規	医療機関、県市町村、ライオンズ他	11月	1回	津山供給出張所	血液の安定供給に関する会議を開催し情報交換を行うとともに、県北における血液事業の在り方を検討し血液の確保の必要を啓発する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
イベント実施日の献血者数を他の曜日との50%(20名)増	鉢花キャンペーン	継続	固定施設での献血者	4月～3月		製剤集約以降、特に血小板の採血必要数が高まった月曜～水曜の確保強化対策の一環として、母体では毎週火曜日、ルームでは毎週水曜日鉢花を提供し確保を図る。また、曜日を限定することで継続的な協力を促す。
年間の血小板献血者数の40%	予約献血ポイント キャンペーン	新規	血小板成分献血協力者	4月～3月		ポイントカードを作成し、初めて血小板献血へ協力いただいた方に配布する。その内、予約いただいた方にポイントを付与し、獲得したポイント数に応じた記念品を進呈する。また、併せてカードが一杯になった方には改めてカードを配布し、継続的な協力をお願いする。それにより、当日の血小板採血数を予測し、確実な確保を図る。
血小板成分献血協力者を1600人/月確保する	お米プレゼント	新規	血小板成分献血協力者	4月～3月		血小板成分献血協力者に対し、処遇品としてお米(1kg)を進呈する。他の種類の献血者と差別化を図ることで、継続的な協力、安定的な採血体制を確立する。
メール及びハガキの要請に対する応諾率20%以上	メール・ハガキ来て 見てキャンペーン	新規	全献血者	4月～3月		全献血会場(移動及び固定)での過去献血協力者に対しメールまたはハガキで献血依頼を行う。献血時に当該依頼ハガキまたはメールを提示いただいた方に記念品を進呈する。継続して依頼を行う事により、リピーターの数を増加させ、安定的な確保を図る。
母体の採血数を1実施日当たり5人増加させる。実施期間を通して合計120人増加させる。	ハーゲンダッツアイ スキャンベン	新規	母体での献血者	7月～9月	24回	製剤集約以降、特に血小板の採血必要数が高まった月曜～水曜の確保強化対策の一環として、毎週月・水曜日に母体での献血者に対しアイスクリームを提供する。特に大学生が夏休みである8、9月の増加を図るため、実施にあたり事前に近隣の大学へポスター掲示による周知を行う。併せて、複数回メールクラブ会員への周知も行う。
固定施設における年末年始の献血協力者を750人確保する	年末年始キャン ペーン	新規	固定施設での献血者	12月～1月	12回	年末年始に献血された方に対しお菓子の詰め合わせを提供する。なお、12月31日、1月2日の両日、血小板の完全予約制で母体を臨時開所する予定であるが、特に年始に予約された方に対し「ぜんざい」のサービスも併せておこなう。それにより、協力が得られにくい年末年始の血小板製剤をブロックからの計画通り確保する。
新規登録者270人/月 (移動施設)160人/月 (センター)50人/月 (ルーム)60人/月	複数回献血クラブ 新規会員増加キャン ペーン	新規	献血経験者	4月～3月		複数回献血クラブの式会員を獲得するため、各会場において献血履歴のある方にクラブへの入会を勧奨し、入会者に記念品を進呈する。同時に、過去に献血経験のある方にクラブのチラシや岡山県の血液事業についての資料を送付し、勧誘する。また、従来ハガキで行っていた献血会場の案内告知を封書に切り替え、チラシを同封して周知を図る。
献血者560人増/年	「献血Now!」キャン ペーン	新規	全献血者	12月～3月		各献血会場で、献血を行った方を対象にその場でSMSに「献血Now!」と書き込んでいただく。その画面を提示された方また、知り合いの書き込みを提示し献血された方に記念品を進呈する。書き込みを行う事により、献血者自身の社会に貢献しているという社会的欲求を満たすと共に、読んだ人へも献血への自発行動を促す。
自筆ハガキの要請に対する応諾率40%以上	自筆ハガキキャン ペーン	新規	400mL献血協力者	(配布期間)9月～10月 (交換期限)3月末		血液不足時等に安定的に血液を確保することを目的に、400mL献血者を対象として接遇時に自分あての依頼ハガキを書いていただく。実際に血液が不足した際に当該ハガキを投函し血液を確保すると共に、複数回献血者数の増加を図る。

献血者1,400人増/年	Anniversary 献血キャンペーン	新規	固定施設での献血者	4月～3月		「家庭」という単位で献血の思想普及を図ることを目的に、本人、配偶者、子供等の誕生日に献血していただいた方に記念品を進呈する。親子で助け合う心を育むきっかけとし、年間を通して継続的な協力をいただく。
400mL献血者1,000人増/年 初回献血者500人増/年	400mL献血ポイントカードキャンペーン	新規	400mL献血協力者	4月～3月		400mL献血者を対象に献血1回毎に1ポイントのカードを渡す。また、初回者を同伴し献血できた場合も1ポイント券を渡す。ポイント数に応じて、プレゼントを設定し、規定のポイントに達した場合、該当する記念品を進呈する。ポイント獲得に向けて、複数回の協力率の増加および初回献血者の増加を図る事を目的とする。
献血者2,400人増/年	献血ルームももたろう献血ツアーキャンペーン	新規	全県民	4月～3月	48回	県内の保健所単位で400mL献血希望者50人を募集し、貸し切りバスで移転オープンした献血ルームの見学および献血を体験していただく。これにより、固定施設の周知を図ると共に、献血バスの配車が難しい地域から参加いただくことにより献血者の掘り起こしにも繋がる。
献血者280人/年	初回献血者紹介「一緒に献血！」キャンペーン	新規	固定施設での既献血者	4月～3月		固定施設での既献血者を対象として、新規および初回献血者を紹介していただく。一緒に来場された紹介者と既献血者をデジカメで撮影、パソコンで加工後フォトフレームに入れ進呈する。新規献血者の増加を図ると共に、しばらく献血から遠ざかっていた新規献血者をとりこむことにより、献血者全体の底上げを図る。
献血バスでの献血者数80名	ファジアーノサッカー観戦者イベント	新規	全県民	4月～5月		地元のJリーグクラブ「ファジアーノ岡山」のホームゲーム開催日にバスを配車し献血を実施する。当日の献血者にはクラブオフィシャルグッズ及び選手のサイン引換券を進呈する。また、複数回クラブに入会された方には、別途処遇品(うちわ)を進呈する。サポーターを対象とすることで、若年層対策の一助とし、またスタジアムに隣接する母体の周知も図る。
固定施設での前年同時期、同曜日の献血者数20%増	世界献血者デーイベント	新規	全県民	6月		より多くの方に安全な血液や定期的な無償献血の重要性に対する認識を広めると共に、HP掲載や渉外時の事前周知により全県民を対象に献血への協力を図る。当日は全会場で献血協力者に対して記念品を進呈し、継続的な協力を求める。また、報道機関等を通じて、安全な血液や定期的な無償献血の重要性をアピールする。
イオンモール倉敷での献血者420人増/年	イオンモール倉敷献血deグルメイベント	新規	イオンモール倉敷での献血者	4月～3月		イオンモール倉敷での献血者に対し、当日献血の印字がある献血カードを同店内に出店している飲食店等で提示すると、割引等の特典を付与する。同会場での献血者数増加を図ると共に、恒常的に行う事によりリピーターの増加も図る。
イベント実施月の出張所における複数回クラブ入会者90名	表町出張所60万人達成イベント	新規	全県民	8月頃		H25.8月頃に表町出張所開所より通算60万人を達成する見込みである。それに伴い、式典を開催し、大学生による演奏、くす玉割り、当該献血者への記念品贈呈・写真撮影等を実施する。マスコミの報道により、全県民に対し移転後約1年となる献血ルームの一層の周知を図る。また、将来的な献血者確保に繋げる。
イベント実施月の出張所における複数回クラブ入会者90名	献血ルームももたろう10・10開設イベント	新規	全県民	10月		献血ルームの移転オープンした日である10月10日を「10・10献血ルームももたろうデー」と命名し、毎年各種イベントを実施する。1年目である今年度の内容は、岡山ゆかりの著名人による公演やショーを行う。毎年継続的に実施することにより、マスコミの報道を通じて、全県民に対し献血ルームの一層の周知を図ると共に、献血の重要性を呼び掛ける。
津山市及び近隣の住民に対し年4回実施。1回当たりの参加人数30名。全員にアンケートを実施。「次回献血の機会があれば協力する」の回答が85%以上	津山供給出張所内見学ツアーイベント	新規	津山市及び近隣の住民	4月～3月		津山供給出張所の近隣住民に対し、献血した血液がどのような過程を通して医療機関へ届けられているのか説明することにより、意識の向上を図ると共に献血への協力を呼び掛ける。参加者にはパネル展示・DVD上映による説明、施設内見学等を実施し、記念品を進呈する。

津山供給出張所での献血者数 36人	献血さくら祭り津山 開設一周年記念イ ベント	新規	津山市及び近隣の住民	4月		津山供給出張所の開設1周年に併せ、近隣住民を対象に模擬店、パネル展示、移動 採血車の配車等のイベントを実施する。当該イベントにより、献血をより身近に感じて いただき協力者が減少しがちな年度初めの献血者の確保に努める。
複数回献血者の目標値 。複数回クラブ会員へのメール による要請で応諾者数1,000人 以上および会員数2,400人増加	複数回献血者確保 事業	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	12回	引き続き、血液不足時の献血要請だけでなく通常時に複数回協力頂けるよう定期的 な依頼を行う。また、サイトスタンプを活用し、会員数を2,400人増加させる。
・同一献血会場での過去献血 者へのハガキによる献血要請 で応諾者12,500人以上	複数回献血者確保 事業	継続	同一献血会場での 過去献血者	4月～3月	4,200回 (要請回数)	同一献血会場での過去献血者(過去3回分について検索)へハガキによる要請を年間 4,200回行う。それにより事前周知を図るとともに、献血の重要性を認識していただく。
・年1回協力の(企業・団体)に 対し、20社に複数回実施への 移行を行う。	複数回献血者確保 事業	継続	年1回協力の(企 業・団体)	4月～3月		事業所等へ献血実施の依頼等で渉外活動を行う際、血液事業の現状を説明し年複 数回協力いただけるよう要請する。
その他の目標値 献血者1,400人/年	「Anniversary」献血 キャンペーン	新規・継続	全献血者	4月～3月		誕生日、結婚記念日等献血者の記念日に県稀有にいただいた場合、記念品を進呈す る。本人だけでなく、家族や知り合いの方へ周知いただくことにより新規、及びリピー ターの確保を図る。

エ. その他

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
血小板成分献血の実献血者を 4,800人確保する。	固定施設における 成分献血の確保	継続	血小板成分献血 協力者	4月～3月	20回	岡山市内の大学・専門学校等に「血小板成分献血の協力をお願い」ポスターの掲示、 およびチラシの配布を行い、固定施設での成分献血の参加を呼び掛ける。キャンペー ン期間中に学生証を提示して下さった方に記念品を贈呈する。
献血ルームでの400mL献血者 を3,000人増加させる。	固定施設における 全血献血の確保	継続	移動施設での400 mL献血協力者	4月～3月		移動施設での献血時に、移動施設でチラシを配布し、持参された方に記念品を贈呈 する献血キャンペーンを実施し安定的な全血献血の確保に努める。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

広島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 10代献血者数6,750人 献血率6.2%	献血セミナー	継続	中高生	平成25年4月～平成26年3月	20回以上	各学校	広島作成の献血推進用DVDの放映や、スライド学習等を利用し、献血を身近なものと感じてもらい、血液の重要性を訴えていく。
	卒業記念献血	継続	高校生	平成26年1月	随時	各学校	献血セミナー実施校に卒業献血協力をお願いし、400mL献血、初回、10代の献血者増加を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値 20代献血者23,800人 献血率8.2%	学内献血	継続	大学生	平成25年4月～平成26年3月	随時	各学校	献血実施前、又は実施時に献血教室を開催し、献血思想普及を図る。学内献血者数を500人増加させる。
	大学生セミナー	継続	大学生	平成25年6月・11月	2回	血液センター	献血実施前に献血セミナーを開催し、献血に対する理解や知識の向上を目指す。
その他の目標値 施設見学、体験学習等参加者 1,000人	赤十字プラザ見学研修	継続	小・中・高・大学生等	平成25年4月～平成26年3月	随時	血液センター	赤十字プラザの広報活動を行なうとともに、見学研修等を積極的に受け入れて献血啓発活動を行なう。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規サポーター33団体以上確保	献血協賛団体確保対策	継続	協賛未加入団体企業	平成25年4月～平成26年3月	随時	各事業所等	企業及び各大学等において渉外活動時に、サポーター加入を積極的にお願いし、協賛団体増加を図る。
各種ボランティア10団体の研修	ボランティア団体の研修会	継続	ボランティア団体	平成25年4月～平成26年3月	各1回以上	血液センター	各ライオンズクラブ、天理教広島教区等を対象とした研修会を行い、血液事業を取り巻く現状への理解度を高め、一層の協力要請を求める。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

広島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血クラブ新規会員数 5,600人	複数回献血クラブ 会員募集	継続	献血者	平成25年4月～平成26年3月	随時	複数回献血クラブ会員募集の広報活動を行なうとともに、採血現場における会員募集を実施する。
	年度内複数回献血 の促進	継続	初回・新規者	平成25年4月～平成25年12月	随時	初めてまたは久しぶりの献血への礼状を送付し、年度内の再来を促す。また複数回献血クラブ会員の増加に繋げる
その他の目標値 血小板献血要請応諾率27% 400mL献血要請応諾率40%	誕生月要請	継続	血小板成分献血者	平成25年4月～平成26年3月	12回	メール及びはがきを送付し、前年度献血協力者の再来を促す。
	地域献血要請	継続	400mL献血者	平成25年4月～平成26年3月	12回	メール及びはがきを送付し、前回献血参加会場への再来を促す。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
栄養士による栄養相談 固定施設・移動採血会場48回 実施	献血者健康増進事業	継続	献血参加者	平成25年7月～平成26年3月	固定施設35回 移動採血13回	献血できなかった献血申込者に対して、栄養士による健康相談を実施する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山口県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値:5.2%(2,500人) 20代の献血者及び献血率の目標値:7.9%(9,500人)	LOVE inAction 山口 腕まくりプロジェクト	継続	10代・20代の 献血協力者	通年	6,000		①「腕まくりポイントカード」
					6,000		②「腕まくりメール」
					52回	エフエム山口による情報番組	②「腕まくりハートフルリレー」
					20校	県内高校	②「腕まくり高校献血増加計画」
					25回	県内大学	②「腕まくり大学献血出店作戦」

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20社を目標	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協力企業・団体	通年			①ホームページによる募集
		継続		通年	200		②推進担当者による協力団体への個別訪問
		新規		通年	30		③各協力団体への説明会・研修会での募集
		新規		通年	600		④協力団体への文書による募集

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 (新規会員登録者数) 1,800人	複数回献血協力者確保事業	継続	年2回以上の 協力可能献血者	通年	25,000部	①クラブ情報誌の作成及び配布	
		継続		通年	25,000部	②新規会員登録用リーフレットの作成及び配布	
		継続		11月	1	③クラブ会員対象の講演会の開催	
		継続		通年		④血液不足時での緊急要請	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

徳島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率を6.2%にする	学内献血	継続	高校生	学校行事に合わせて	20回	各高等学校内	学内献血実施校数を増やし10代の献血者を確保する。
	マチ★アソビ	継続	若年層	イベントに合わせて	2回	イベントに合わせて	アニメイベント参加者に献血をPR
	JRC 献血キャンペーン	継続	若年層	12月、3月	2回	献血ルーム	JRC部員による献血キャンペーンを実施し同世代の献血者にPR
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率8.9%を維持	キャンパス献血	継続	大学生	学奉の予定に合わせて	1大学6回位	各キャンパス	キャンパス献血の実施回数を増やし若年層を確保
	クリスマス 献血キャンペーン	継続	若年層	12月	1、2回	献血ルーム、移動採血	学奉による献血キャンペーン
	バレンタイン 献血キャンペーン	継続	若年層	2月	1回	献血ルーム	学奉による献血キャンペーン
その他の目標値	血液ゼミナール	継続	小学生・保護者	夏休み期間中	12回	血液センター	センター近隣の市町村の教育委員会の承認を得、募集チラシを配布し参加者を募集し、センター見学、学習会を実施する。
	献血セミナー	継続	小・中・高校生	学校行事に合わせて	20回位	各学校にて	若年者を対象とし献血の重要性等を伝え、今後の献血予備軍とする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠企業・団体等を10社増やす。	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月	30回位	各事業所	新規事業所の開拓及び休眠企業・団体等の掘起しを保健所と連携して行う。
研修会、意見交換会を2回開催する。	献血協賛企業活動推進対策	継続	ライオンズクラブ担当者協賛企業担当者	7～8月	2回	未定	県下ライオンズクラブ担当者及び献血協力企業担当者に対し血液事業の現状説明と意見交換会を実施することで献血推進を図る。
献血サポーター企業・団体を5社増やす。	献血協賛企業活動推進対策	継続	献血協賛企業	通年	15回位	各事業所等	献血に協力いただいている企業・団体を訪問し、献血サポーターへの参加を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

徳島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規モバイル登録者数を 410名 (対前年度比110%)	複数回献血者 確保事業	継続	未登録献血者	通年	10回位	会員募集リーフレットを作成し、新規登録者数増加を図る。 学内、キャンパス献血実施時に10回程度サイトスタンプにて会員確保を図る。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

香川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目 標値 6.0% 2070名	高等学校献血	継続	高校生	通年	10回	高等学校	県内の公立、私立高校に献血バスを配車し、400ml献血を実施(目標450名)。
	若年層献血セミナー	継続	高校生	通年	5回	高等学校	血液センター職員による献血出前セミナー(目標500名)。
20代の献血者及び献血率の目 標値 9.0% 7920名	大学・専門学校献血	継続	大学・専門学生	通年	30回	大学・専門学校	県内の大学・短大、専門学校に献血バスを配車し、400ml献血を実施(目標1200名)。
	若年層献血セミナー	継続	大学・専門学生	通年	5回	大学・専門学校	血液センター職員による献血出前セミナー(目標500名)。
セミナー実施後アンケートを実施し、参加者800名のうち50%以上の方から、献血可能年齢に達した際に献血に行くとの回答を得る	小学校献血セミナー	継続	小学生(4・5・6年生)	通年	10回	小学校	血液センター職員による出前セミナー(目標800名)。
	小学生親子血液センター見学教室	継続	小学生(5・6年生)保護者	8月	5回	香川県赤十字血液センター	一日25組で5日間実施。献血セミナー及び血液センター施設内見学。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
25年度新規協賛企業20社	献血ルーム献血協賛企業	継続	献血ルーム周辺企業	通年	随時	献血ルーム	献血ルーム周辺企業に献血の協賛を呼び掛け(月約2社)。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ピコメール会員数 +1000名	ピコメール会員加入の推進	継続	献血者	通年	随時	会員数を年間で+1000名を目標とし、バス、ルームともに進捗状況を監視する。特に若年層への推進を強化。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

愛媛県赤十字血液センター

ア 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 16歳から19歳 2,821人 (年齢人口に対して5.5%とする)	高校献血出前講座	継続	高校生・教員	5月～2月	20校(20回)	県内高等学校	高等学校2年生、3年生を中心に外科医としての所長の体験談を交え、命の大切さを訴えと伴に献血の現状と、若年者層の献血が如何に重要であるかを説明し、献血協力を願う。
	中学献血出前講座	継続	中学生・教員	5月～2月	30校(30回)	県内中学校	中学校3年生を中心に外科医としての所長の体験談を交え、命の大切さを訴えと伴に献血の現状と、若年者層の献血が如何に重要であるかを説明し、献血可能年齢になった時の献血協力及び、生徒から保護者への献血協力呼び掛けを願う。
	高校献血実施	継続	高校生	5月～2月	40校	県内高等学校	校内献血については、平成24年度において35校以上を目標としているが、平成25年においては40校以上の校内献血を実施する。また、校長会、養護教員会、県教育委員会においての献血説明会を継続して実施をし、高等学校における献血実施への理解、協力を得る。また、献血実施までに学校ないでの保健委員会の生徒への献血説明会を実施。献血当日においては副作用に十分注意をし、現場職員の増員をする。個人情報(申込みの内容等)においても細心の注意を持って献血を実施する。
20代の献血者及び献血率の目標値 20歳から29歳 11,250人 (年齢人口に対して9.0%とする)	大学献血出前講座	継続	大学生・教員	4月～6月	7校(7回)	各大学	大学内において授業の一環として本献血出前講座を実施する。内容は医師として所長より血液事業の現状と、若年者献血の重要性を訴え学内献血等、協力を願う。
	大学サークル代表委員への献血講座	継続	大学生	5月～11月	4校(8回)	各大学	各大学サークルの委員会へ学生赤十字奉仕団の協力を得て、サークル代表の方々に献血講座と題して放課後等に講堂、またはサークルボックスにて献血の現状と献血協力を訴える。また、フェースブックやツイッター等の連絡網を願い広く大学生への呼びかけを願う。
	大学内献血実施	継続	大学生	4・5・7・11月	5校(11回)	各大学	ローターアクトクラブ協力によるフェイスブック等の活用も含め呼びかけをしていただく。また、大学サークルでの委員会から各サークルの学生献血を願う。当日の現場においては職員がパネル等、献血の現状をグラフなどにして学生へ協力を呼びかける。
	専門学校出前講座	新規	その他学生	5月～1月	4校(8回)	各専門学校	大学内において授業の一環として本献血出前講座を実施する。血液センター所長又は推進課職員により、血液事業の現状と若年者献血の重要性を訴え、学内献血実施及び献血ルームでの献血協力を願う。
その他の目標値 16歳から29歳の献血者 (4月～イベント締切までの11月までの8か月間に9,380人を目標とする。)	若年層献血アクションイベント	新規	16歳～29歳	12月	1回	松山市コミュニティーセンター文化ホール	12月に16歳から29歳の献血者を招いてのイベントを実施をするイベントには、大物アーティスト(歌手)をゲストに迎える。3部構成とし、1部が血液センター所長より血液事業の現状と若年者層の献血協力の重要性を訴える。また啓発DVDの鑑賞もする。2部においては、高校生ボランティア及び学生赤十字奉仕団員や大学サークルからの代表者をステージに招き、司会者、血液センター所長と献血についての討論会をする。3部には血液センター所長と大物アーティスト(歌手)によるクイズ、トークショーを行い献血啓発に努める。この後ゲストによるミニコンサートを実施し、最後に高校生ボランティア及び学生赤十字奉仕団員による献血宣言をもって終了とする。会場に招待する献血者は8月より約4か月間の間に献血をして頂いた16歳から29歳で抽選800人招待する。

イ 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業の増加 (15社/年)	新規事業所確保	継続	企業及び団体	4月～3月	15社	各事業所	現状において企業の献血者も減少している中で、移動採血車による献血者確保は引き続き新規事業所の参加が必至である。このため血液センター推進の新規開拓は勿論だが、行政(保健所)及び献血推進団体のライオンズクラブ会員へもお願いをし、年間15社の事業所を新規加入を目指す。

ウ、複数回献血協力者の確保対策

愛媛県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血登録者の目標値 (1200人/年)	複数回献血協力者確保強化キャンペーン	継続	献血協力者	4月～3月	移動採血車543回 配車 献血ルーム363回開所	献血者全員にリーフレットを配布しクラブ会員としての意思付けと複数回献血の意義を伝える。特に、企業・街頭・大学での新規の会員登録をお願いする。 また、ライオンズクラブ等の協力団体にもお願いし、会員からの紹介により新規登録者を確保する。献血ルームにおいては、血小板献血の複数回協力者を確保し、血小板確保に努める。メール会員を増やし成分献血の予約制度を充実させる。

エ、その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者数180名 (初回献血者15%)	夏の献血キャンペーン2013	継続	県民全般	7月	1回	大型商業施設内でのイベント開催をする。事前にラジオ等による番宣を行い、広く夏場の献血協力を呼びかける。高校生ボランティア・大学生ボランティアの協力を得て、広く献血者に呼びかける。またイベントステージによる若年者層の献血の現状等説明等実施する。また、ゲストによる集客および献血啓発呼びかけをし、献血者確保に努める。
献血者数150名 (初回献血者10%)	冬の献血キャンペーン2014	継続	県民全般	1月	1回	大型商業施設内でのイベント開催をする。事前にラジオ等による番宣を行い、二十歳の献血キャンペーン期間に伴い広く若年者層への献血協力を呼びかける。高校生ボランティア・大学生ボランティアの協力を得て、広く献血者に呼びかける。またイベントステージによる若年者層の献血の現状等説明等実施する。また、ゲストによる集客および献血啓発呼びかけをし、献血者確保に努める。
小学生親子体験教室 (25組の50名)	献血セミナー	継続	小学生・保護者	8月	5回	献血年齢に満たない小学生(高学年)を対象にセンター見学で献血に興味をもってもらい献血思想普及を図る。
中四国ブロック血液センター見学 (4団体40名参加、献血者は参加者の60%の24名)	献血セミナー	新規	高校生・大学生	8月	1回	日帰りバスツアーにて、中四国ブロックセンターを見学。地域センターにおいては、検査・製造過程の見学ができないため、血液センターの役割、献血の必要性を理解いただく。公募に関しては、(高校生)ヤングボランティア、(大学生)学生赤十字奉仕団・大学ボランティア・ローターアクトクラブの4団体からの参加依頼をし、40名の見学とする。また、参加者のうち6割(24名)以上の献血協力を頂くと共に、参加者は、自分の高等学校や大学内での校内献血において事前広報や、学生への呼び掛けをして頂きより広く若年者層の献血を推進していく。

3. 採血計画

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策
ア. 若年層献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目 標値 2,300人 献血率 8.0%	学内献血	継続	学生・一般	通年	15回	実施校 校内	・学域において入学時等に移動採血車を配車し、学生ボラン ティアとともに啓発と献血を実施する(事前広報等の強化)。
	はたちの献血	継続	学生・一般	1月	街頭1回(1月)	・ショッピングセンター	・関係機関・団体及び学生ボランティアによる街頭啓発を行い、 併せて献血を実施する。
	バレンタインデー	継続	学生・一般	2月	・街頭1回 (2月) ・ルーム1回 (2月 6日間)	・ショッピングセンター ・献血ルーム	・移動採血会場において学生ボランティアによる街頭啓発を行 い、併せて献血を実施する。 ・献血依頼ハガキを送付し、献血いただいた方に記念品を贈 呈する(献血ルーム)。新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)
	はた路の献血・減少 期対策 ※ 下記のエ.その他 に記載の事業						
	初回献血者確保	継続・新規	学生・一般	通年		・大学、専門学校等 ・各献血会場	・学域を中心に初回献血者の確保を強化する(事前広報等)。 ・初回者献血キャンペーンを実施する。 ・初回者中心の献血実施 ・初回者、初回者の紹介者に記念品贈呈 ・広告宣伝等の広報活動の実施 ・高等学校等での出前講座などを活用して、卒業後の献血推 進強化に取り組む。
20代の献血者及び献血率の目 標値 7,300人 献血率 11.7%	学内献血	}	上記10代の事業 に	同じ			
	はたちの献血						
	バレンタインデー						
	はた路の献血・減少 期対策 ※ 下記の エ.その他 に記載の事業						
	初回献血者確保	継続・新規	学生・一般	通年		・大学、専門学校等 ・各献血会場 (企業・事業所等を 含)	・学域を中心に初回献血者の確保を強化する(事前広報等)。 ・初回者献血キャンペーンを実施する。 ・初回者中心の献血実施 ・初回者、初回者の紹介者に記念品贈呈 ・広告宣伝等の広報活動の実施

3. 採血計画

イ. 企業等における献血の推進対策

高知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規登録12企業・団体	献血協力団体との連携強化	継続		通年			・渉外活動において、登録団体の確保と新規団体の開拓するとともに、会合等に積極的に参加し、情報提供に努める
ライオンズクラブ協力率23%	献血推進団体との連携強化	継続		通年	3回	中央公園、各事業所等	・ライオンズクラブ定例会(会長幹事会)、献血研究会に出席し、情報提供及び献血推進強化の依頼を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値	誕生月献血キャンペーン	継続	各月に誕生日を迎える献血者	通年	12回	・誕生月に献血ルームから献血依頼ハガキを送付し、献血者には記念品を提供する。	
複数回クラブ登録600名	複数回献血クラブ登録推進	継続	献血クラブ未登録献血者	通年		・複数回献血の呼びかけ強化し、複数回献血・登録に記念品を提供する。	
	クイックマッサージ	継続	献血希望者(献血ルーム)	11月～2月	1回 (延べ40日)	・献血呼びかけの新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)等で広報を実施し、複数回献血に結びつける(献血ルーム)。事前に周知用依頼ハガキの送付。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
献血者数200人、400構成比92%、若年層比率10%、複数回登録10名	[献血推進啓発] ・はた路の献血	新規	県西南地域の住民	4月又は5月	1回	・県西南地域の移動採血計画時に、学生ボランティアを動員し、献血推進の啓発・献血を実施する。若年層の献血者確保のため、実施日の工夫を検討する(土・日の実施)。	
ハガキ1,000枚送付 応諾率20%、献血者200人	[減少期対策] ・ゴールデンウィーク	継続	献血希望者	・街頭:4月中旬 ・献血ルーム (4月27日～5月6日前後)	・街頭 1回 ・献血ルーム	・学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。 ・献血依頼をハガキを送付し、献血者には記念品を贈呈する(献血ルーム)。	
ハガキ1,500枚送付 応諾率20%、献血者300人	[減少期対策] ・サマーキャンペーン	継続	献血希望者	7月～9月	3か月間	・関係機関・団体及び学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。(7月 1回) ・献血呼びかけの新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)等で広報を実施し、来所された方にアイスクリーム進呈し、複数回献血に結びつける(献血ルーム)。 事前に周知用依頼ハガキの送付。	
400mL実献血者60人×4回 合計 240名	[減少期対策] ・クリスマスキャンペーン	継続	献血希望者	12月	4回	・移動献血会場をメインに学生ボランティアによる啓発活動を行い、併せて献血を実施する。	
必要に応じてハガキ送付 応諾率20%	[減少期対策] ・血小板確保	継続	ルームでの成分既献血者	随時(通年)		・血小板の減少期に随時ハガキによる献血依頼を行い、確保の強化に努める。 依頼ハガキにより協力いただけた方に記念品を贈呈する。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福岡県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 11,218人	広報	継続	高校生	10月～3月	6	福岡市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	広報	継続	高校生	4月～3月	1	福岡市内	福岡市内中心部の循環バスに若者向けのメッセージを装したラッピングバスの運行
	キャンペーンの強化	継続	10代	8.12.1.2.3月	10	福岡県内	キャンペーン実施時にプロスポーツ団体のキャラクターによる呼び掛け
	高校献血推進	新規	高校生	4月～3月	1	福岡県内	臨時職員による高校の徹底的な推進を行い、実施率を16%⇒21%に引き上げる
20代の献血者及び献血率の目標値 45,662人	広報	新規	大学生・社会人	10月～3月	6	福岡市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	広報	新規	大学生・社会人	4月～3月	1	福岡市内	福岡市内中心部の循環バスに若者向けのメッセージを装したラッピングバスの運行
	広報	新規	大学生	4月～3月	1	福岡県内	県内10大学の食堂や売店の箸袋に献血に関する広告を載せ
	キャンペーンの強化	継続	10代	8.12.1.2.3月	10	福岡県内	キャンペーン実施時にプロスポーツ団体のキャラクターによる呼び掛け
	専門学校推進	新規	専門学校生	4月～3月	1	福岡県内	臨時職員による専門学校の徹底的な推進
その他の目標値 50回	献血セミナーの開催	継続	小・中・高・社会人	4月～3月	50	福岡県内	献血セミナーを実施し、高校献血や企業の献血につなげる

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実 施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
5社	入社式や研修等での献血やセミナーの実施	継続	主に新入社員	4. 5. 9. 10月	2	(株)ホンザキほか4社	入社式や研修時に新入社員を対象とした献血やセミナーを行い、若年層献血者を確保する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

福岡県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 3,300人	サイトスタンプーによる献血登録者確保	継続	複数回献血未登録の献血者	4月～3月	1	D.M.やチラシによる案内と献血会場で口頭による勧誘を行って登録者を募る。登録方法はサイトスタンプーを用いて行い、登録者には粗品を提供する。
その他の目標値 200人	スタンプキャンペーン	継続	献血者	8.12.1.2.3月	1	若年層確保対策のキャンペーン(サマー、クリスマス、はたちの献血、バレンタインデー、ホワイトデー)時に複数回献血をされた方に処遇品を提供する

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
19,405人	初回献血者紹介キャンペーン	継続	10～20代	4月～3月	1	学生献血推進協議会メンバーや献血者から献血経験のない方を紹介してもらうキャンペーンを実施して、初回率を10代を67%⇒70%、20代を22%⇒25%まで引き上げる
18大学	ボランティア組織の拡充(大学)	継続	大学生	4月～3月	1	学生献血推進協議会等のボランティア組織を16⇒18大学に拡充する
4校	ボランティア組織の拡充(専門学校)	継続	専門学校生	4月～3月	1	学生献血推進協議会等のボランティア組織を0⇒4校に拡充する

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

佐賀県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の 目標値 6.1%	高等学校における献血セミナー	継続	高校生	通年	10	学内	県・教育委員会等と協力し実施校及び未実施校に開催の働きかけを行う。
	大学・短大等における献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやすい雰囲気を作る。
	若年層献血キャンペーン	新規・継続	10代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品を配布する。
	広報における献血啓発	新規	10代の若年層	実施時期 未定	1	献血プラザさが・移動採血	啓発番組作成及びCMIによる広報、啓発用リーフレットの作成
	J1「サガン鳥栖」とのコラボ	新規	10代の若年層	実施時期 未定	1	未定	J1「サガン鳥栖」とのコラボによる若年層への献血啓発活動
	日赤佐賀県支部とのコラボ	新規	10代の若年層	通年	12	未定	高校等における各種講習会に併せての献血啓発活動
20代の献血者及び献血率の 目標値 8.2%	大学・短大等における献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやすい雰囲気を作る。
	若年層献血キャンペーン	新規・継続	20代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品を配布する。
	広報における献血啓発	新規	10代の若年層	実施時期 未定	1	献血プラザさが・移動採血	啓発番組作成及びCMIによる広報、啓発用リーフレットの作成
	J1「サガン鳥栖」とのコラボ	新規	10代の若年層	実施時期 未定	1	未定	J1「サガン鳥栖」とのコラボによる若年層への献血啓発活動
	日赤佐賀県支部とのコラボ	新規	10代の若年層	通年	12	未定	各種講習会に併せての献血啓発活動
その他の目標値 学生ボランティア新メンバー5名以上の確保	若年層献血セミナー	継続	大学・短大生	5月	1	血液センター	大学生・短大生等を対象に新学生ボランティア勧誘のための献血セミナーを血液センターで行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

佐賀県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間4回	協力団体並びに推進団体の紹介	継続	企業及び団体	4月・7月・10月・1月	4回	—	佐賀県の赤十字情報誌に各企業等の献血活動紹介や担当者の声を掲載する。
献血サポーター新規登録企業10社以上の確保	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	—	各企業	各企業及び献血協力団体へパンフレット・規約等を持参して推進を行う。
企業献血における献血者数を前年比5%以上増加させる。	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	—	各企業	各企業及び献血協力団体等の担当者に血液事業の現状等を説明して推進を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値1,700名	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者(未会員)	通年	—	複数回献血クラブ会員登録方法を記載したパンフレットを複数回献血協力者で未登録の方に配布する。サイトスタンプを利用促進して登録の簡便化を図る。	
その他の目標値 複数回献血者30%増	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年	—	複数回献血クラブ会員あてに献血者減少期を中心に複数回献血への協力を呼び掛ける。処遇時に次回献血可能日をお知らせして年2回以上きていただけるよう推進する。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
献血プラザさが(母体)献血者成分献血者20%増		継続	献血対象者	通年	—	過去1年間献血されていない方(約200人)へのダイレクトメール発信。母体周辺事業所への渉外活動の強化。	
献血プラザさが(母体)献血者400mL献血者10%増		継続	献血対象者	通年	—	過去1年間献血されていない方(約200人)へのダイレクトメール発信。母体周辺事業所への渉外活動の強化。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

長崎県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	高校献血の推進	継続	高校生	6月～2月	32	高等学校	17歳からの400mL献血を積極的に取り組み、献血セミナーの実施も増やしていく。私立高校(男子校)に比較し公立高校の実施率が低いため、学校訪問を積極的に実施し、学校側の理解を得るように推進を図る。また行政との連携を図りながら、一緒に学校訪問を実施する。
	献血セミナー	継続	中高校生	4月～3月	5	学校又は献血会場	県内中学209校、高校79校あり、平成24年度は、中学1校、高校3校程予定、実施しているが、引き続き献血セミナーを実施していくため、高校献血推進時には、校内献血に併せ献血セミナーの実施も含めて積極的に推進する。
	献血セミナー	継続	大学及び専門学校生	4月～3月	2	学校又は献血会場	学生ボランティアの育成強化を行う。キャンパス内での献血協力やボランティア募集のためのチラシ配布を行う。西九州地区で佐賀センターとの合同ボランティア研修会を今後も継続していく。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	大学献血の推進	新規	大学生	4月～3月	—	大学、短大	キャンパス献血では、専用の若年層用のポスター、チラシを作成し若年層へ献血を訴えていく。また大学内部に献血推進組織を立ち上げ、大学と連携しながら学生への献血推進を図る。ホームページに献血、輸血情報を掲載し、相互リンクにより情報を提供する。
	専門学校等	新規	専門学生等	4月～3月	—	専門学校、教育機関等	ビジネス専門学校、警察学校、看護学校、自衛隊教育隊等移動献血車を配車して積極的に献血の協力を呼びかける。
その他の目標値 23.2%以上	10代、20代の献血構成比率の向上	継続	警察学校等	4月～3月	—	学校又は献血会場	平成24年度上半期10、20代献血者の構成比率は、22.7%であり、平成23年度の23.2%と比較して減少傾向にあるので、自衛隊、警察学校等の教育訓練期間中の学生への献血推進を強化していく。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30社以上	新規又は掘り起し団体への献血推進	継続	企業又は団体	通年	—	固定施設及び移動採血	献血未実施企業・団体へ積極的に訪問し、血液の必要性や献血の方法について訴えていく。また、消防団等の訓練時に合わせた献血の実施についても推進していく。
50団体以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業又は団体	通年	—	—	献血実施いただいている企業、団体等にさらに登録をお願いする。今後も継続して献血支援を頂くためにも募集活動を続けていく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

長崎県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 研修会の参加人数を60名以上とする	複数回献血協力者 研修会	継続	複数回献血登録者	10月～11月	2回	ビデオ上映「ありがとう！っていっぱい言わせて」、赤十字健康生活支援講習(生活習慣病予防について)及びAED講習を開催する。
	200組(400名)	継続	複数回献血登録者及び献血協力者	11月	1回	献血協力者(複数回登録者)200組(400名)を映画上映に招待し、献血セミナー実施後、映画上映を行う。
その他の目標値 年間の実献血者で2回以上の複数回献血者の割合を30.6%にする	メールとハガキによる献血依頼	継続	複数回献血登録者及び献血依頼対象者	4月～3月	随時	キャンペーン期間、冬場等献血者確保が困難な時期を重点的に1年以内に協力頂いた献血者に対し、献血の依頼を行う。年間を通じて2回以上献血する実献血者の率を30.6%にする。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	西海ルームが平成3年に開設し、	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
月10台1車平均50名以上	休日献血の拡大	継続	献血者	通年	年間120回	商業施設や企業、地域のイベント等に合わせた休日献血を拡大していく。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

熊本県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値:6.2%	「はじめよう献血」キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	16～19歳の方(主に400mL献血対象者)	通年予定	1回	全献血会場	県内の高校生及び専門学校生を対象に、リーフレット(献血推進及びキャンペーン告知)を作製し、学校から配布をしてもらい初回献血者確保と併せて推進を図る。 また、オリジナルグッズを作製し献血者に配布。 更に、若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等により周知を図る。
	献血セミナー	継続	高校(高校生)	通年	15回(献血と併せ15校)	県下高等学校	献血未実施校の開拓、献血セミナーを通じ採血車の配車及び献血ルームでの献血協力を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値:8.5%	「はじめよう献血」キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	20歳代の方(主に400mL献血対象者)	通年予定	1回	全献血会場	オリジナルグッズを作製し献血者(10,20代)に配布。 若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等を通じ、周知を図る。 また、献血経験者にダイレクトメールを送付し、キャンペーン周知を図る。
	新成人への周知	継続	新成人	1月	1回	県下成人式会場	リーフレットを作成し、市町村を通じ新成人に配布。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ロゴマーク配布数累計50社以上	献血協力企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年		献血実施に係る打ち合わせ場所	献血協力企業・団体への依頼。情報誌でのロゴマークの募集PR。
県下全ライオンズクラブ献血研修会(58クラブ会員参加)	献血協力団体協力増加対策	継続	ライオンズクラブ会員	8月～9月	1回	血液センター内	パワーポイントと推進用DVDを活用して献血の現状や必要性を伝える。(高校献血実施に係る推進)
県下全保健所管内会議(企業60社・30団体参加、他10保健所・43市町村・30支所出席) H25年度400mL目標40,913人	献血協力企業協力増加対策	継続	企業・団体	2月～3月	10回	各保健所	例年、保健所主催で管内の市町村と企業・団体の献血担当者を招集し、献血の現状等を説明し啓発する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値:平成23年度における年間1回のみ献血協力者70.1%⇒65.0%とし、約2,500人の複数回献血協力者増を目指す。	One More 献血キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	各献血会場、400mL献血を協力し、期間中更に400mL献血を協力された方	・平成25年4月1日 ～同30日 ・平成25年9月1日 ～平成26年3月31日	1回	期間中、県下各献血会場において400mL献血を協力された方にキャンペーンカードを渡し、同カード持参者にオリジナルグッズを配布する。 生活情報誌、ラジオ等メディアを通じた周知により推進を図り、「はじめよう献血」キャンペーンと連動させ若年層献血者確保にもつなげる。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大分県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	若年者献血セミナー	継続	高校生	通年	10	各学校	県内の高校を行政担当と訪問し、校内献血を含め献血セミナーの実施を依頼する。
	学内400mL献血キャンペーン	継続	高校生	通年	8	献血実施校	高校生が好む処遇品を進呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	学生献血サポーター	継続	学推協加盟の学生	7月	1	サッカードーム他	探血バスに同行し、献血会場周辺での献血啓発や大分トリニータのホームゲーム前に、ピッチにて献血協力の依頼をサポーターに向けて呼びかける。
	二十歳の献血街頭広報	継続	成人者(二十歳)	1月	1	成人式会場	献血に関する展示ブースを成人式会場に設け、新成人に献血を理解していただくための啓発を行う。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	学推協・地域住民	12月	1	血液センター	運営は学生献血推進協議会が実施し、参加学生が献血の啓発とともに自ら献血を実施する。また、赤十字事業の紹介や体験をしていただいたり、出店や舞台でのイベントを実施し、地域住民の参加や献血を行う。
その他の目標値参加者100名	親子けんけつ教室	継続	小学生親子	8月	2	献血ルーム・九州BBC	献血の現場や九州BBCを見学し、献血の必要性を理解していただき、将来の献血者を確保する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーターロゴマーク100社配布	献血者安定確保	継続	献血協力企業(団体)	通年	週1回	県内	地方紙の夕刊に週1回献血協力団体へお礼のメッセージを掲載する。協力事業所の社会貢献PRにもなるため、渉外による協力依頼にも有効である。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

大分県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員100名増 複数回献血者660名増	広報誌発行	継続	会員・年1回献血者	6・9・12・3月	4	広報誌を年4回発行し、会員はもとより、年1回の献血者へも広報誌を送付し、献血の現状を理解いただき、2回・3回の献血協力へ導く。
	会員募集	継続	献血者	通年	—	QRコード入りの募集チラシを献血者へ配布する。
	献血協力依頼	継続	既献血者	通年	—	同献血会場での過去3年の献血者へ、DMIによる献血依頼を実施する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
採血/バス1車当たり400mL献血者50.5人確保(H24:49人)	LC献血セミナー及び研修会	継続	LC会員	7月・11月	2	県内35LC献血の推進拡大、会員も献血知識向上や更なる献血の重要性の理解を図るため、セミナー(110名参加)の開催及び九州BBC(40名参加)の視察等を実施し、LC協力献血での献血者を増やしていただく。
採血/バス1車当たり400mL献血者50.5人確保(H24:50人)	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動採血/バス献血者	通年	5	年間5回(各1ヶ月)献血者安定確保キャンペーン(処遇品のプラスワン)を実施する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

宮崎県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,700人 6.2%	高校集団献血	継続	高校生	5月～1月	20回	各高校	高校における集団献血の実施
	大学集団献血	継続	大学生	4月～12月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校集団献血	継続	専門学校生	4月～12月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血
20代の献血者及び献血率の目標値 8,815人 8.8%	大学集団献血	継続	大学生	4月～12月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校集団献血	継続	専門学校生	4月～12月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血
その他の目標値 1,000人 (献血ふれあい事業600人) (献血セミナー400人)	献血ふれあい事業	継続	小中学生・保護者	7月～2月	15回	各学校・献血会場・献血ルーム	小学校・中学校等に出向いての献血車・血液運搬車の見学会や献血会場での献血クイズやDVD上映、献血ルーム見学会など。
	献血セミナー	継続	中学性・高校生	7月～2月	10回	各学校・献血ルーム	中学校や高校に出向いての献血セミナーの開催。献血ルームの見学会など。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血者 1,200人	町、総ぐるみ献血参加運動	継続		4月～3月	20回	市町村・公民館等	献血推進における行政(保健所・市町村)との連携を再構築するための方策、再構築を通じて献血者増の推進を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 11,000人	ハガキ要請	継続	献血者	通年	50回	街頭献血やイベント献血の際にご協力をいただいた献血者に同会場での献血実施の際にハガキ要請を行う。	
	献血ありがとう(ポイントカード)	継続	献血者	通年		献血ルームの献血者を対象にポイントカード(5回献血)で特別記念品をプレゼント。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
PCHLA登録者 200人	PCHLA登録者募集	継続	血小板成分献血者	通年		献血ルームでの血小板成分献血者を対象にPCHLA登録の推進を図る。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鹿児島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.1%	ヴォーカリストオーディション	継続	オーディション参加希望者	6月、7月、8月	3	研修ホール	地元ラジオ局とのタイアップにより、ヴォーカルオーディション参加者へ献血推進を行う。
	高校出前講座	継続	17歳以上高校生	4月～3月	30	各学校	17歳～18歳学生を対象とした出前講座を実施し、献血に対する理解を深めていただく。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.6%	ヴォーカリストオーディション	継続	オーディション参加希望者	6月、7月、8月	3	研修ホール	地元ラジオ局とのタイアップにより、ヴォーカルオーディション参加者へ献血推進を行う。
その他の目標値 ・360名 ・70名	キッズ献血	継続	小学生高学年及びその保護者	8月	2	血液センター他	小学生に献血を模擬体験してもらうことで献血の重要性といのちの大切さを学んでもらう。
	職場体験学習	継続	中学生	5月、7月、10月、1月、2月	10	血液センター、献血ルーム	献血可能年齢を目前に控えた中学生へのいのちの大切さや献血の重要性について学んでいただき将来の献血への動機づけを行う

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60名	各団体・事業所 献血担当者研修会	新規・継続	各団体・事業所 献血担当者	未定	3	未定	各団体及び事業所の献血担当者へ献血に関する研修会へ参加していただき献血推進を強化していただく

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

鹿児島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 360名	抽選会	継続	複数回献血クラブ 会員	献血者減少月(11～)	6	複数回献血クラブ会員に対しイベント(抽選会)を実施する。なお、血液不足時とする。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者各15名	母体 午後の献血イベント	継続	固定施設献血者	4ヶ月おき	3	午後の献血者が少ないことに伴い、午後のイベントを実施する。
当日1稼働50名	献血ルーム めっちゃ抹茶DAY	継続	固定施設献血者	10月～3月	24	ホリスティックヘルスのお茶講座を用いた血小板・400mL献血者確保
当日1稼働50名	献血ルーム血小板 400献血感謝DAY	継続	固定施設献血者	10月～3月	12	ネイル・ハンドマッサージを用いた献血者確保
当日1稼働50名	新春お琴の初音 コンサート	継続	固定施設献血者	1月	2	献血者を招待しコンサートを実施することで、複数回献血者の増加を目的とする。
当日1稼働70名	HHPかごしま X'masコンサート	継続	固定施設献血者	12月	1	献血者を招待しコンサートを実施することで、複数回献血者の増加を目的とする。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

沖縄県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率 6.2%	高校献血教室	継続	高校生	通年	37	県内各高校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	高校生	通年	15	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	40	各高等学校	各高校における献血の実施。17歳男子400ml献血の推進。
	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率 8.2%	大学、専門 献血教室	継続	大学生、専門学校生	通年	15	県内各大学、専門学校	学生対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映、学生ボランティア呼び掛け等。
	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。学推協の呼び掛け協力。
小・中学校献血教室を3回以上 就業体験受入を5校以上	小、中献血教室	継続	小、中学生	通年	3	県内各小中学校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	中学生	通年	5	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血団体 20	新規献血団体訪問及び献血実施	継続	献血未実施団体	通年	30	各事業所	献血未実施団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。
休眠献血団体 10	休眠献血団体訪問及び献血実施	継続	3年以上献血休眠団体	通年	15	各事業所	献血実施が3年以上途絶えている団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

沖縄県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
3,800名	複数回献血協力者確保	継続	登録者	平成25年4月～3月	6回以上	年間を通し、緊急時、不足時及び夏場、冬場の血液不足の時期にメール等で協力依頼する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
840名(月70名登録目標)	複数回クラブ会員 勧誘強化	継続	男64才、女性54才迄	4月.7月.10月.1月	4回	統一システムより、男性64才、女性54才迄の方で、50kg以上の献血可能な未登録者を対象に3ヵ月ごとに封書にて勧誘依頼する。移動場所、ルームでも常時配布